

白石市
子どもの生活に関する実態調査
【結果報告書】

平成 30 年 3 月

白石市

目 次

I. 子どもの生活に関するアンケート調査結果	1
1 調査概要	2
2 保護者アンケート調査・集計結果.....	5
1) 生活困難層の割合について.....	5
2) 回答者などについて	5
3) 子どもの生活状況について.....	9
4) お子さんの学習環境・将来について.....	18
5) 日ごろの生活について	21
6) 仕事について.....	25
7) 世帯のことについて	29
8) 子育てに関する支援制度のことについて	37
3 児童・生徒アンケート調査・集計結果.....	40
1) 回答者について.....	40
2) 家での生活のことについて.....	44
3) 学校での生活について	56
4) 回答者の悩みや友だちなどについて.....	61
II. 関係機関等ヒアリング調査結果	73
1 調査概要	73
2 調査結果のまとめ（主な調査ポイント）.....	75

I. 子どもの生活に関するアンケート調査結果

1 アンケート調査概要

1) 調査目的

本調査は、子育てしやすい環境づくりと一人ひとりの子どもの状況に応じた支援方法を検討するため、子どもや家庭の実態などを把握する基礎資料収集を目的として実施します。

2) 調査対象、期間等

■調査対象：①保護者アンケート

- ・市内在住のうち、0～18歳の子どもがいる世帯の保護者
(無作為抽出、1400世帯/うち500世帯は10歳以上の子どもがいる世帯)
- ・市内の小学校5年生・中学校2年生の子どもがいる世帯の保護者(600世帯)

②児童・生徒アンケート

- ・市内在住のうち、10～18歳の児童・生徒(無作為抽出、500世帯)
- ・市内の小学校5年生・中学校2年生の児童・生徒(600世帯)

■調査期間：平成30年1月29日～2月13日

■調査方法：①保護者アンケート・・・郵送による配布・回収

②児童・生徒アンケート・・・保護者アンケートへの同封による配布・回収

	調査対象者数 (配布数)	回収件数	回収率
保護者アンケート	2,000件	877件	43.9%
児童・生徒アンケート	1,100件	408件	37.1%

3) 分析の方法

本調査においては、県から示された世帯人数と可処分所得（手取り収入）による貧困区分を基に、「生活困難層」（貧困線を下回る層）と「非生活困難層」（貧困線を上回る層）を抽出し、分析しました。

なお、この調査結果は今回の調査方法による限られた回答から算出したものであり、本市すべての状況ではない点に注意が必要です。

また、本調査では、世帯人数と可処分所得（手取り収入）の回答結果のみで生活困難層と非生活困難層を区分しており、生活困難層にあてはまる世帯すべてが、実際の生活に困難を抱えていると断定するものではありません。

【県から示された世帯人数別可処分所得による貧困区分】

世帯人数	生活困難層	非生活困難層
2人世帯	175万円未満	175万円以上
3人世帯	210万円未満	210万円以上
4人世帯	245万円未満	245万円以上
5人世帯	275万円未満	275万円以上
6人世帯	300万円未満	300万円以上
7人世帯	325万円未満	325万円以上
8人世帯	345万円未満	345万円以上
9人以上世帯	365万円未満	365万円以上

■留意点：保護者アンケートの回収件数 877 件のうち、世帯人数と可処分所得の不明・無回答が 182 件であった関係から、貧困区分が明確となった件数は、695 件となりました。これらの分析の結果、今回の調査において保護者の「生活困難層」は 62 件、児童・生徒の「生活困難層」は 32 件となりました。

4) アンケート調査結果の見方

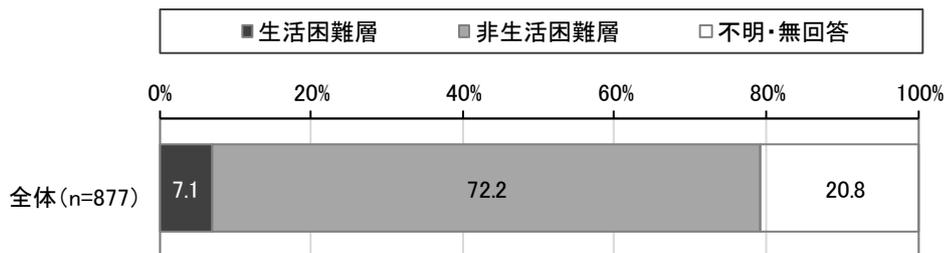
- 回答結果の割合「%」は有効サンプル数に対して、それぞれの回答数の割合を小数点以下第2位で四捨五入したものです。そのため、単数回答（複数の選択肢から1つの選択肢を選ぶ方式）であっても合計値が100.0%にならない場合があります。このことは、本報告書内の分析文、グラフにおいても反映しています。
- 複数回答（複数の選択肢から2つ以上の選択肢を選ぶ方式）の設問の場合、回答は選択肢ごとの有効回答数に対して、それぞれの割合を示しています。そのため、合計が100.0%を超える場合があります。
- 図表中において「不明・無回答」とあるものは、回答が示されていない、または回答の判別が困難なものです。
- グラフの「n」の数は、設問に対する有効標本数（集計対象者総数）を表しています。

2 保護者アンケート調査・集計結果

1) 生活困難層の割合について

■ 生活困難層の全体に占める割合（問 23、25）

生活困難層が 7.1%、非生活困難層が 72.2%となっています。

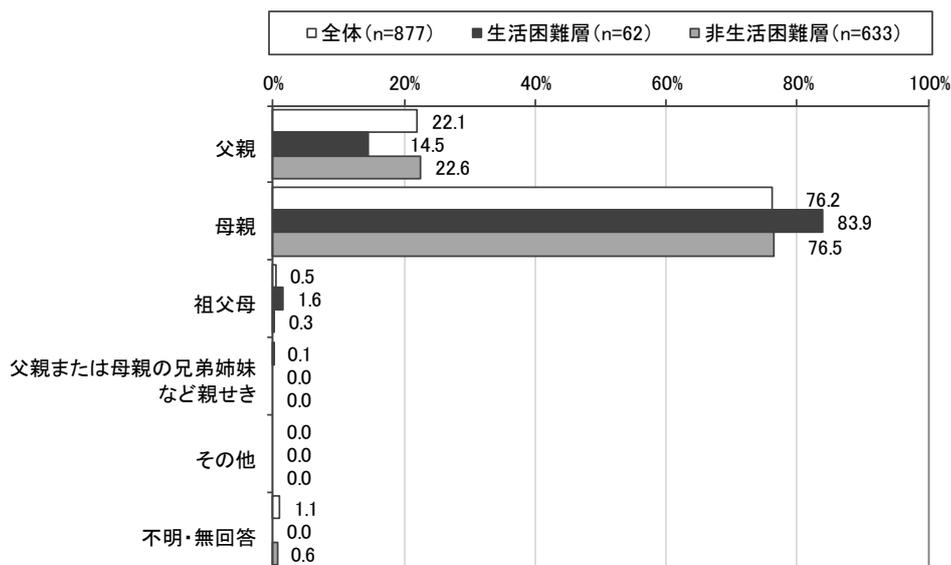


2) 回答者などについて

問 1 お子さんからみた、あなた（回答者）の続柄をお答えください。（単数回答）

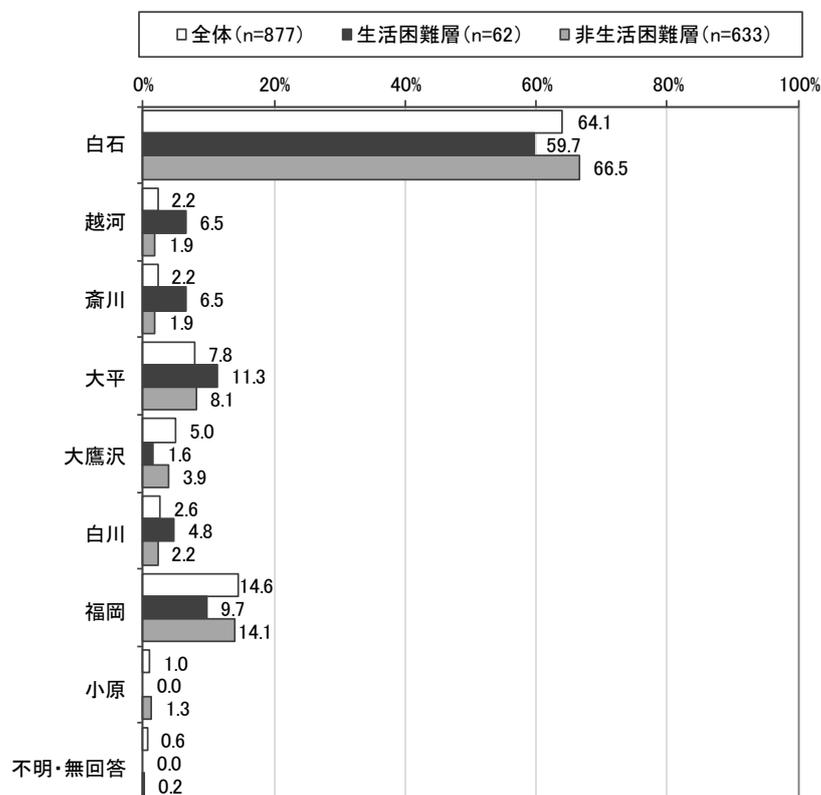
全体をみると、「母親」が 76.2%と最も多く、次いで「父親」が 22.1%となっています。

生活困難層をみると、多い項目は全体と同じですが、非生活困難層と比べると、「父親」が 8.1ポイント少なく、「母親」が 7.4ポイント多くなっています。



問 2 お住まいの地区名をお答えください。(単数回答)

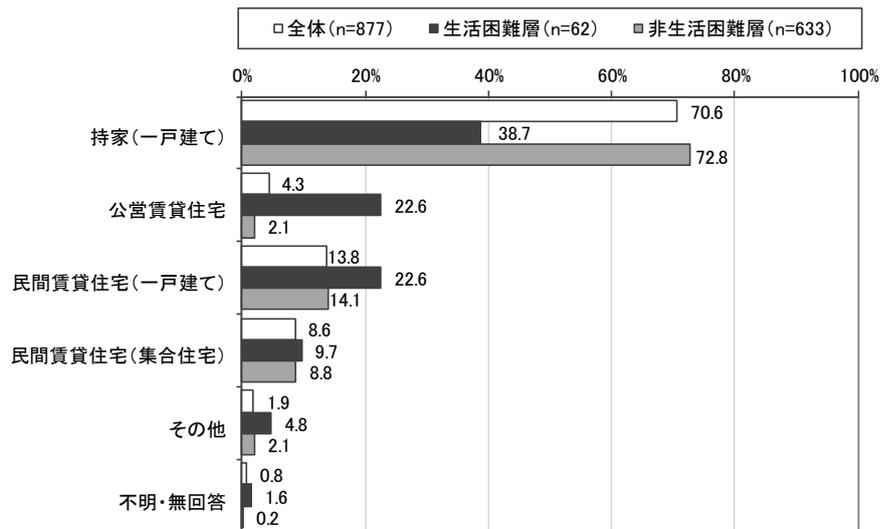
全体をみると、「白石」が64.1%と最も多く、次いで「福岡」が14.6%となっています。
生活困難層をみると、「白石」が59.7%と最も多く、次いで「大平」が11.3%となっています。
非生活困難層と比べると、「白石」が6.8ポイント少なくなっています。



問 3 現在、お住まいの住居形態を教えてください。（単数回答）

全体をみると、「持家（一戸建て）」が70.6%と最も多く、次いで「民間賃貸住宅（一戸建て）」が13.8%となっています。

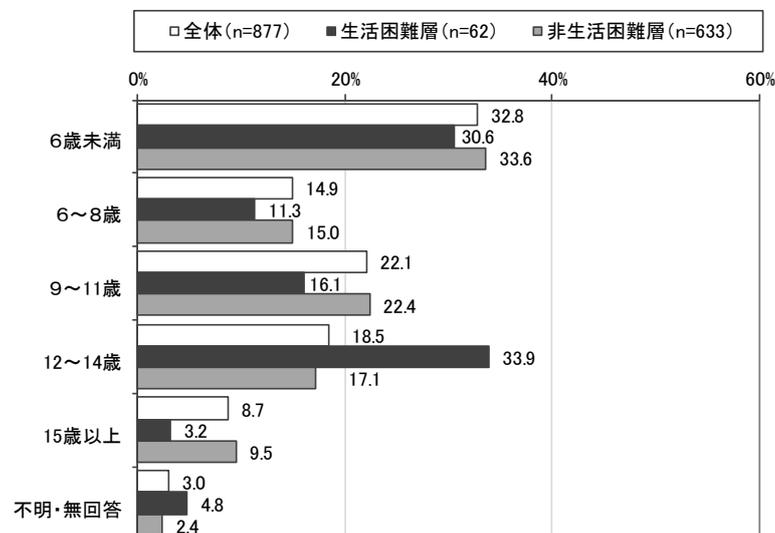
生活困難層をみると、「持家（一戸建て）」が38.7%と最も多く、次いで「公営賃貸住宅」と「民間賃貸住宅（一戸建て）」がともに22.6%となっています。非生活困難層と比べると、「持家（一戸建て）」が34.1ポイント少なく、「公営賃貸住宅」が20.5ポイント、「民間賃貸住宅（一戸建て）」が8.5ポイント多くなっています。



問 4 お子さんの平成 29 年 4 月 1 日現在の年齢を教えてください。（数字記入）

全体をみると、「6歳未満」が32.8%と最も多く、次いで「9～11歳」が22.1%となっています。

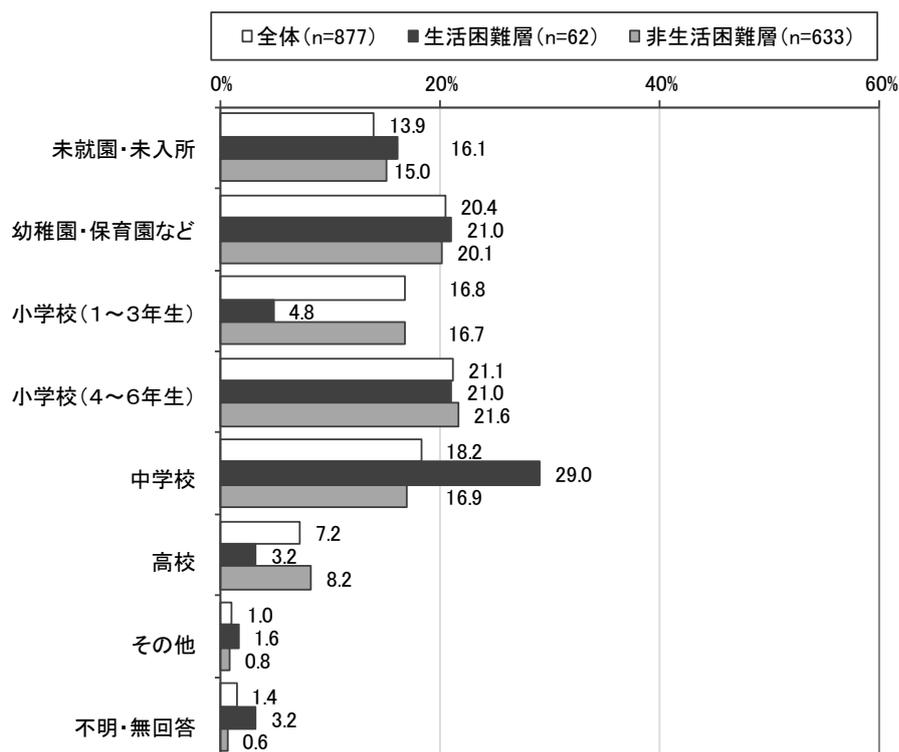
生活困難層をみると、「12～14歳」が33.9%と最も多く、次いで「6歳未満」が30.6%となっています。非生活困難層と比べると、「12～14歳」が16.8ポイント多く、「9～11歳」と「15歳以上」がともに6.3ポイント少なくなっています。



問 5 お子さんが現在通っている学校教育機関などを教えてください。(単数回答)

全体をみると、「小学校(4～6年生)」が21.1%と最も多く、次いで「幼稚園・保育園など」が20.4%となっています。

生活困難層をみると、「中学校」が29.0%と最も多く、次いで「幼稚園・保育園など」と「小学校(4～6年生)」がともに21.0%となっています。非生活困難層と比べると、「中学校」が12.1ポイント多く、「小学校(1～3年生)」が11.9ポイント、「高校」が5.0ポイント少なくなっています。

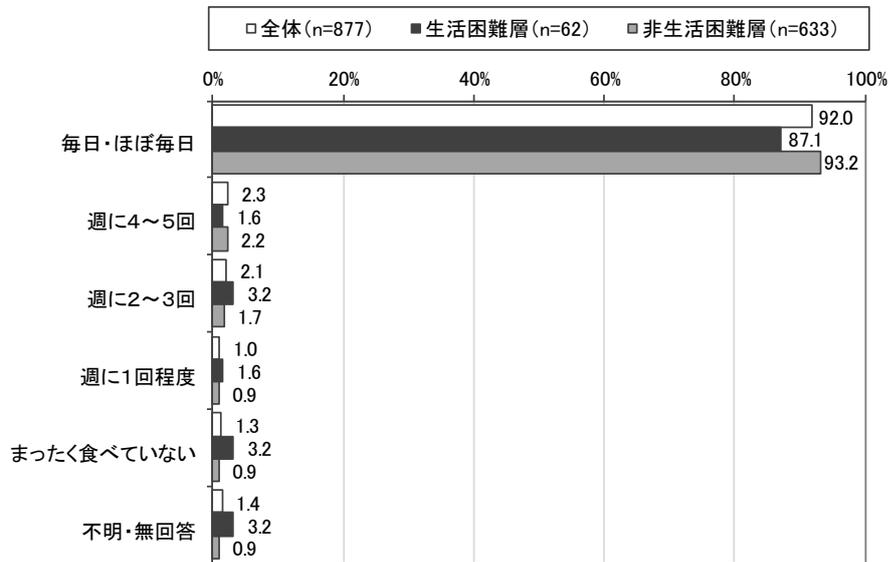


3) 子どもの生活状況について

問 6 お子さんは、週にどのくらい、朝ごはんを食べていますか。(単数回答)

全体をみると、「毎日・ほぼ毎日」が92.0%と最も多く、次いで「週に4～5回」が2.3%となっています。

生活困難層をみると、「毎日・ほぼ毎日」が87.1%と最も多く、次いで「週に2～3回」が3.2%となっています。非生活困難層と比べると、「毎日・ほぼ毎日」が6.1ポイント少なくなっています。

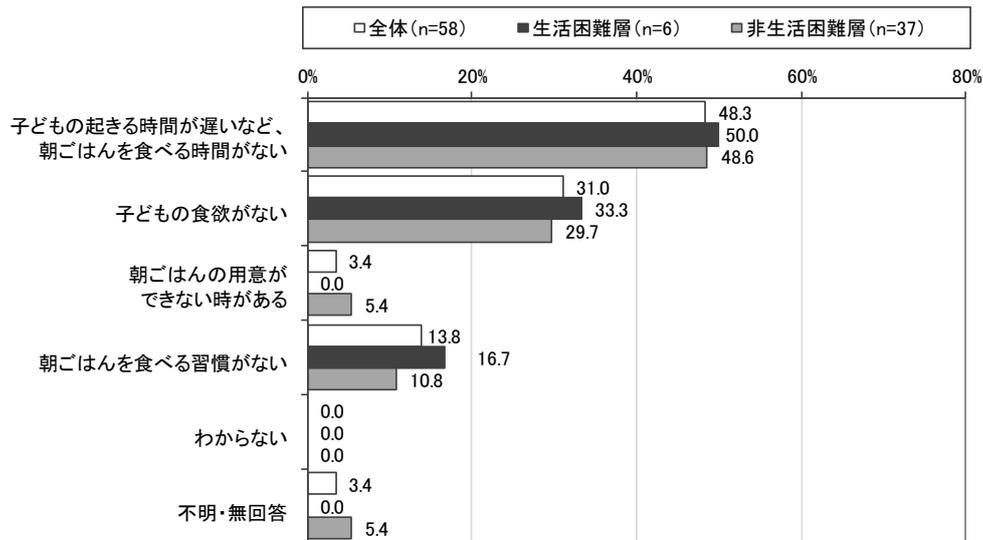


問6で「毎日・ほぼ毎日」以外を選んだ人

問 7 お子さんが朝ごはんを食べない時、その理由は何ですか。(単数回答)

全体をみると、「子どもの起きる時間が遅いなど、朝ごはんを食べる時間がない」が48.3%と最も多く、次いで「子どもの食欲がない」が31.0%となっています。

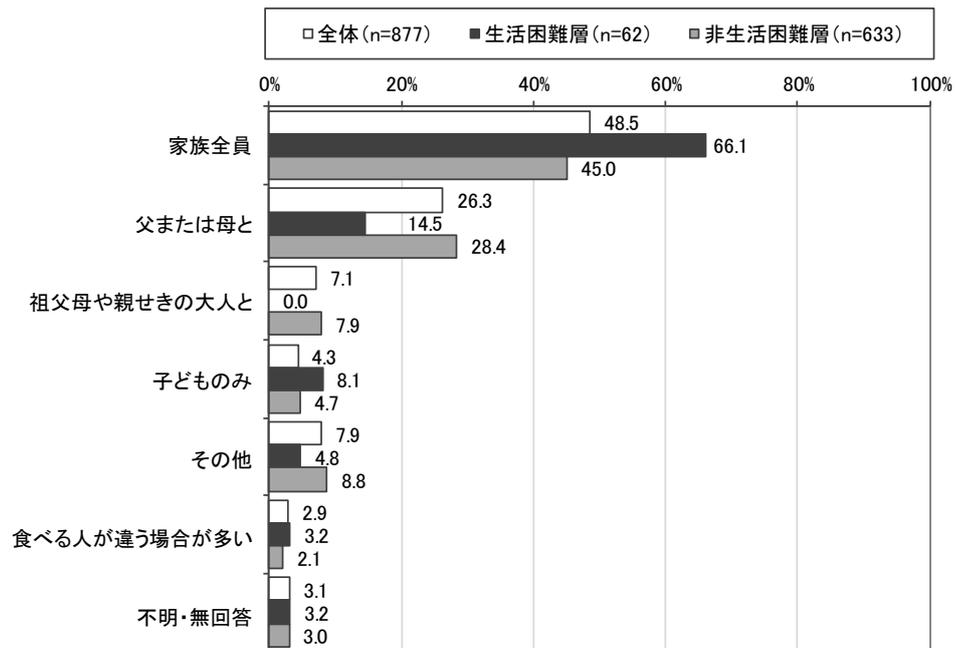
生活困難層をみると、多い項目は全体と同じですが、非生活困難層と比べると、「朝ごはんを食べる習慣がない」が5.9ポイント多く、「朝ごはんの用意ができない時がある」が5.4ポイント少なくなっています。



問 8 お子さんは、普段、晩ごはんを誰と食べることが多いですか。(単数回答)

全体をみると、「家族全員」が48.5%と最も多く、次いで「父または母と」が26.3%となっています。

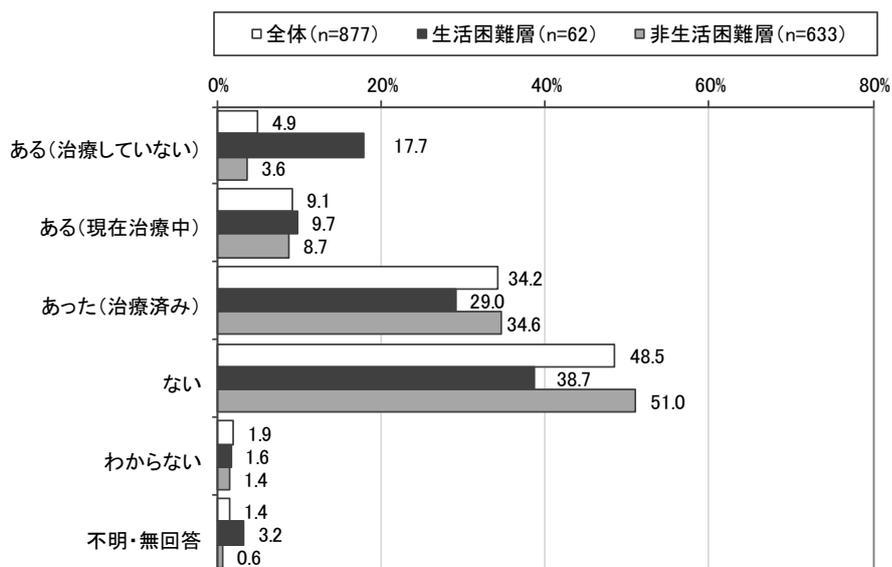
生活困難層をみると、多い項目は全体と同じですが、非生活困難層と比べると、「家族全員」が21.1ポイント多く、「父または母と」が13.9ポイント、「祖父母や親せきの大人と」が7.9ポイント少なくなっています。



**問 9 お子さんには、現在むし歯がありますか。または過去にむし歯がありましたか。
(単数回答)**

全体をみると、「ない」が48.5%と最も多く、次いで「あった(治療済み)」が34.2%となっています。

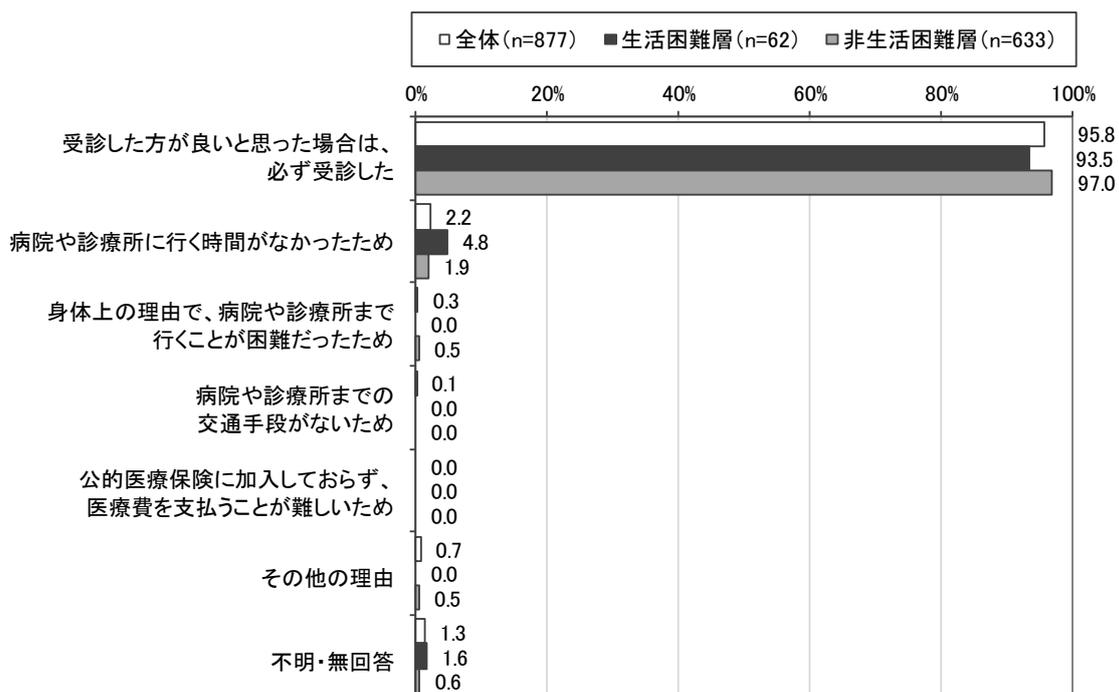
生活困難層をみると、多い項目は全体と同じですが、非生活困難層と比べると、「ある(治療していない)」が14.1ポイント多く、「ない」が12.3ポイント、「あった(治療済み)」が5.6ポイント少なくなっています。



問 10 あなたのご家庭では、お子さんが過去1年間に、治療が必要な病気やけがにも関わらず、病院や診療所を受診できなかったことがありますか。(単数回答)

全体をみると、「受診した方が良かった場合は、必ず受診した」が95.8%と最も多く、次いで「病院や診療所に行く時間がなかったため」が2.2%となっています。

生活困難層と非生活困難層をみると、全体とほぼ同様の傾向となっています。

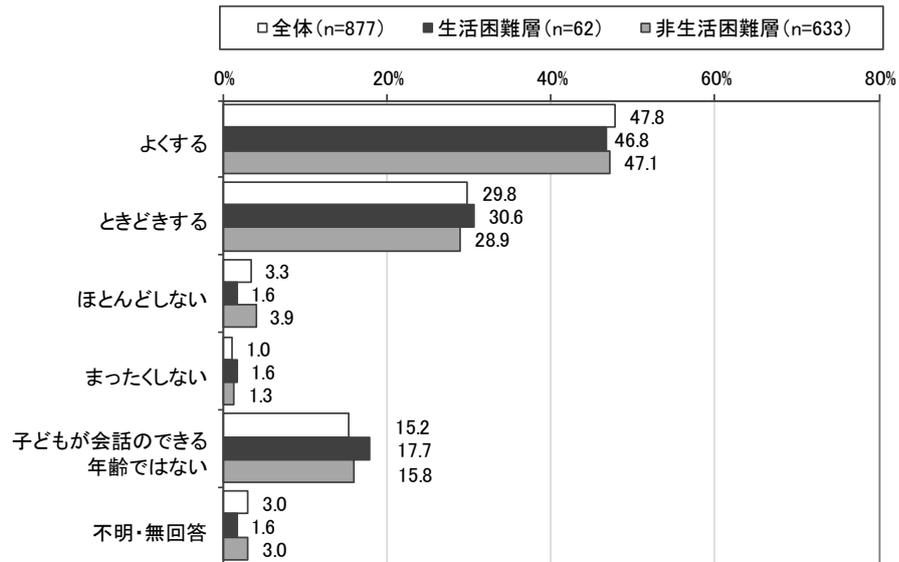


問 11 次の「ア」～「オ」のお子さんとの会話について教えてください。(単数回答)

(ア) 学校、幼稚園、保育園などでの出来事について

全体をみると、「よくする」が47.8%と最も多く、次いで「ときどきする」が29.8%となっています。

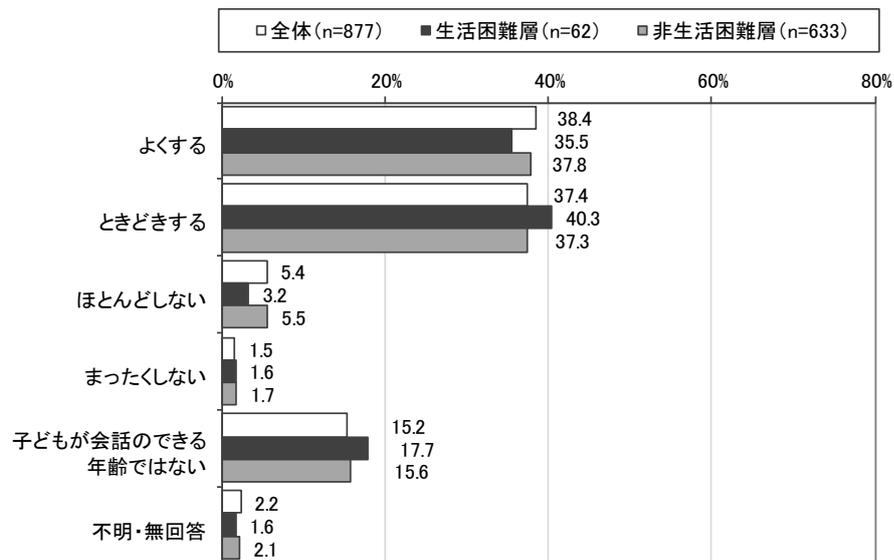
生活困難層と非生活困難層をみると、全体とほぼ同様の傾向となっています。



(イ) 友だちとのことについて

全体をみると、「よくする」が38.4%と最も多く、次いで「ときどきする」が37.4%となっています。

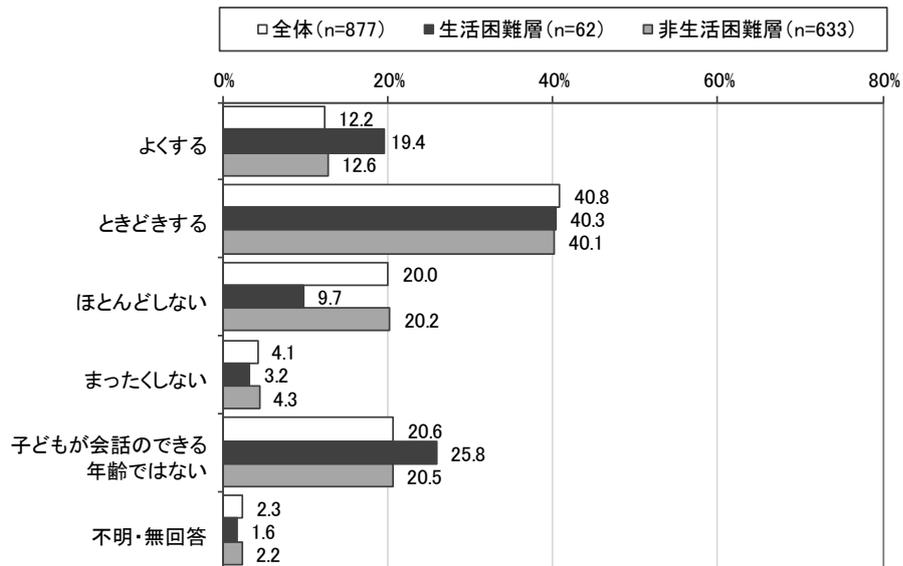
生活困難層と非生活困難層をみると、全体とほぼ同様の傾向となっています。



(ウ) お子さんの将来や進路について

全体をみると、「ときどきする」が40.8%と最も多く、次いで「子どもが会話のできる年齢ではない」が20.6%となっています。

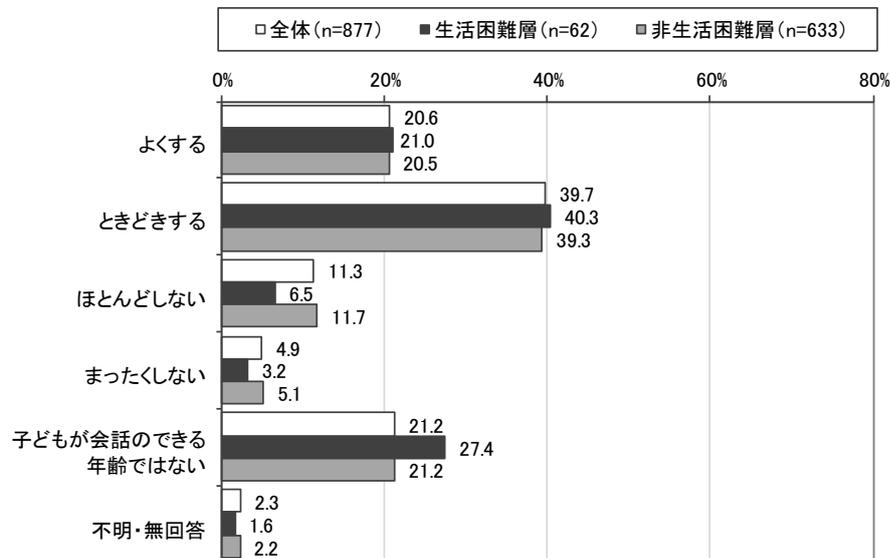
生活困難層をみると、多い項目は全体と同じですが、非生活困難層と比べると、「ほとんどしない」が10.5ポイント少なく、「よくする」が6.8ポイント、「子どもが会話のできる年齢ではない」が5.3ポイント多くなっています。



(エ) お子さんの勉強や成績について

全体をみると、「ときどきする」が39.7%と最も多く、次いで「子どもが会話のできる年齢ではない」が21.2%となっています。

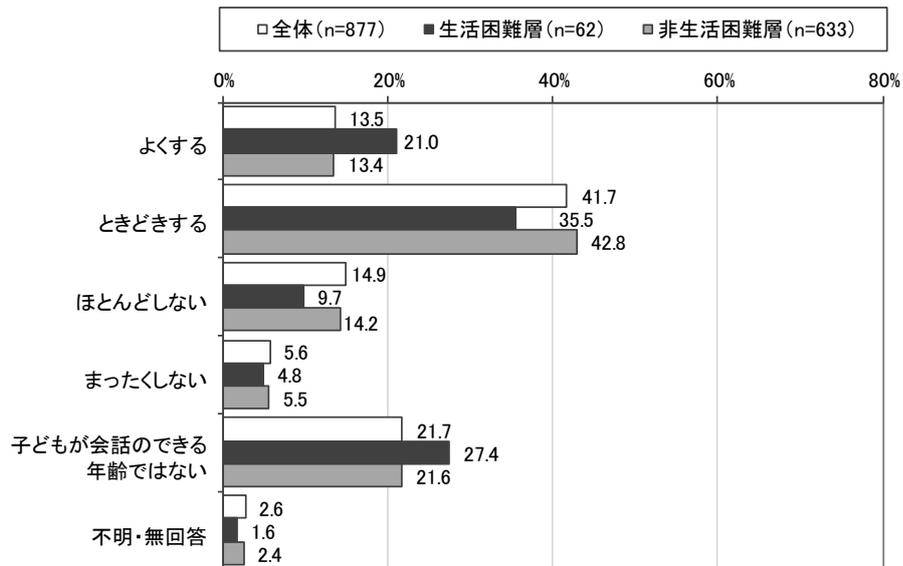
生活困難層をみると、多い項目は全体と同じですが、非生活困難層と比べると、「子どもが会話のできる年齢ではない」が6.2ポイント多く、「ほとんどしない」が5.2ポイント少なくなっています。



(オ) 社会の出来事やニュースについて

全体をみると、「ときどきする」が41.7%と最も多く、次いで「子どもが会話のできる年齢ではない」が21.7%となっています。

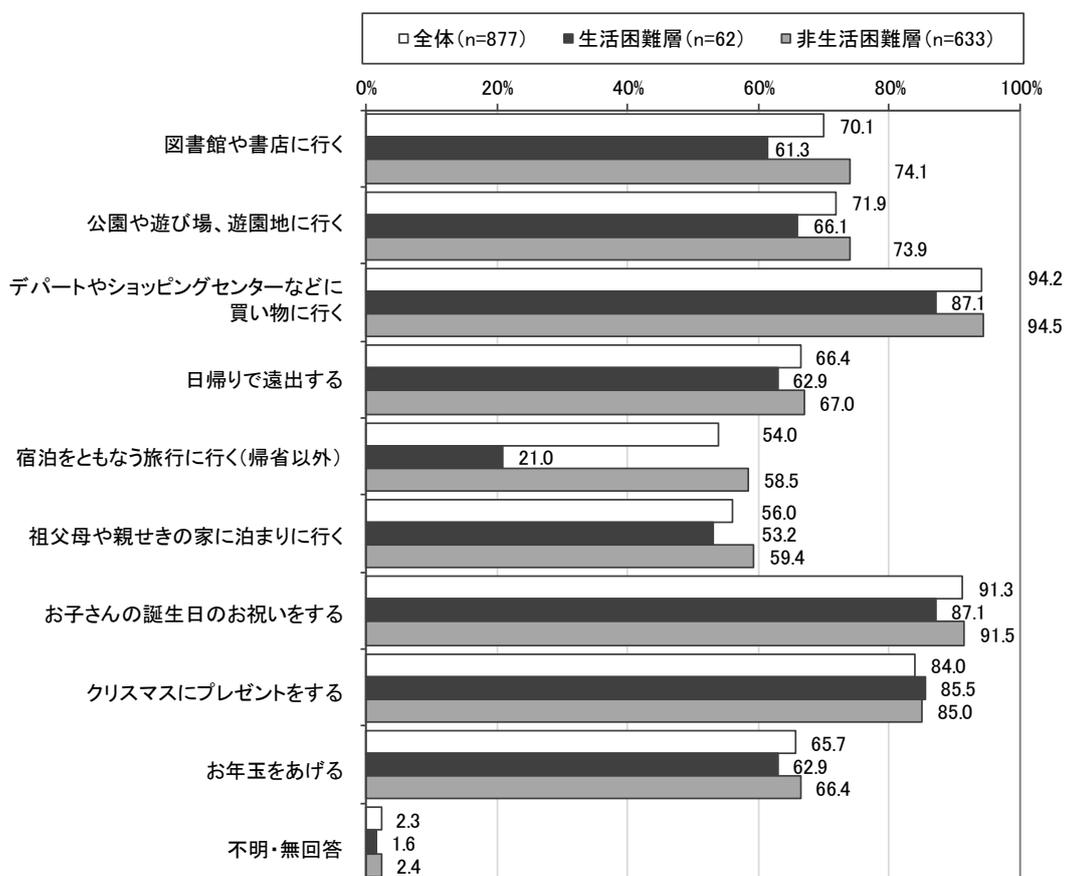
生活困難層をみると、多い項目は全体と同じですが、非生活困難層と比べると、「よくする」が7.6ポイント、「子どもが会話のできる年齢ではない」が5.8ポイント多く、「ときどきする」が7.3ポイント少なくなっています。



問 12 あなたのご家庭では、お子さんに対して、過去1年間に次のようなことをすることがありましたか。(複数回答)

全体をみると、「デパートやショッピングセンターなど買い物に行く」が94.2%と最も多く、次いで「お子さんの誕生日のお祝いをする」が91.3%となっています。

生活困難層をみると、多い項目は全体と同じですが、非生活困難層と比べると、「宿泊をともなう旅行に行く(帰省以外)」が37.5ポイント、「図書館や書店に行く」が12.8ポイント、「公園や遊び場、遊園地に行く」が7.8ポイント、「デパートやショッピングセンターなど買い物に行く」が7.4ポイント、「祖父母や親せきの家に泊まりに行く」が6.2ポイント少なくなっています。

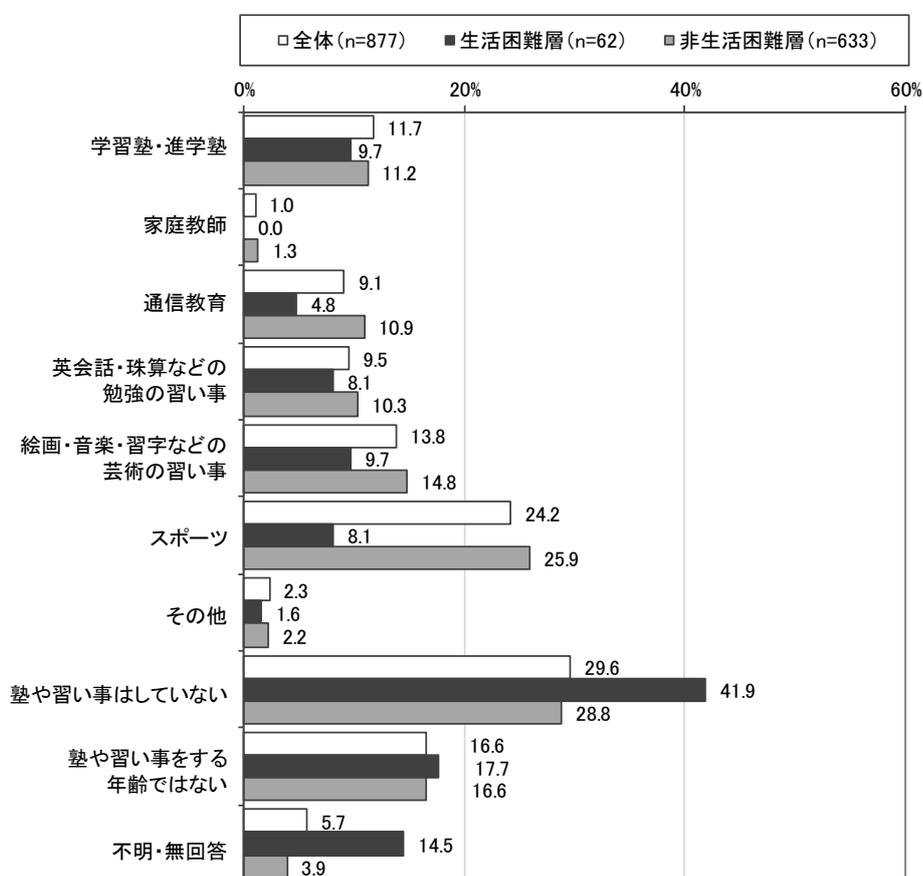


4) お子さんの学習環境・将来について

問 13 お子さんは、現在、塾に行ったり、習い事をしたりしていますか。費用がかからないサークル活動などは含みません。(複数回答)

全体をみると、「塾や習い事はしていない」が29.6%と最も多く、次いで「スポーツ」が24.2%となっています。

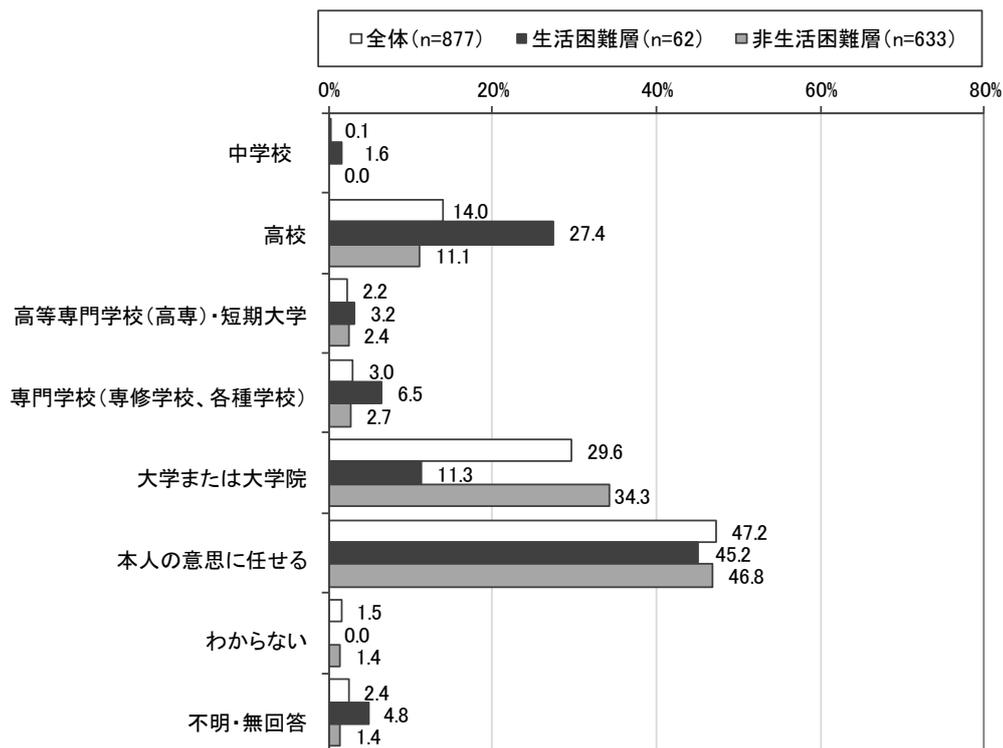
生活困難層をみると、「塾や習い事はしていない」が41.9%と最も多く、次いで「塾や習い事をする年齢ではない」が17.7%となっています。非生活困難層と比べると、「スポーツ」が17.8ポイント、「通信教育」が6.1ポイント、「絵画・音楽・習字などの芸術の習い事」が5.1ポイント少なく、「塾や習い事はしていない」が13.1ポイント多くなっています。



問 14 希望としては、お子さんを将来どの学校まで進学させたいと思いますか。
(単数回答)

全体をみると、「本人の意思に任せる」が 47.2%と最も多く、次いで「大学または大学院」が 29.6%となっています。

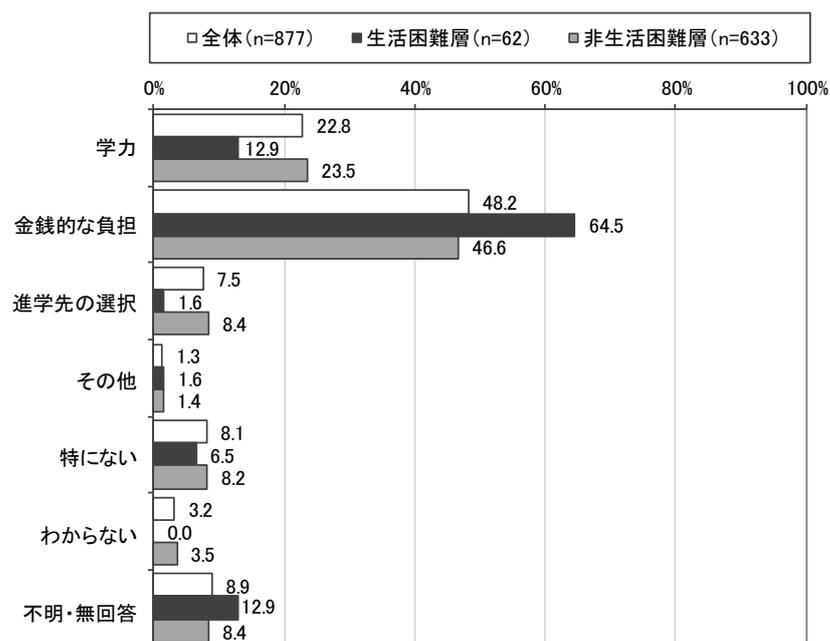
生活困難層をみると、「本人の意思に任せる」が 45.2%と最も多く、次いで「高校」が 27.4%となっています。非生活困難層と比べると、「大学または大学院」が 23.0 ポイント少なく、「高校」が 16.3 ポイント多くなっています。



問 15 問 14 で選んだ学校に進学させる際、もっとも心配なことは何ですか。
(単数回答)

全体をみると、「金銭的な負担」が48.2%と最も多く、次いで「学力」が22.8%となっています。

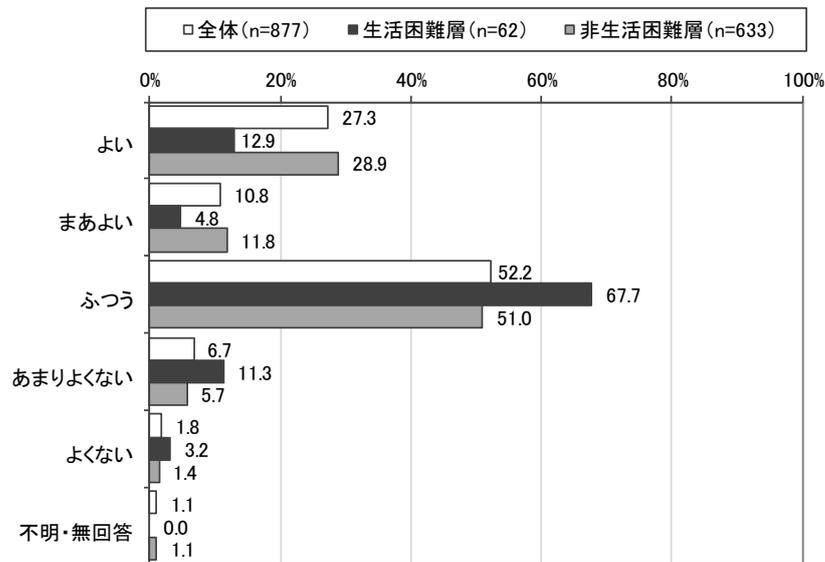
生活困難層をみると、多い項目は全体と同じですが、非生活困難層と比べると、「金銭的な負担」が17.9ポイント多く、「学力」が10.6ポイント、「進学先の選択」が6.8ポイント少なくなっています。



5) 日ごろの生活について

問 16 あなたの健康状態について教えてください。(単数回答)

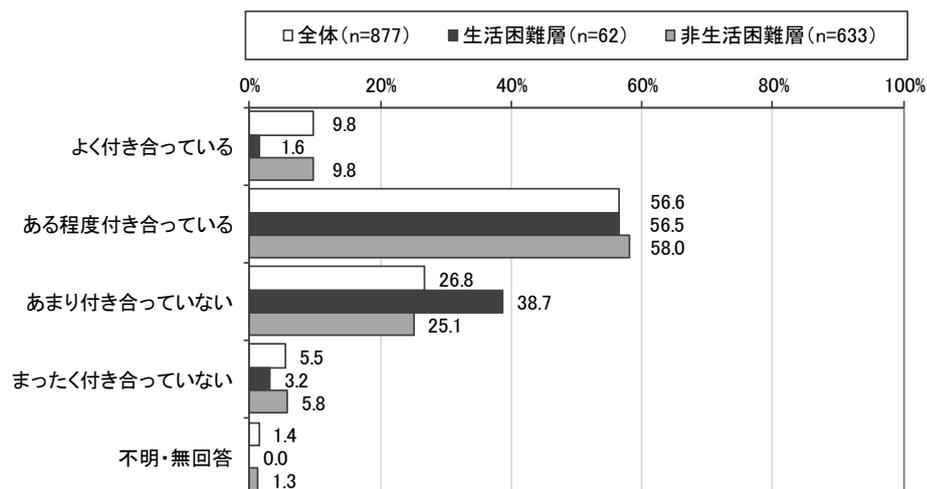
全体をみると、「ふつう」が52.2%と最も多く、次いで「よい」が27.3%となっています。
生活困難層をみると、多い項目は全体と同じですが、非生活困難層と比べると、「ふつう」が16.7ポイント、「あまりよくない」が5.6ポイント多く、「よい」が16.0ポイント、「まあよい」が7.0ポイント少なくなっています。



問 17 あなたのご家庭では、地域での付き合いをどの程度していますか。(単数回答)

全体をみると、「ある程度付き合っている」が56.6%と最も多く、次いで「あまり付き合っていない」が26.8%となっています。

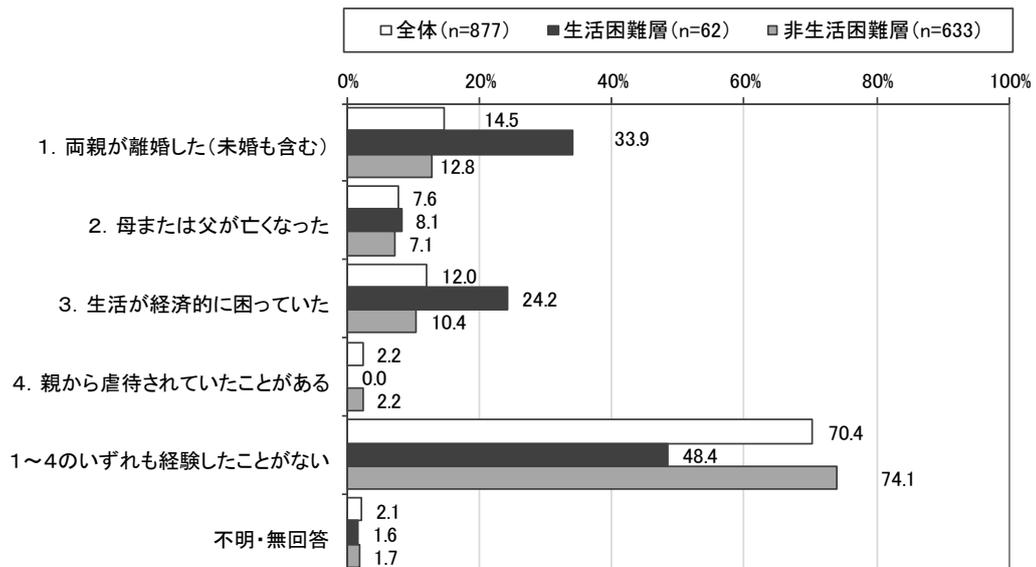
生活困難層をみると、多い項目は全体と同じですが、非生活困難層と比べると、「あまり付き合っていない」が13.6ポイント多く、「よく付き合っている」が8.2ポイント少なくなっています。



問 18 あなたまたは配偶者の方は、成人する前、以下のような経験をしたことがありますか。（複数回答）

全体をみると、「1～4のいずれも経験したことがない」が70.4%と最も多く、次いで「1. 両親が離婚した（未婚も含む）」が14.5%となっています。

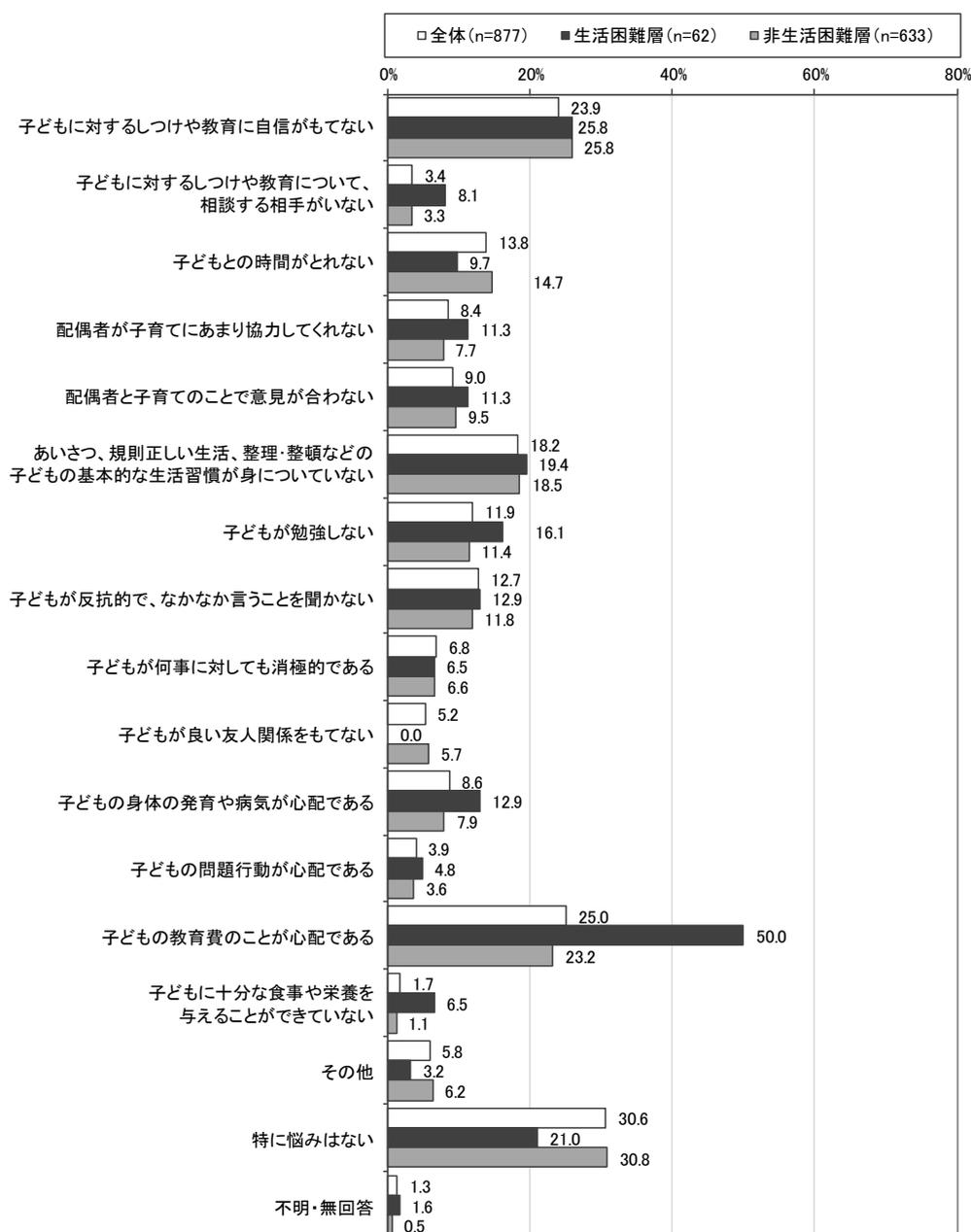
生活困難層をみると、多い項目は全体と同じですが、非生活困難層と比べると、「1～4のいずれも経験したことがない」が25.7ポイント少なく、「1. 両親が離婚した（未婚も含む）」が21.1ポイント、「3. 生活が経済的に困っていた」が13.8ポイント多くなっています。



問 19 お子さんについて、現在悩んでいることはどのようなことですか。(複数回答)

全体をみると、「特に悩みはない」が30.6%と最も多く、次いで「子どもの教育費のことが心配である」が25.0%となっています。

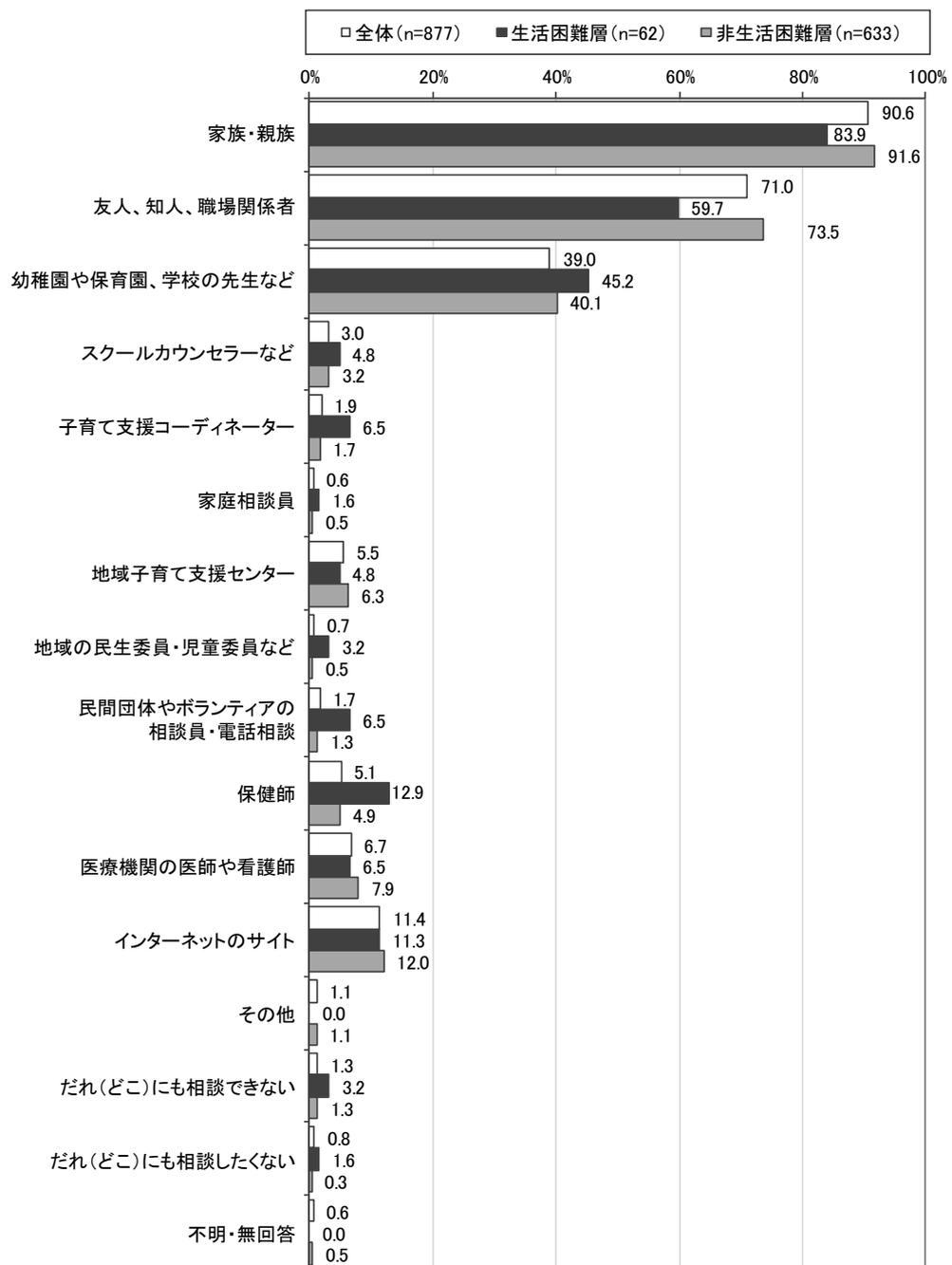
生活困難層をみると、「子どもの教育費のことが心配である」が50.0%と最も多く、次いで「子どもに対するしつけや教育に自信がもてない」が25.8%となっています。非生活困難層と比べると、「子どもの教育費のことが心配である」が26.8ポイント、「子どもに十分な食事や栄養を与えることができていない」が5.4ポイント多く、「特に悩みはない」が9.8ポイント、「子どもが良い友人関係をもてない」が5.7ポイント、「子どもとの時間がとれない」が5.0ポイント少なくなっています。



問 20 子育てをする上で困ったり、悩んだとき、だれ（どこ）に相談しようと思いますか。（単数回答）

全体をみると、「家族・親族」が90.6%と最も多く、次いで「友人、知人、職場関係者」が71.0%となっています。

生活困難層をみると、多い項目は全体と同じですが、非生活困難層と比べると、「友人、知人、職場関係者」が13.8ポイント、「家族・親族」が7.7ポイント少なく、「保健師」が8.0ポイント、「民間団体やボランティアの相談員・電話相談」が5.2ポイント、「幼稚園や保育園、学校の先生など」が5.1ポイント多くなっています。



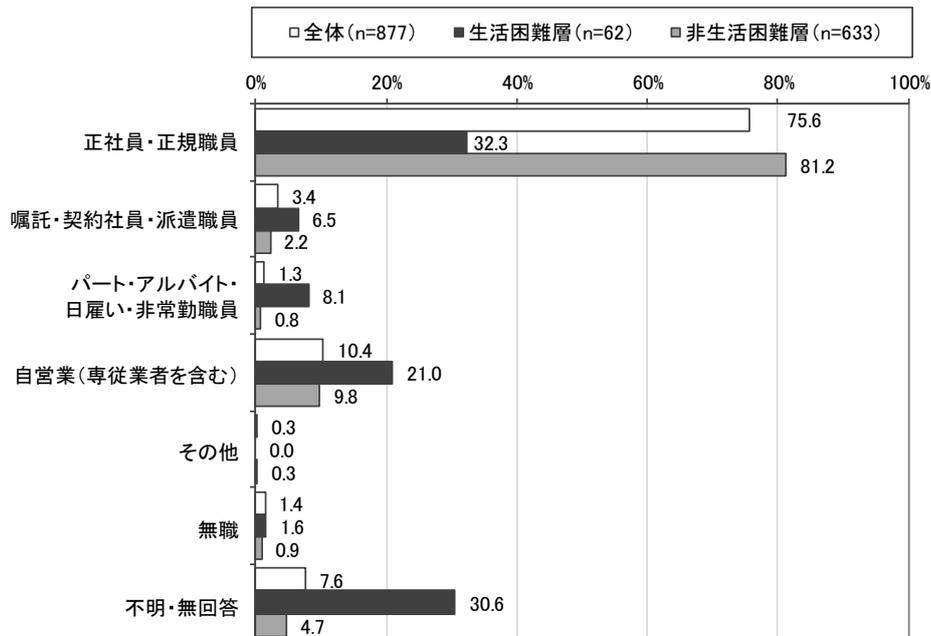
6) 仕事について

問 21 お子さんのご両親（またはご両親に代わる方）の働き方について、あてはまるもの1つに○をつけてください。また、働いている人については休日や夜勤の有無についても教えてください。

(1) 父親の就業形態（単数回答）

全体をみると、「正社員・正規職員」が75.6%と最も多く、次いで「自営業（専従業者を含む）」が10.4%となっています。

生活困難層をみると、多い項目は全体と同じですが、非生活困難層と比べると、「正社員・正規職員」が48.9ポイント少なく、「自営業（専従業者を含む）」が11.2ポイント、「パート・アルバイト・日雇い・非常勤職員」が7.3ポイント多くなっています。

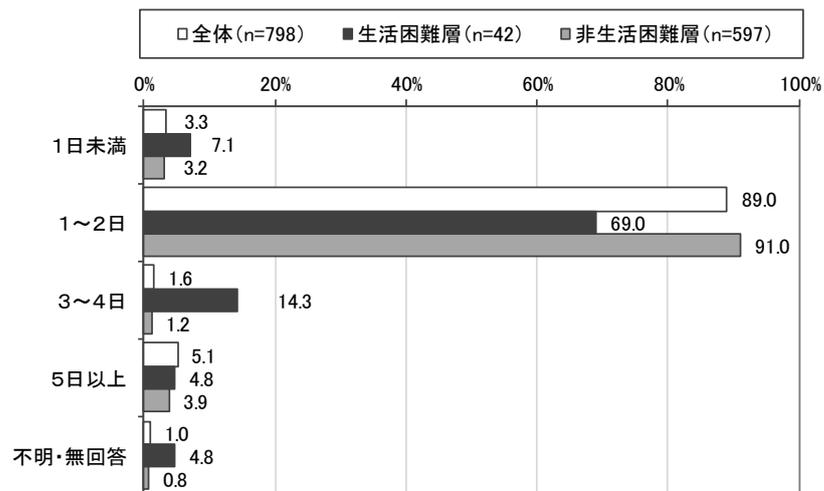


問 21 (1) で「無職」以外を選んだ人

(2) 父親の週当たりの休日日数 (数字記入)

全体をみると、「1～2日」が 89.0%と最も多く、次いで「5日以上」が 5.1%となっています。

生活困難層をみると、「1～2日」が 69.0%と最も多く、次いで「3～4日」が 14.3%となっています。非生活困難層と比べると、「1～2日」が 22.0 ポイント少なく、「3～4日」が 13.1 ポイント多くなっています。

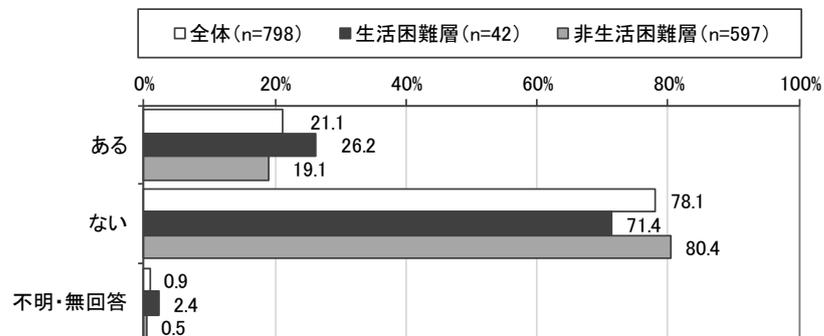


問 21 (1) で「無職」以外を選んだ人

(3) 父親の夜勤の有無 (単数回答)

全体をみると、「ある」が 21.1%、「ない」が 78.1%となっています。

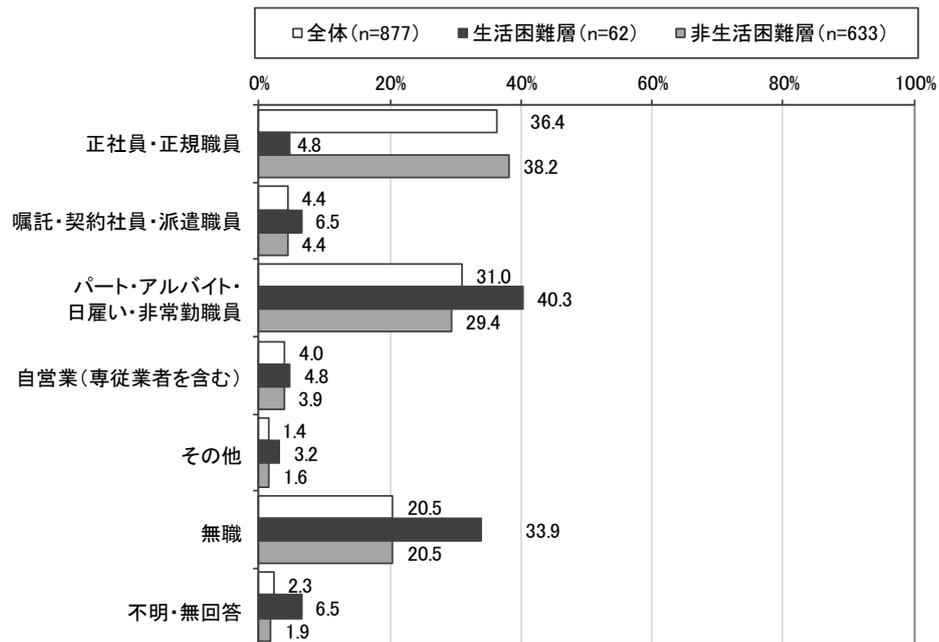
生活困難層を非生活困難層と比べると、「ない」が 9.0 ポイント少なく、「ある」が 7.1 ポイント多くなっています。



(4) 母親の就業形態（単数回答）

全体をみると、「正社員・正規職員」が36.4%と最も多く、次いで「パート・アルバイト・日雇い・非常勤職員」が31.0%となっています。

生活困難層をみると、「パート・アルバイト・日雇い・非常勤職員」が40.3%と最も多く、次いで「無職」が33.9%となっています。非生活困難層と比べると、「正社員・正規職員」が33.4ポイント少なく、「無職」が13.4ポイント、「パート・アルバイト・日雇い・非常勤職員」が10.9ポイント多くなっています。

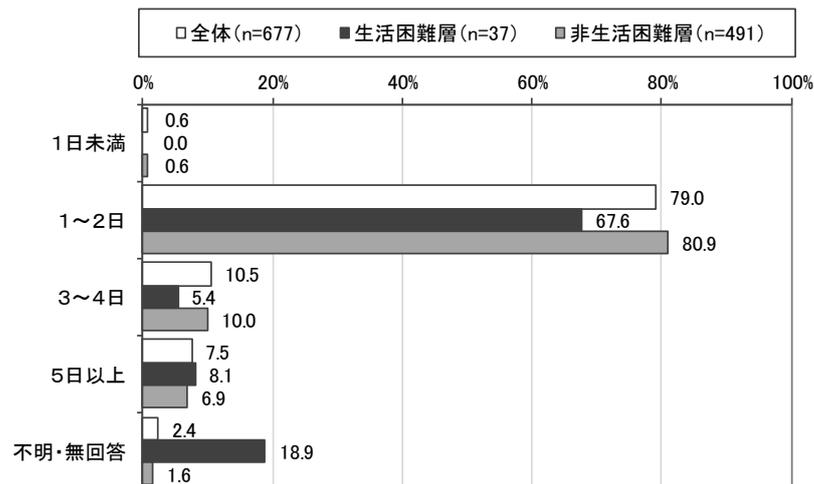


問 21 (4) で「無職」以外を選んだ人

(5) 母親の週当たりの休日日数 (数字記入)

全体をみると、「1～2日」が79.0%と最も多く、次いで「3～4日」が10.5%となっています。

生活困難層をみると、「1～2日」が67.6%と最も多く、次いで「5日以上」が8.1%となっています。非生活困難層と比べると、「1～2日」が13.3ポイント少なくなっています。

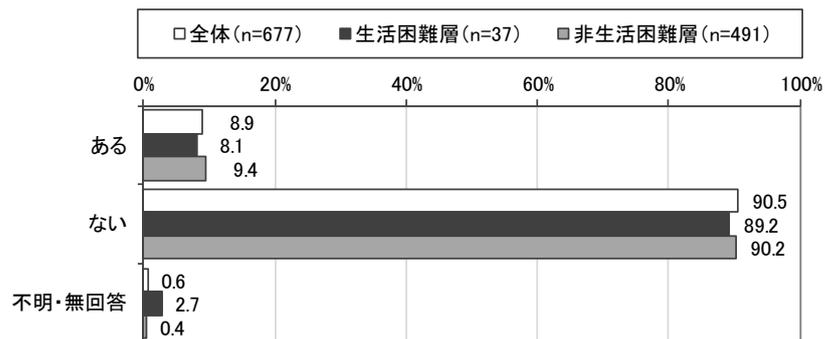


問 21 (4) で「無職」以外を選んだ人

(6) 母親の夜勤の有無 (単数回答)

全体をみると、「ある」が8.9%、「ない」が90.5%となっています。

生活困難層と非生活困難層をみると、全体と同様の傾向となっています。



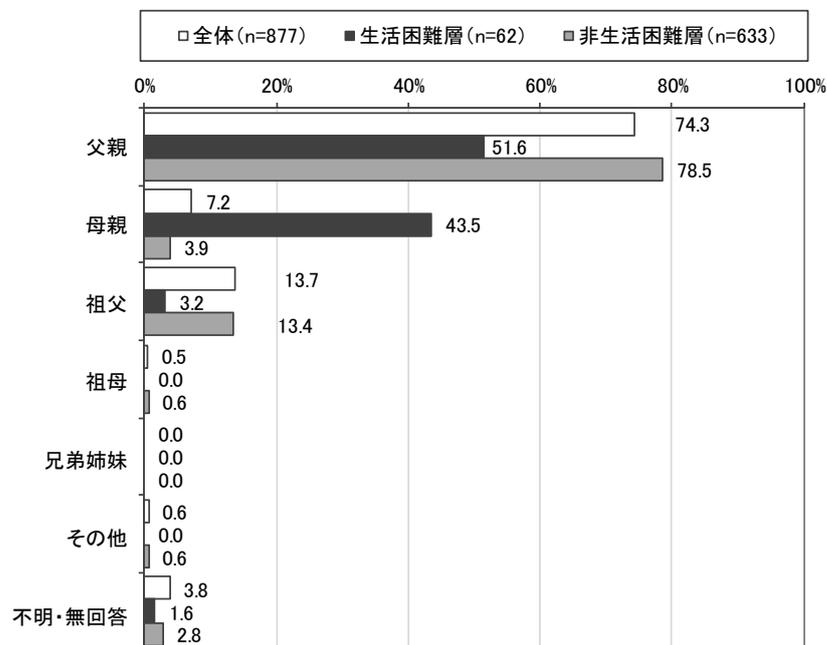
7) 世帯のことについて

問 22 あなたの世帯に含まれる方について、お子さんからみた続柄などについて教えてください。

(1) 世帯主(数字記入)

全体をみると、「父親」が74.3%と最も多く、次いで「祖父」が13.7%となっています。

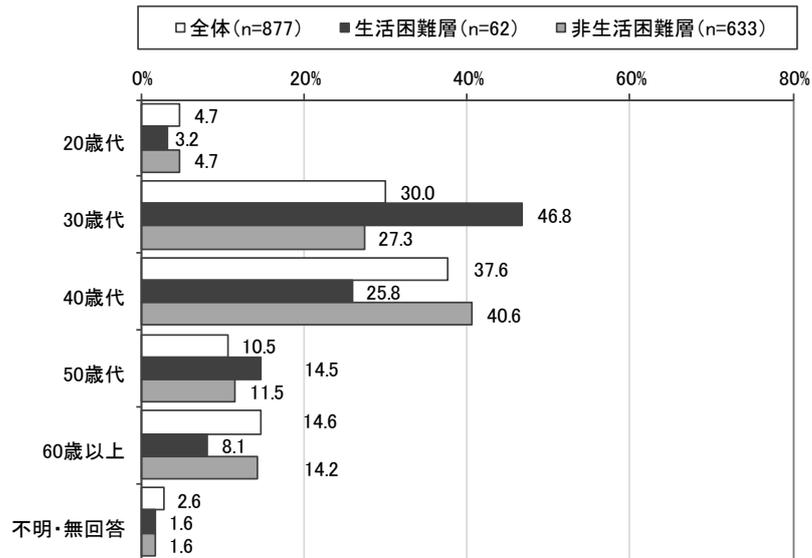
生活困難層をみると、「父親」が51.6%と最も多く、次いで「母親」が43.5%となっています。非生活困難層と比べると、「母親」が39.6ポイント多く、「父親」が26.9ポイント、「祖父」が10.2ポイント少なくなっています。



(2) 世帯主の年齢 (数字記入)

全体をみると、「40歳代」が37.6%と最も多く、次いで「30歳代」が30.0%となっています。

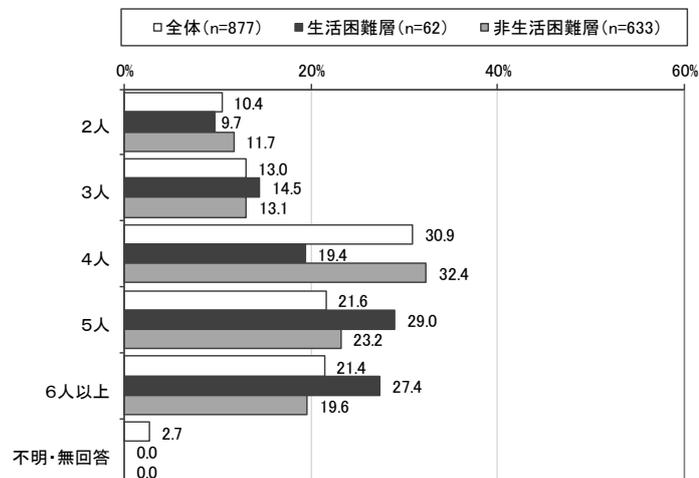
生活困難層をみると、「30歳代」が46.8%と最も多く、次いで「40歳代」が25.8%となっています。非生活困難層と比べると、「30歳代」が19.5ポイント多く、「40歳代」が14.8ポイント、「60歳以上」が6.1ポイント少なくなっています。



問 23 普段一緒にお住まいで、生計を共にしている方は、あなたを含めて何人ですか。(数字記入)

全体をみると、「4人」が30.9%と最も多く、次いで「5人」が21.6%となっています。

生活困難層をみると、「5人」が29.0%と最も多く、次いで「6人以上」が27.4%となっています。非生活困難層と比べると、「4人」が13.0ポイント少なく、「6人以上」が7.8ポイント、「5人」が5.8ポイント多くなっています。

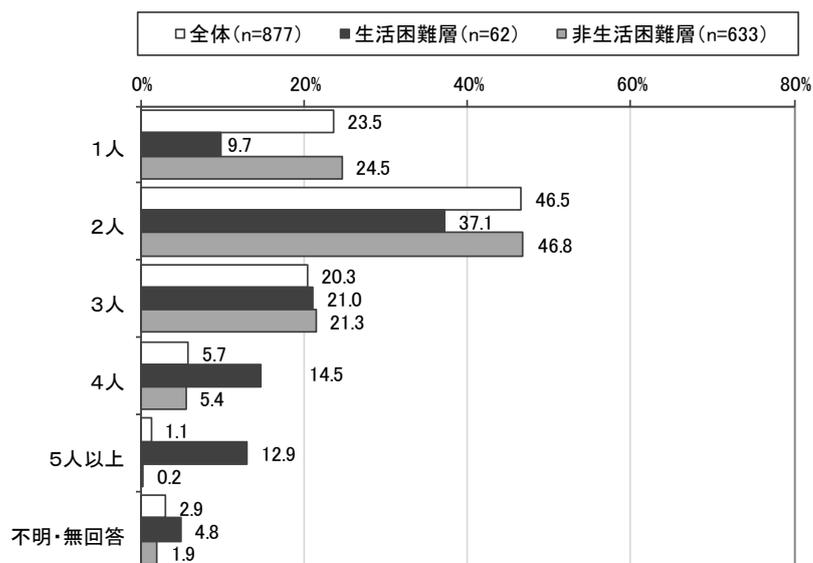


問 24 世帯員のうち、平成 29 年 4 月 1 日現在 18 歳未満のお子さんの人数について教えてください。(数字記入)

(1) 世帯員のうちお子さんの人数

全体をみると、「2人」が46.5%と最も多く、次いで「1人」が23.5%となっています。

生活困難層をみると、「2人」が37.1%と最も多く、次いで「3人」が21.0%となっています。非生活困難層と比べると、「1人」が14.8ポイント、「2人」が9.7ポイント少なく、「5人以上」が12.7ポイント、「4人」が9.1ポイント多くなっています。

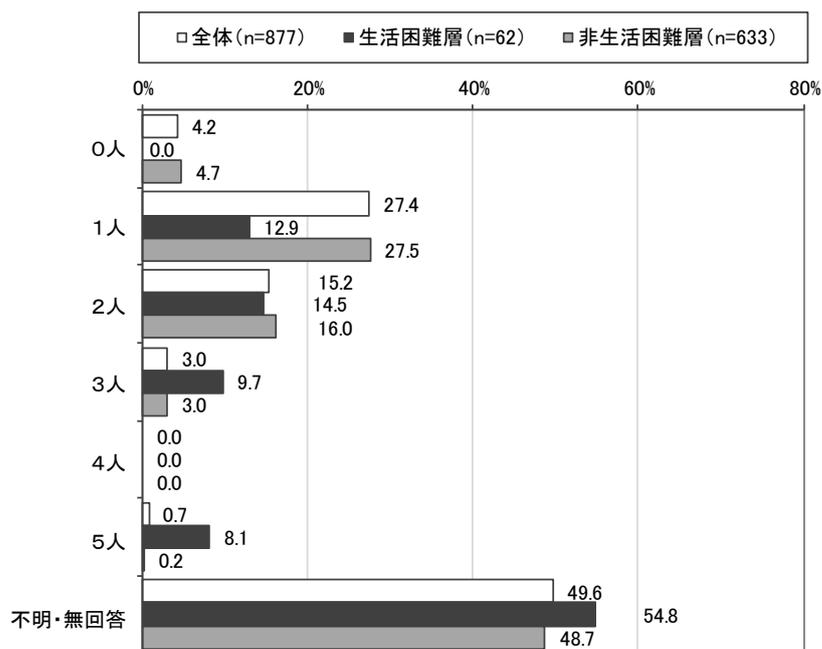


(2) お子さんの年齢別人数

① 0～5歳

全体をみると、「1人」が27.4%と最も多く、次いで「2人」が15.2%となっています。

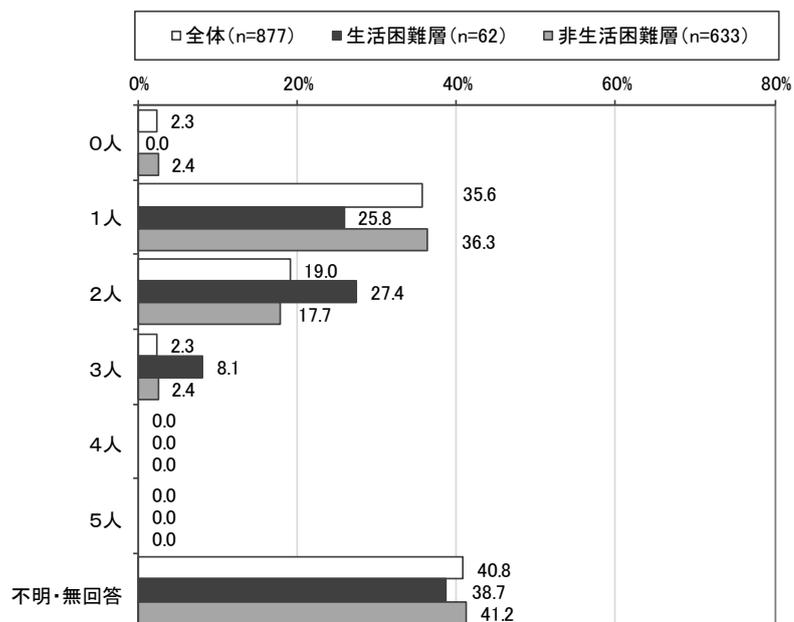
生活困難層をみると、「2人」が14.5%と最も多く、次いで「1人」が12.9%となっています。非生活困難層と比べると、「1人」が14.6ポイント少なく、「5人」が7.9ポイント、「3人」が6.7ポイント多くなっています。



②6～11歳

全体をみると、「1人」が35.6%と最も多く、次いで「2人」が19.0%となっています。

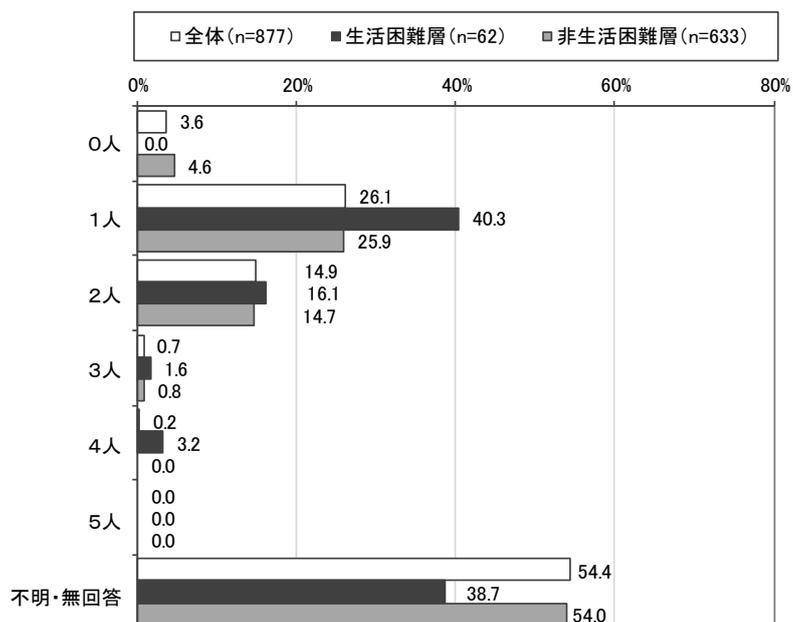
生活困難層をみると、「2人」が27.4%と最も多く、次いで「1人」が25.8%となっています。非生活困難層と比べると、「1人」が10.5ポイント少なく、「2人」が9.7ポイント、「3人」が5.7ポイント多くなっています。



③12～17歳

全体をみると、「1人」が26.1%と最も多く、次いで「2人」が14.9%となっています。

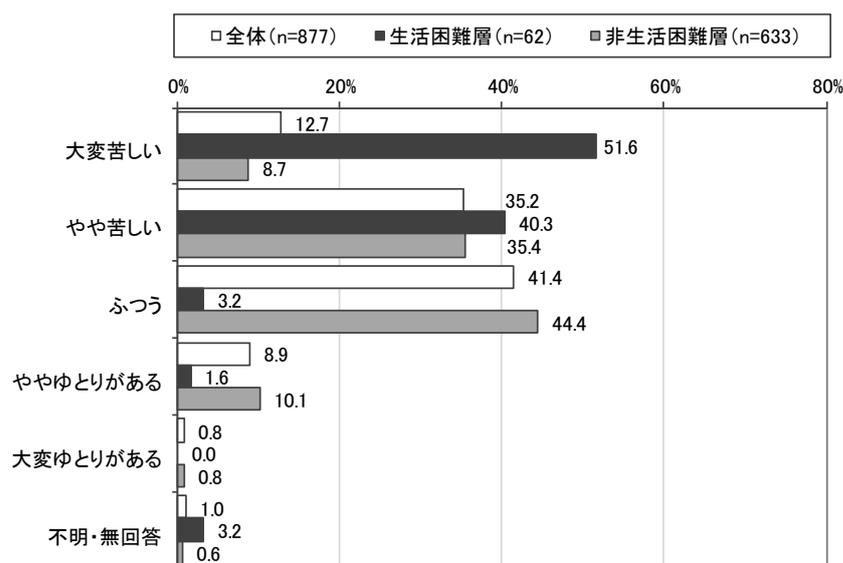
生活困難層をみると、多い項目は全体と同じですが、非生活困難層と比べると、「1人」が14.4ポイント多くなっています。



問 26 現在の暮らしの状況を総合的にみて、どう感じていますか。(単数回答)

全体をみると、「ふつう」が41.4%と最も多く、次いで「やや苦しい」が35.2%となっています。

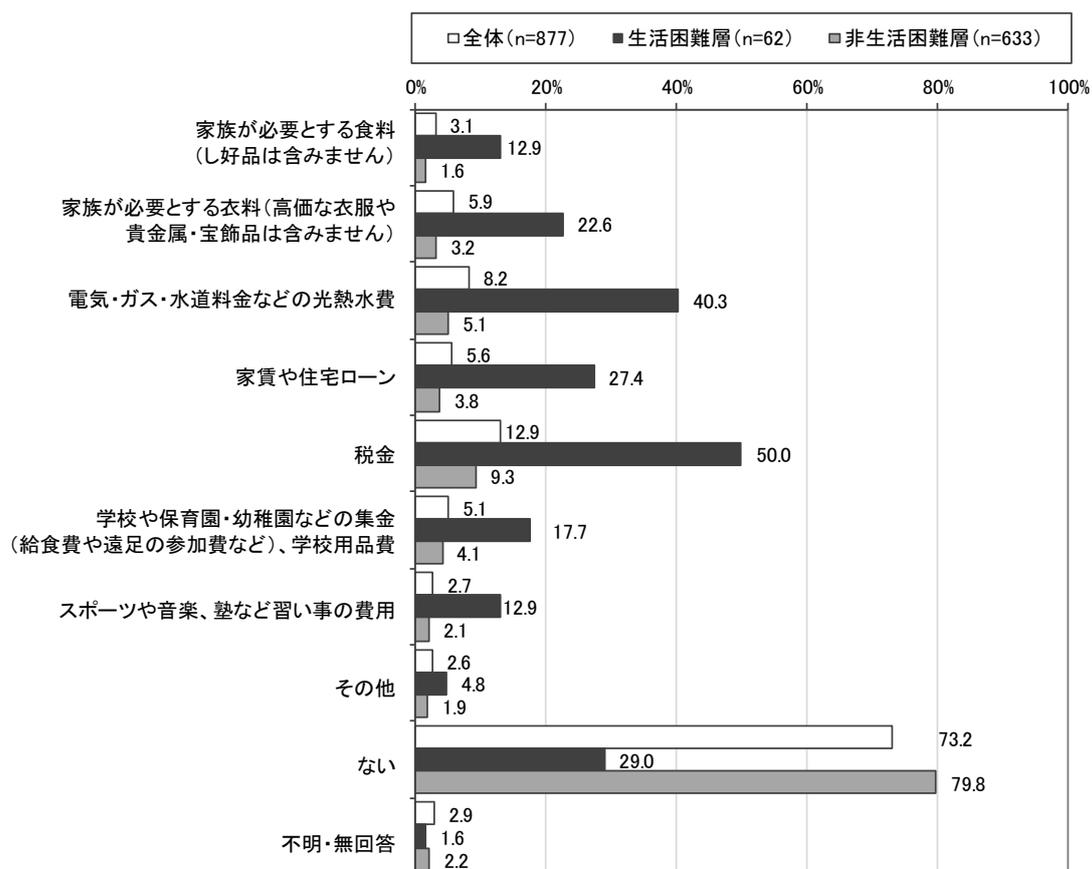
生活困難層をみると、「大変苦しい」が51.6%と最も多く、次いで「やや苦しい」が40.3%となっています。非生活困難層と比べると、「大変苦しい」が42.9ポイント多く、「ふつう」が41.2ポイント、「ややゆとりがある」が8.5ポイント少なくなっています。



問 27 過去1年間で、必要なものが買えなかったことや、支払いが遅れたり、支払いできなかったものがありますか。(複数回答)

全体をみると、「ない」が73.2%と最も多く、次いで「税金」が12.9%となっています。

生活困難層をみると、「税金」が50.0%と最も多く、次いで「電気・ガス・水道料金などの光熱水費」が40.3%となっています。非生活困難層と比べると、「ない」が50.8ポイント少なく、「税金」が40.7ポイント、「電気・ガス・水道料金などの光熱水費」が35.2ポイント、「家賃や住宅ローン」が23.6ポイントなど、7項目が5ポイント以上多くなっています。

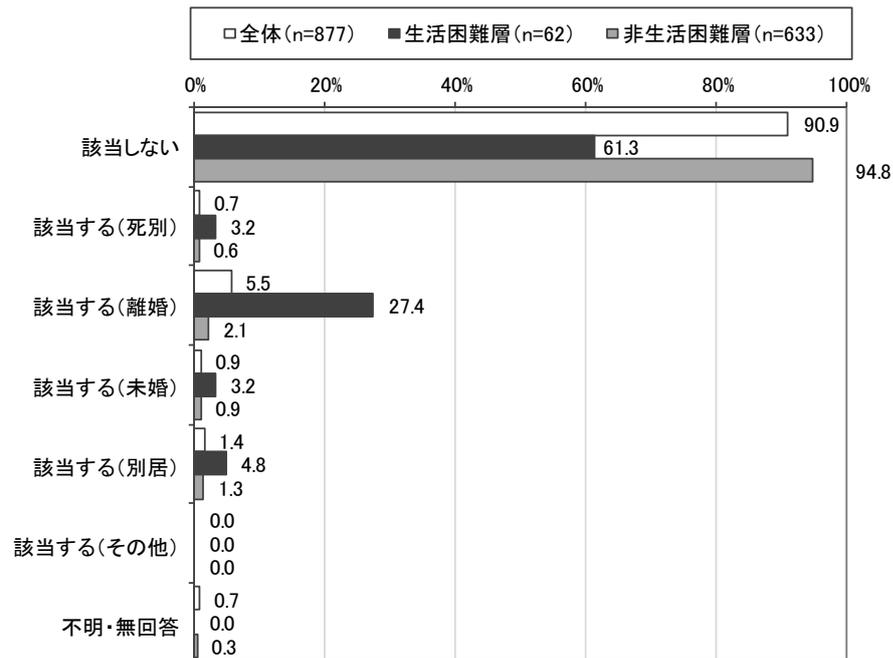


問 28 あなたの世帯は、「ひとり親世帯」に該当しますか。(単数回答)

全体をみると、「該当しない」が90.9%と最も多く、次いで「該当する(離婚)」が5.5%となっています。

生活困難層をみると、多い項目は全体と同じですが、非生活困難層と比べると、「該当しない」が33.5ポイント少なく、「該当する(離婚)」が25.3ポイント多くなっています。

また、ひとり親世帯に該当する合計の割合は、生活困難層が38.6%、非生活困難層が4.9%となっています。



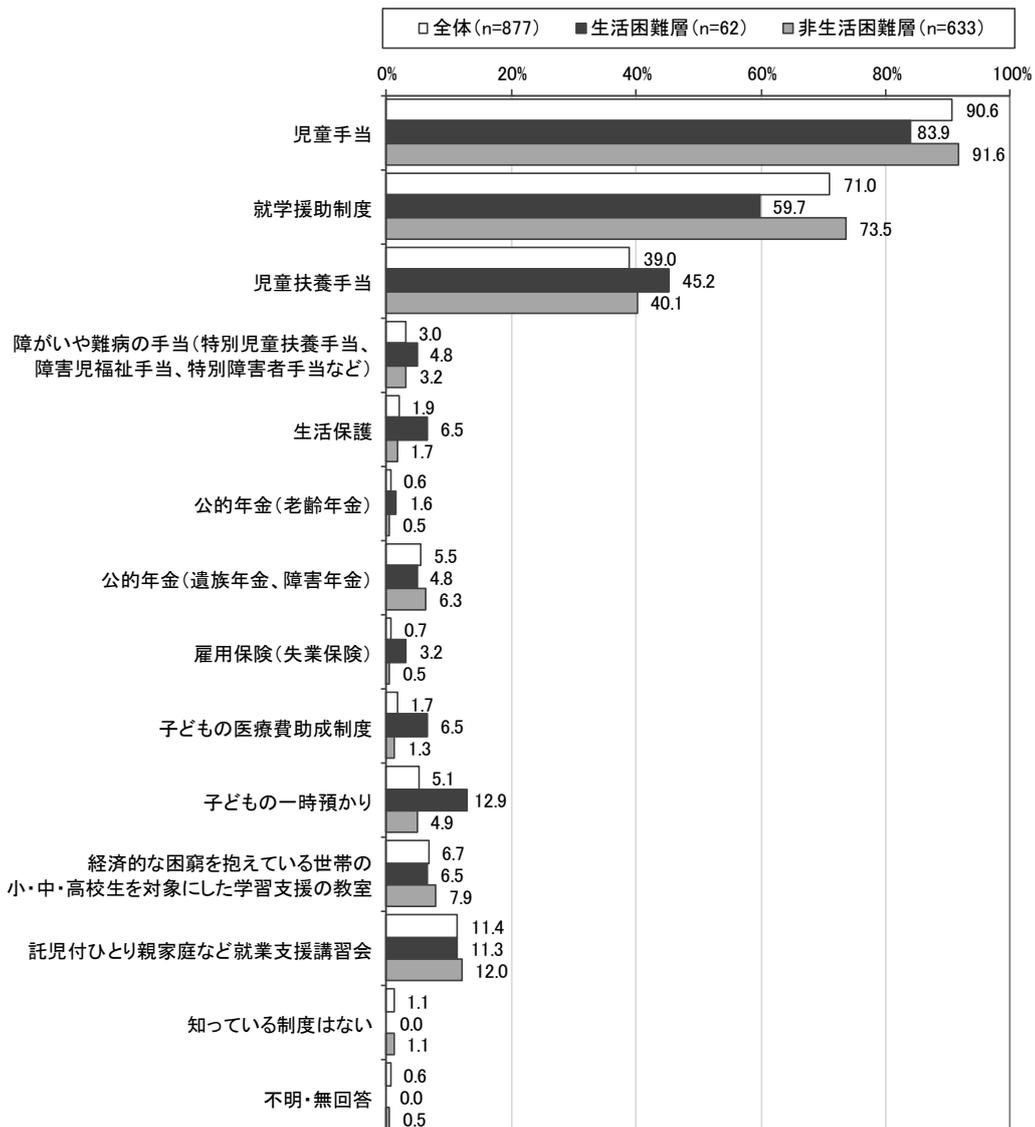
8) 子育てに関する支援制度のことについて

問 29 あなたは、次の「1」～「12」について、知っている制度はありますか。また、これまでに実際に利用したことがありますか。制度を知らない場合、または利用していない場合は、「13」に○をつけてください。(複数回答)

(1) 知っている制度

全体をみると、「児童手当」が90.6%と最も多く、次いで「就学援助制度」が71.0%となっています。

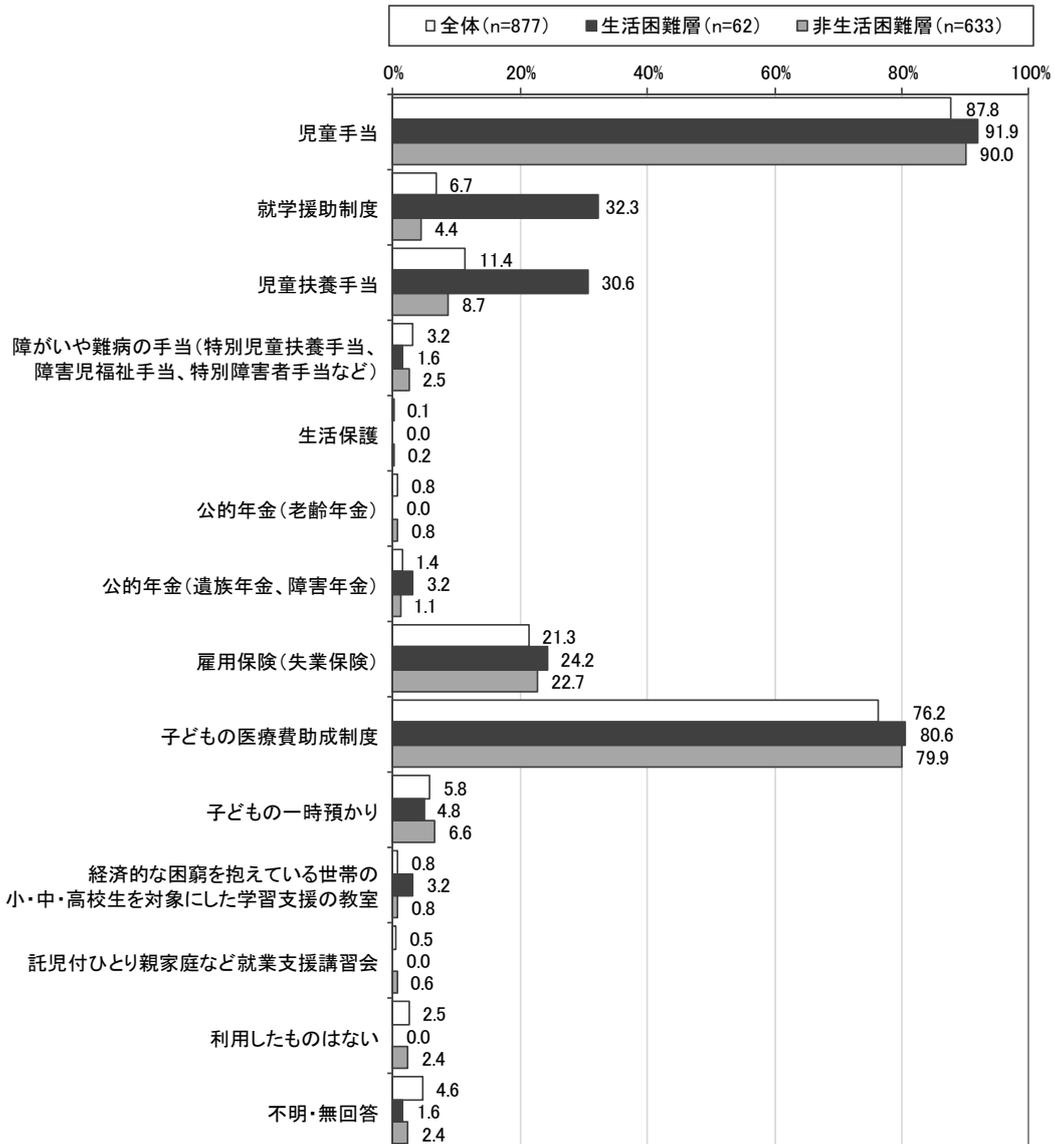
生活困難層をみると、多い項目は全体と同じですが、非生活困難層と比べると、「就学援助制度」が13.8ポイント、「児童手当」が7.7ポイント少なく、「子どもの一時預かり」が8.0ポイント、「子どもの医療費助成制度」が5.2ポイント、「児童扶養手当」が5.1ポイント多くなっています。



(2) 利用したことのある制度

全体をみると、「児童手当」が87.8%と最も多く、次いで「子どもの医療費助成制度」が76.2%となっています。

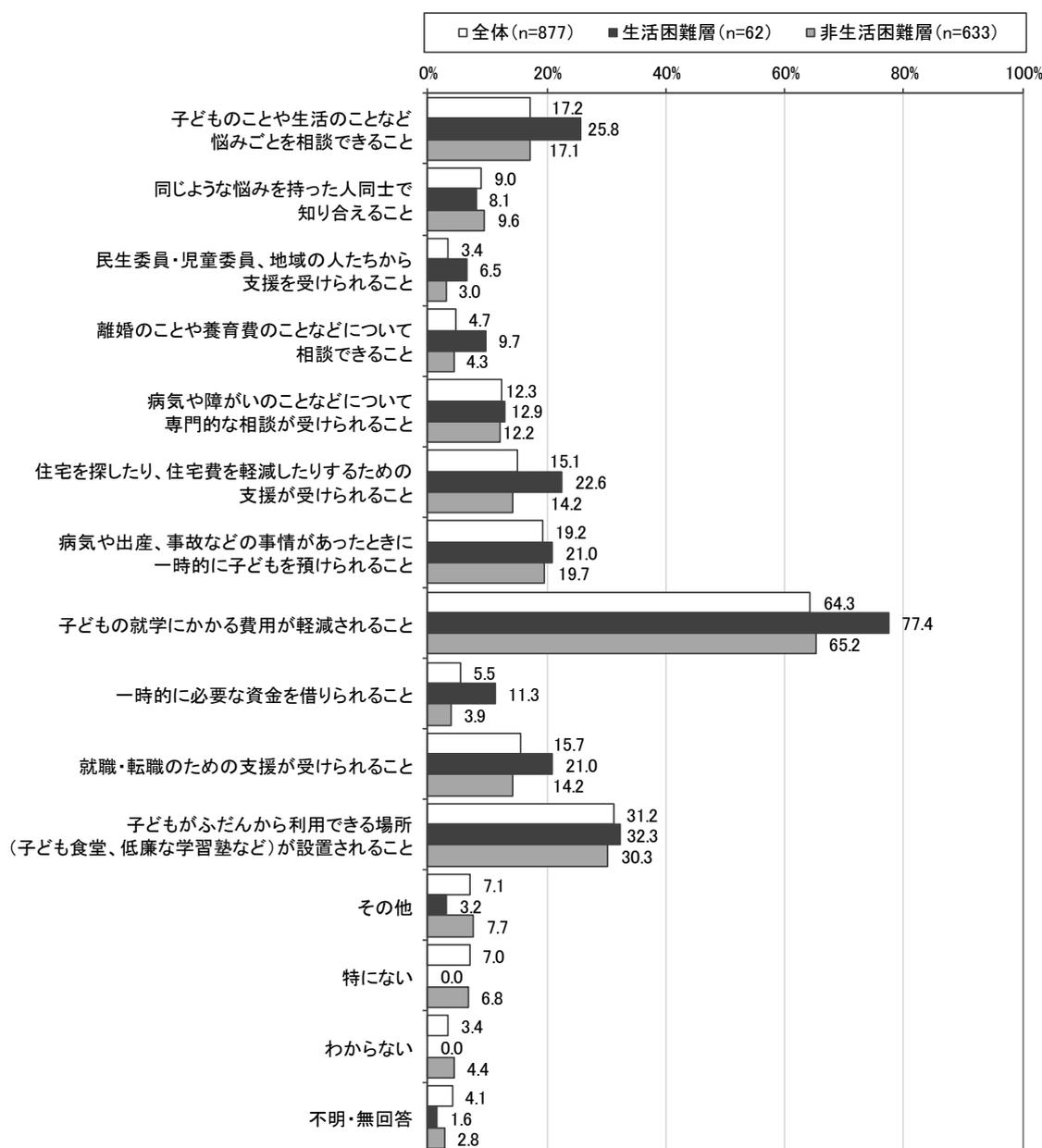
生活困難層をみると、多い項目は全体と同じですが、非生活困難層と比べると、「就学援助制度」が27.9ポイント、「児童扶養手当」が21.9ポイント多くなっています。



問 30 現在必要としていること、重要だと思う支援などはどのようなものですか。
(複数回答/最大3つまで)

全体をみると、「子どもの就学にかかる費用が軽減されること」が64.3%と最も多く、次いで「子どもがふだんから利用できる場所（子ども食堂、低廉な学習塾など）が設置されること」が31.2%となっています。

生活困難層をみると、多い項目は全体と同じですが、非生活困難層と比べると、「子どもの就学にかかる費用が軽減されること」が12.2ポイント、「子どものことや生活のことなど悩みごとを相談できること」が8.7ポイント、「住宅を探したり、住宅費を軽減したりするための支援が受けられること」が8.4ポイントなど、6項目が5ポイント以上多く、「特にない」が6.8ポイント少なくなっています。



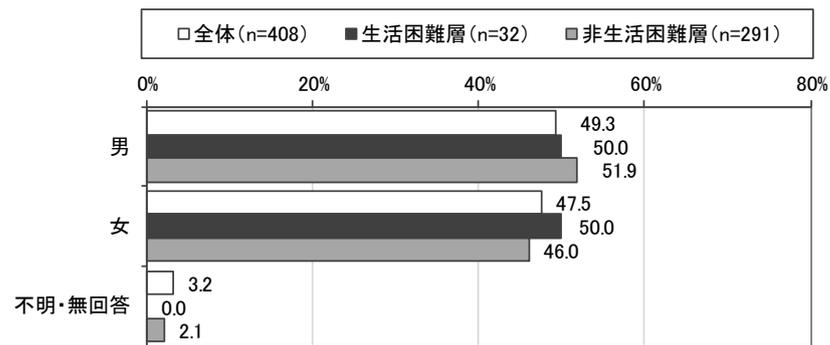
3 児童・生徒アンケート調査・集計結果

1) 回答者について

問 1 あなたの性別を教えてください。(単数回答)

全体をみると、「男」が49.3%、「女」が47.5%となっています。

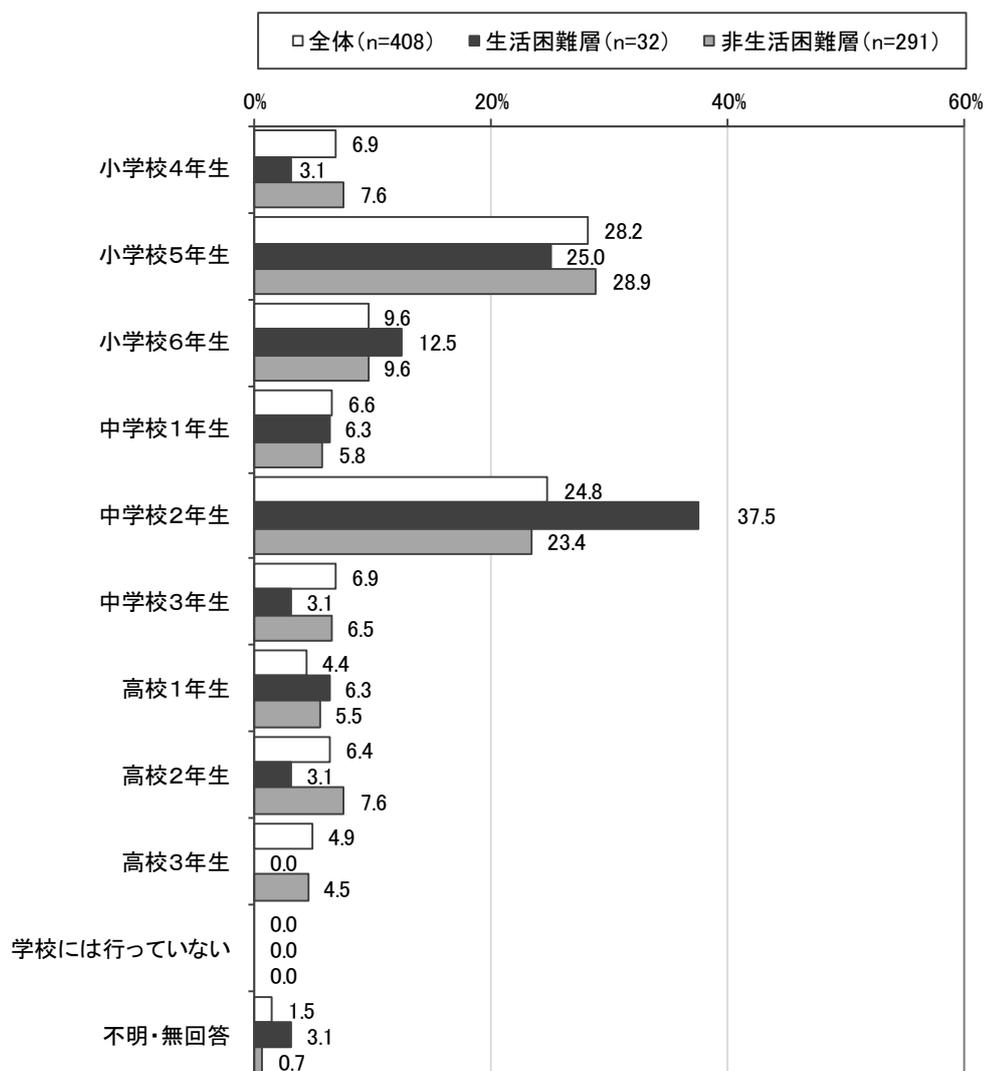
生活困難層と非生活困難層をみると、全体とほぼ同様の傾向となっています。



問 2 あなたの学年などを教えてください。(単数回答)

全体をみると、「小学校5年生」が28.2%と最も多く、次いで「中学校2年生」が24.8%となっています。

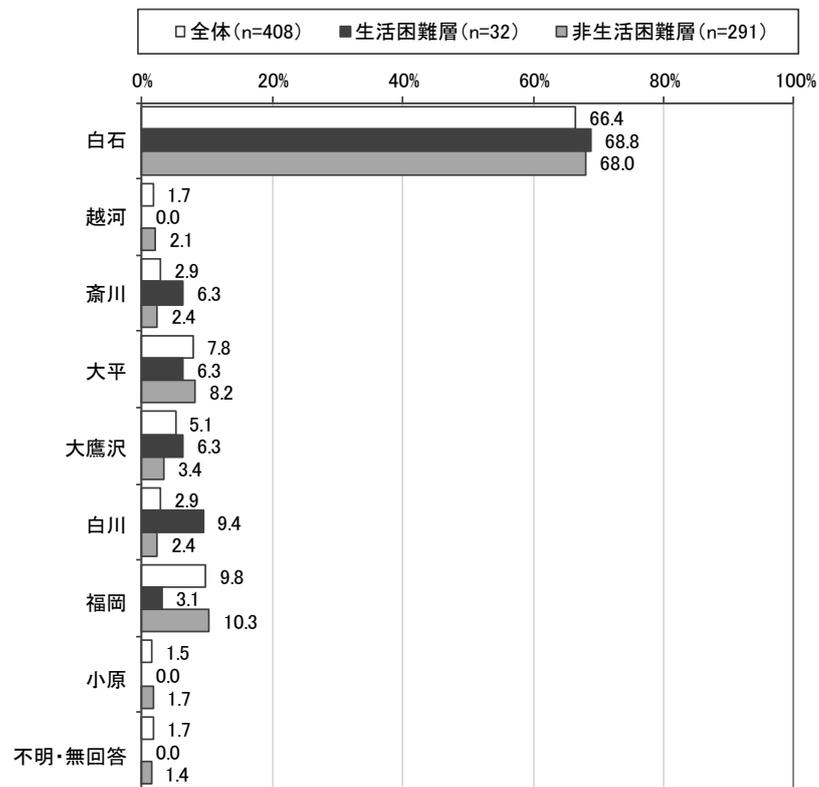
生活困難層をみると、「中学校2年生」が37.5%と最も多く、次いで「小学校5年生」が25.0%となっています。非生活困難層と比べると、「中学校2年生」が14.1ポイント多くなっています。



問 3 あなたがお住まいの地区名をお答えください。(単数回答)

全体をみると、「白石」が66.4%と最も多く、次いで「福岡」が9.8%となっています。

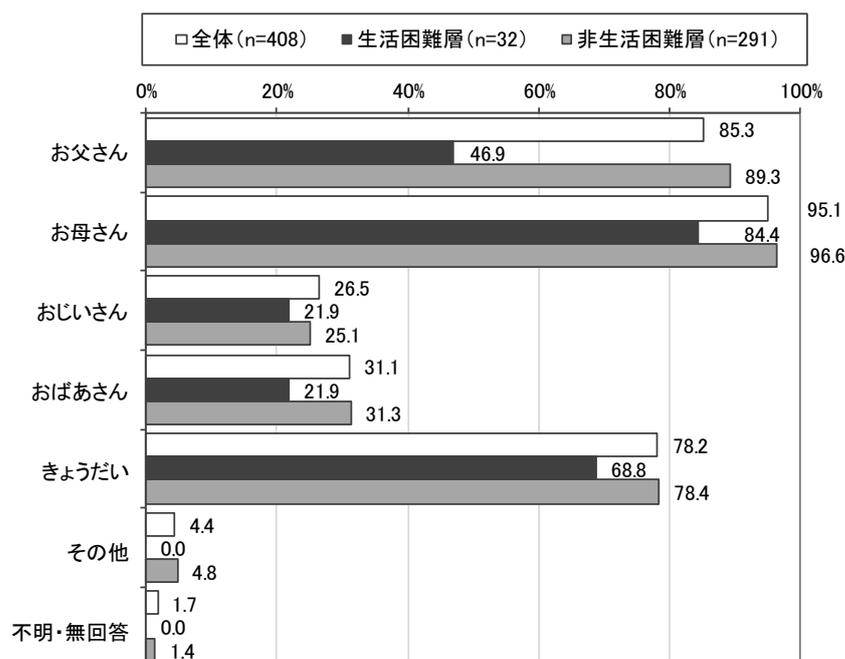
生活困難層をみると、「白石」が68.8%と最も多く、次いで「白川」が9.4%となっています。
非生活困難層と比べると、「福岡」が7.2ポイント少なくなっています。



問 4 あなたと現在いっしょに住んでいる人を教えてください。(複数回答)

全体をみると、「お母さん」が95.1%と最も多く、次いで「お父さん」が85.3%となっています。

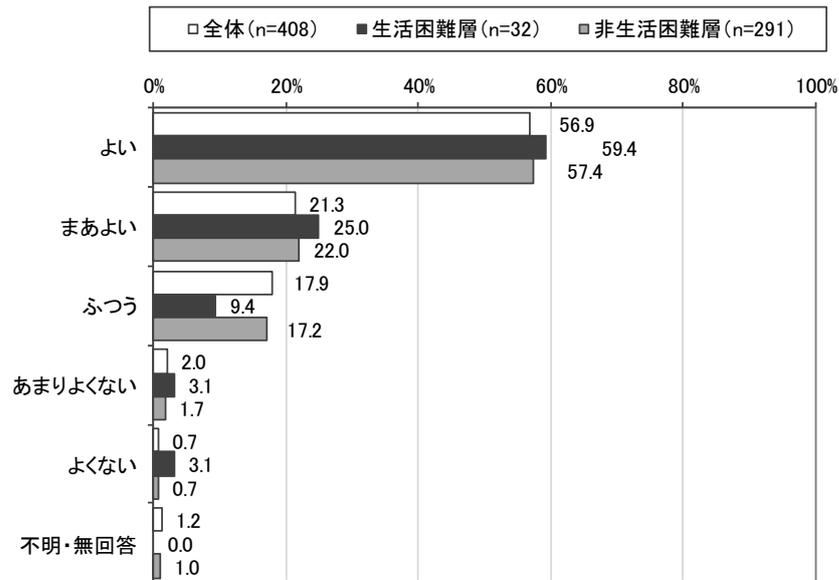
生活困難層をみると、「お母さん」が84.4%と最も多く、次いで「きょうだい」が68.8%となっています。非生活困難層と比べると、「お父さん」が42.4ポイント、「お母さん」が12.2ポイント、「きょうだい」が9.6ポイント、「おばあさん」が9.4ポイント少なくなっています。



2) 家での生活のことについて

問 5 あなたの健康はどうか。(単数回答)

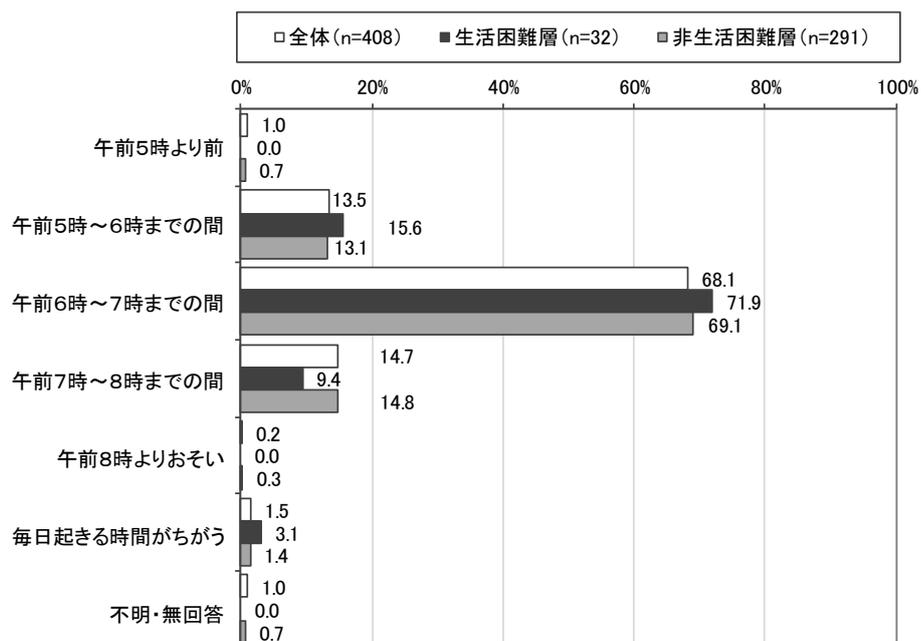
全体をみると、「よい」が56.9%と最も多く、次いで「まあよい」が21.3%となっています。
生活困難層をみると、多い項目は全体と同じですが、非生活困難層と比べると、「ふつう」が7.8ポイント少なくなっています。



問 6 平日の朝は、およそ何時頃に起きますか。(単数回答)

全体をみると、「午前6時～7時までの間」が68.1%と最も多く、次いで「午前7時～8時までの間」が14.7%となっています。

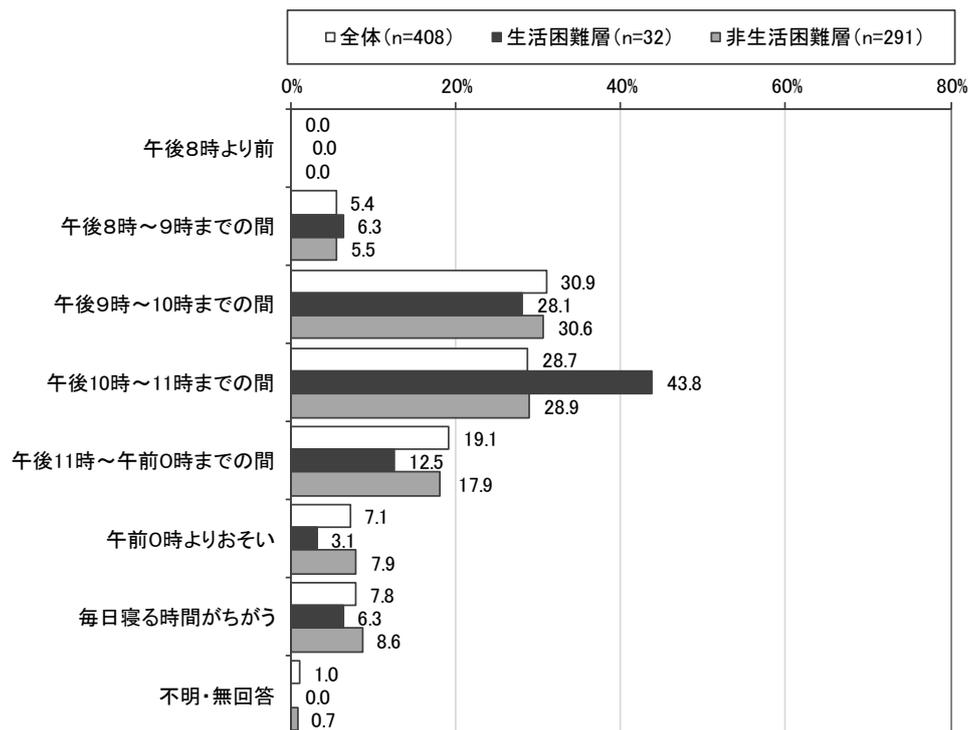
生活困難層をみると、「午前6時～7時までの間」が71.9%と最も多く、次いで「午前5時～6時までの間」が15.6%となっています。非生活困難層と比べると、「午前7時～8時までの間」が5.4ポイント少なくなっています。



問 7 平日の夜は、およそ何時頃に寝ますか。(単数回答)

全体をみると、「午後9時～10時までの間」が30.9%と最も多く、次いで「午後10時～11時までの間」が28.7%となっています。

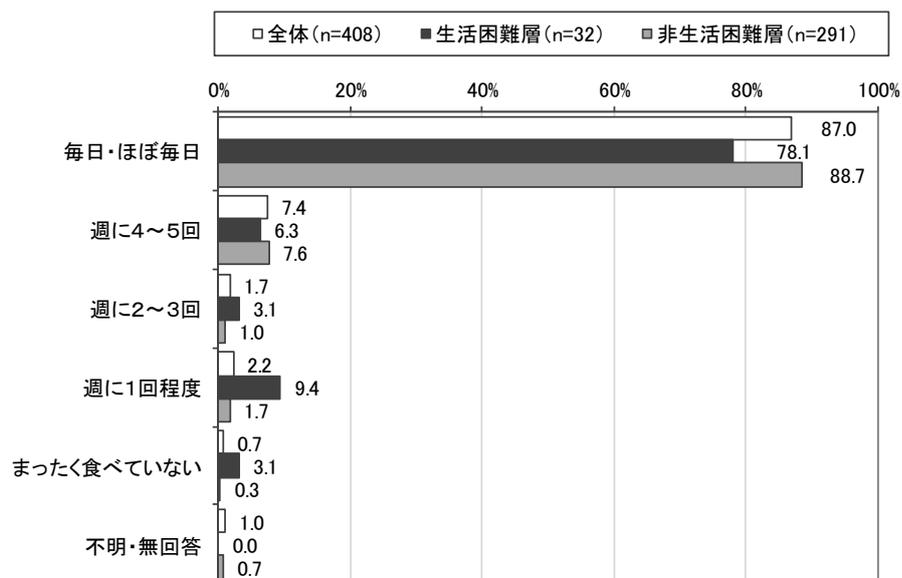
生活困難層をみると、「午後10時～11時までの間」が43.8%と最も多く、次いで「午後9時～10時までの間」が28.1%となっています。非生活困難層と比べると、「午後10時～11時までの間」が14.9ポイント多く、「午後11時～午前0時までの間」が5.4ポイント少なくなっています。



問 8 あなたは、週にどのくらい、朝ごはんを食べていますか。(単数回答)

全体をみると、「毎日・ほぼ毎日」が87.0%と最も多く、次いで「週に4～5回」が7.4%となっています。

生活困難層をみると、「毎日・ほぼ毎日」が78.1%と最も多く、次いで「週に1回程度」が9.4%となっています。非生活困難層と比べると、「毎日・ほぼ毎日」が10.6ポイント少なく、「週に1回程度」が7.7ポイント多くなっています。

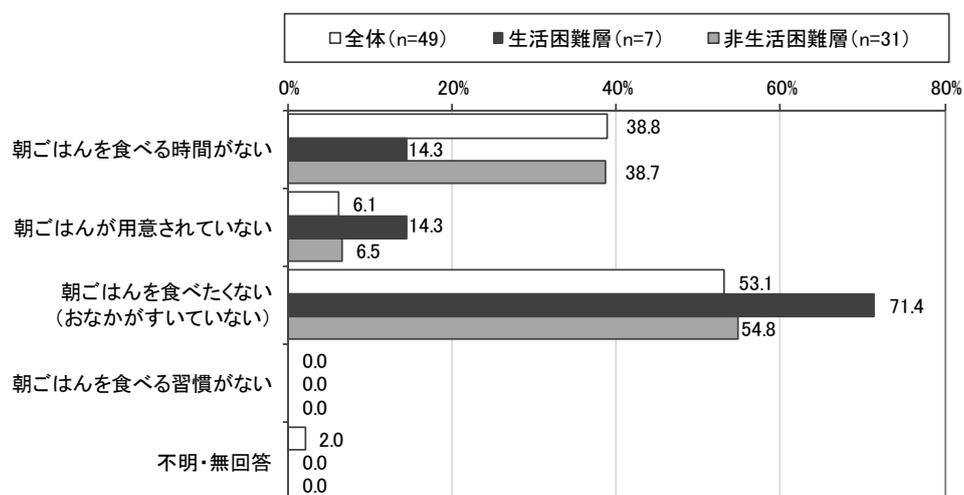


問8で「毎日・ほぼ毎日」以外を選んだ人

問 9 あなたが朝ごはんを食べないとき、その理由は何ですか。(単数回答)

全体をみると、「朝ごはんを食べたくない(おなかがすいていない)」が53.1%と最も多く、次いで「朝ごはんを食べる時間がない」が38.8%となっています。

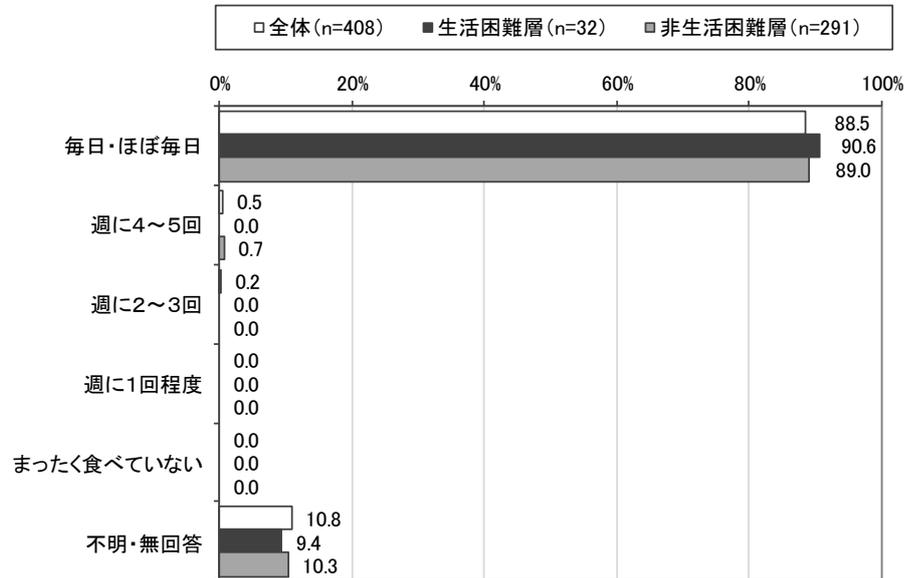
生活困難層をみると、「朝ごはんを食べたくない(おなかがすいていない)」が71.4%と最も多く、次いで「朝ごはんを食べる時間がない」と「朝ごはんが用意されていない」がともに14.3%となっています。非生活困難層と比べると、「朝ごはんを食べる時間がない」が24.4ポイント少なく、「朝ごはんを食べたくない(おなかがすいていない)」が16.6ポイント、「朝ごはんが用意されていない」が7.8ポイント多くなっています。



問 10 あなたは、週にどのくらい、晩ごはんを食べていますか。（単数回答）

全体をみると、「毎日・ほぼ毎日」が88.5%と最も多くなっています。

生活困難層と非生活困難層をみると、全体とほぼ同様の傾向となっています。

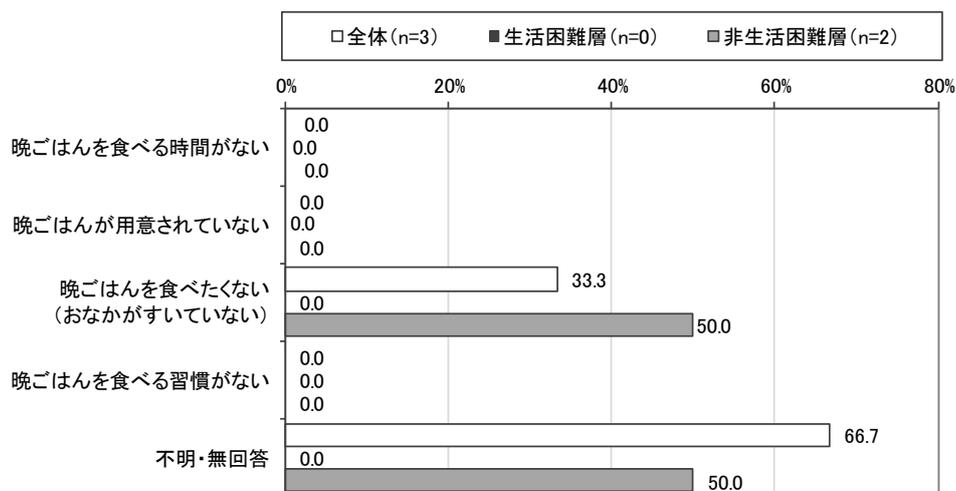


問 10 で「毎日・ほぼ毎日」以外を選んだ人

問 11 あなたが晩ごはんを食べないとき、その理由は何ですか。（単数回答）

全体をみると、「晩ごはんを食べたくない（おなかがすいていない）」が33.3%と最も多くなっています。

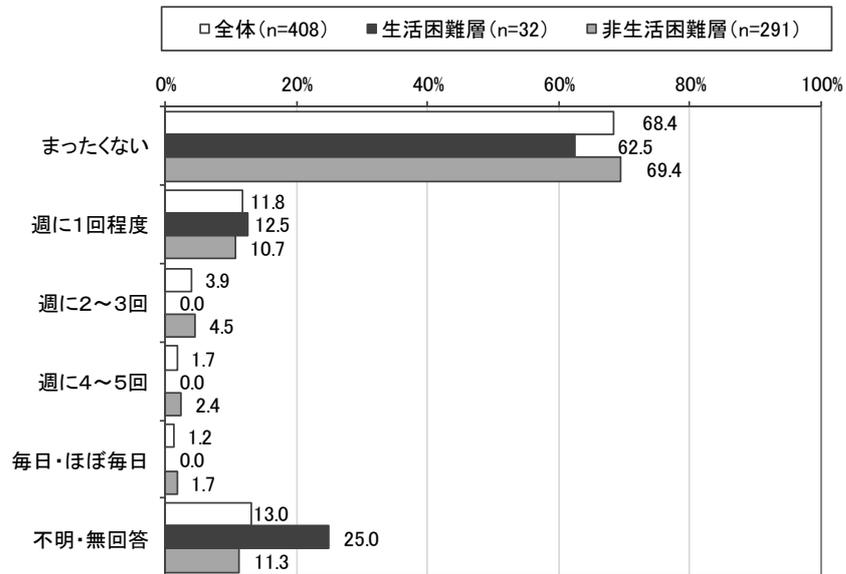
生活困難層をみると、問 10 で「毎日・ほぼ毎日」以外を選んだ人がいなかったため、本質問の回答者は0人となっています。



問 12 あなたは、家でひとりでごはんを食べることがありますか。(単数回答)

全体をみると、「まったくない」が68.4%と最も多く、次いで「週に1回程度」が11.8%となっています。

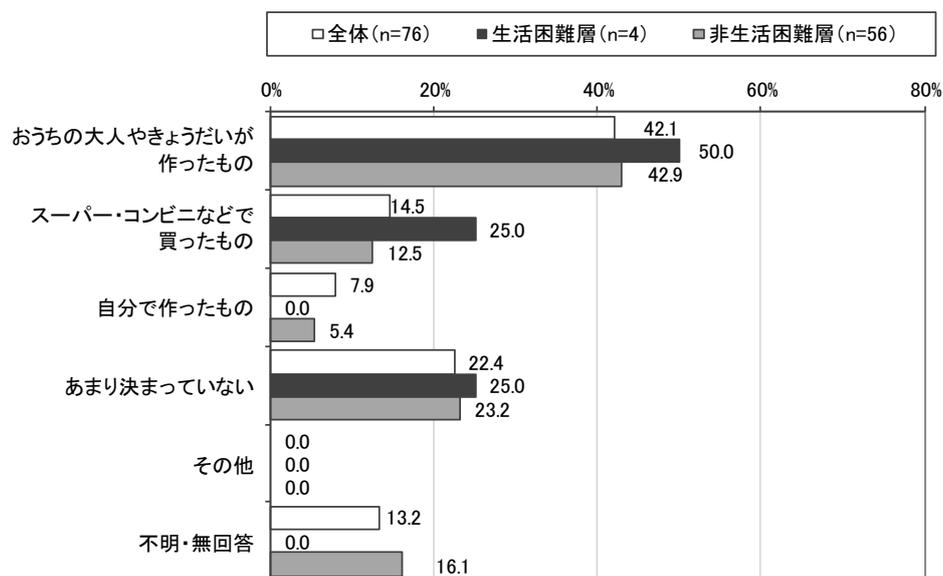
生活困難層をみると、多い項目は全体と同じですが、非生活困難層と比べると、「まったくない」が6.9ポイント少なくなっています。



問 13 ひとりでごはんを食べるとき、何をよく食べていますか。特によく食べているものを1つ教えてください。(単数回答)

全体をみると、「おうちの大人やきょうだい作ったもの」が42.1%と最も多く、次いで「あまり決まっていない」が22.4%となっています。

生活困難層をみると、「おうちの大人やきょうだい作ったもの」が50.0%と最も多く、次いで「スーパー・コンビニなどで買ったもの」と「あまり決まっていない」がともに25.0%となっています。非生活困難層と比べると、「スーパー・コンビニなどで買ったもの」が12.5ポイント、「おうちの大人やきょうだい作ったもの」が7.1ポイント多く、「自分で作ったもの」が5.4ポイント少なくなっています。



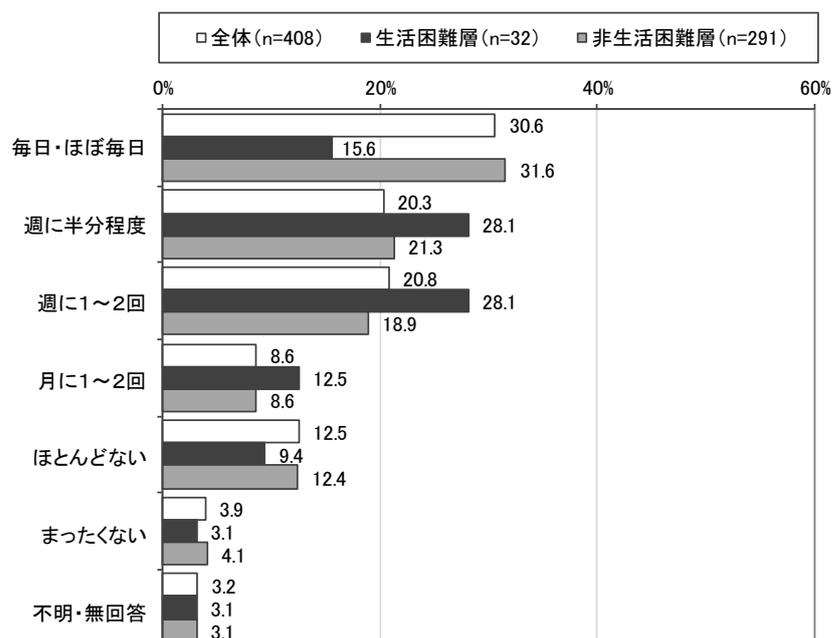
問 14 あなたは、次の「ア」～「エ」のようなことをどのくらいしていますか。

(単数回答)

(ア) おうちの手伝いをする

全体をみると、「毎日・ほぼ毎日」が30.6%と最も多く、次いで「週に1～2回」が20.8%となっています。

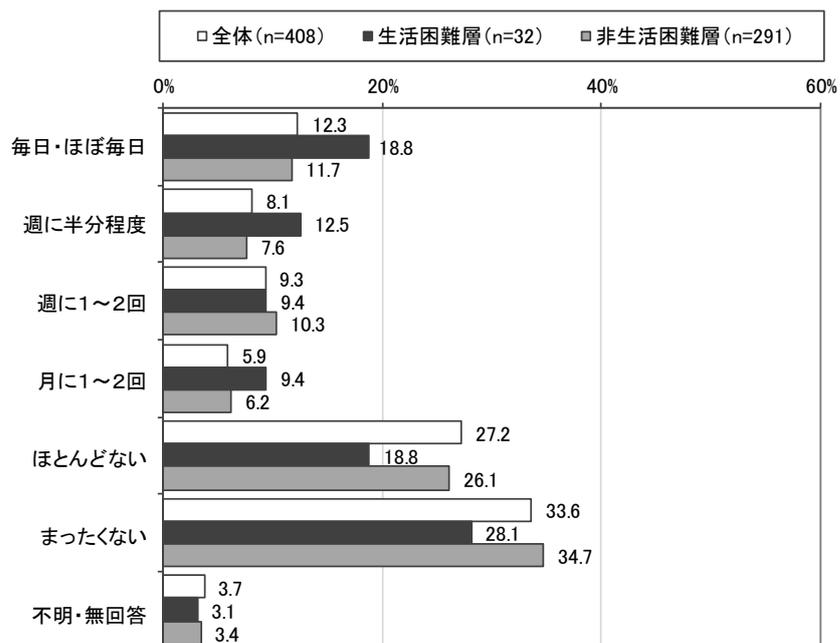
生活困難層をみると、「週に半分程度」と「週に1～2回」がともに28.1%と最も多く、次いで「毎日・ほぼ毎日」が15.6%となっています。非生活困難層と比べると、「毎日・ほぼ毎日」が16.0ポイント少なく、「週に1～2回」が9.2ポイント、「週に半分程度」が6.8ポイント多くなっています。



(イ) おうちの大人の人に宿題（勉強）をみてもらう

全体をみると、「まったくない」が33.6%と最も多く、次いで「ほとんどない」が27.2%となっています。

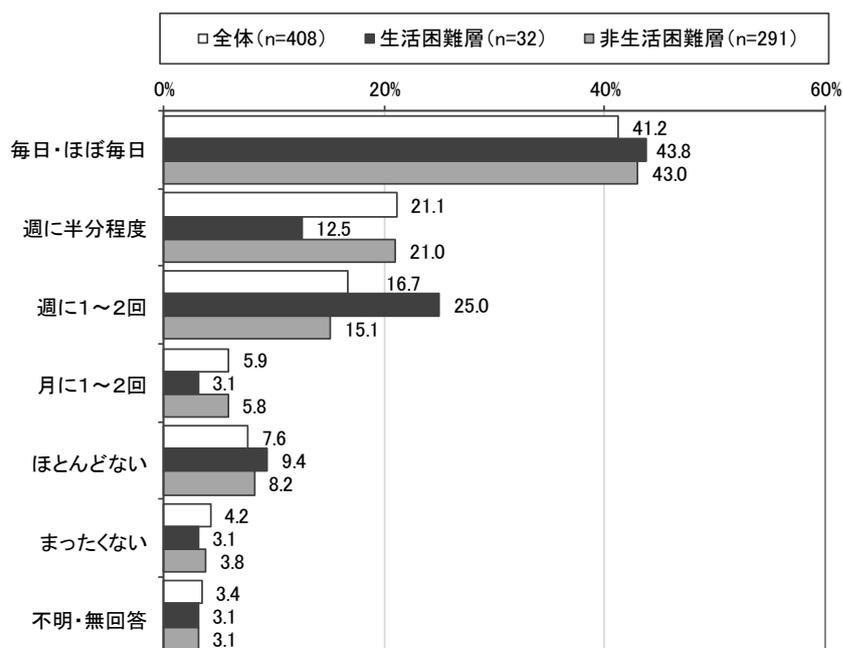
生活困難層をみると、「まったくない」が28.1%と最も多く、次いで「毎日・ほぼ毎日」と「ほとんどない」がともに18.8%となっています。非生活困難層と比べると、「ほとんどない」が7.3ポイント、「まったくない」が6.6ポイント少なく、「毎日・ほぼ毎日」が7.1ポイント多くなっています。



(ウ) おうちの大人の人と学校などでのできごとについて話をする

全体をみると、「毎日・ほぼ毎日」が41.2%と最も多く、次いで「週に半分程度」が21.1%となっています。

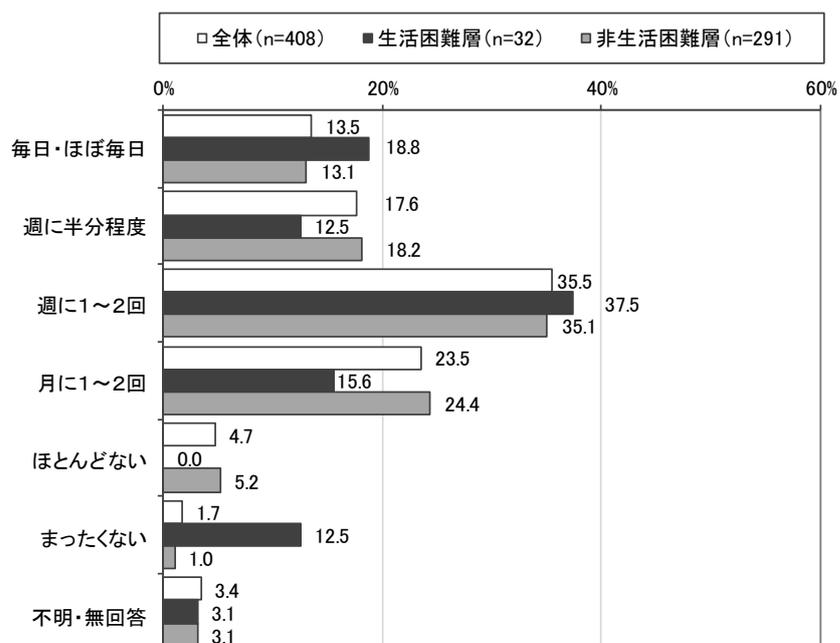
生活困難層をみると、「毎日・ほぼ毎日」が43.8%と最も多く、次いで「週に1～2回」が25.0%となっています。非生活困難層と比べると、「週に1～2回」が9.9ポイント多く、「週に半分程度」が8.5ポイント少なくなっています。



(エ) おうちの大人の人と外出（散歩、買い物、外食など）する

全体をみると、「週に1～2回」が35.5%と最も多く、次いで「月に1～2回」が23.5%となっています。

生活困難層をみると、「週に1～2回」が37.5%と最も多く、次いで「毎日・ほぼ毎日」が18.8%となっています。非生活困難層と比べると、「月に1～2回」が8.8ポイント、「週に半分程度」が5.7ポイント少なく、「毎日・ほぼ毎日」が5.7ポイント多くなっています。

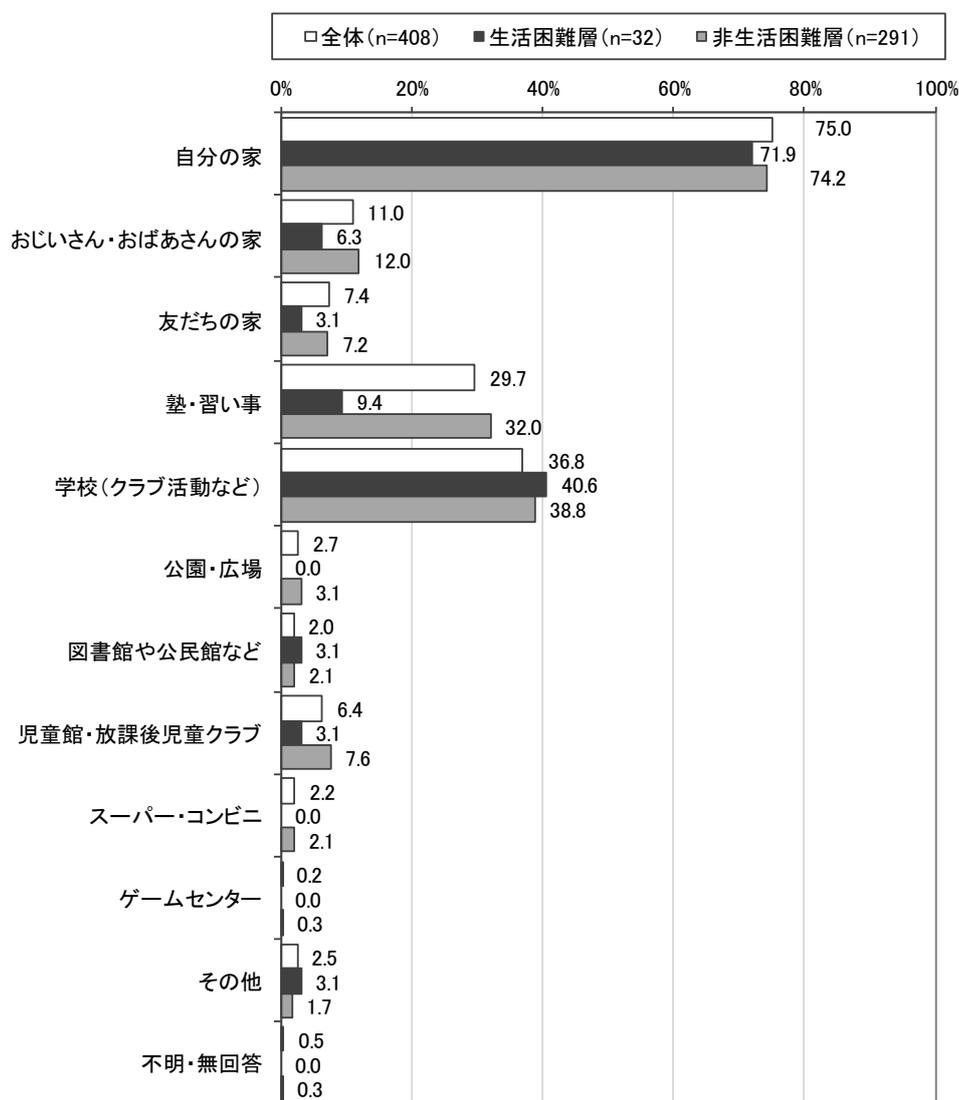


3) 学校での生活について

問 15 あなたは、ふだん（月曜日～金曜日）の放課後、どこで過ごしますか。
（複数回答）

全体をみると、「自分の家」が75.0%と最も多く、次いで「学校（クラブ活動など）」が36.8%となっています。

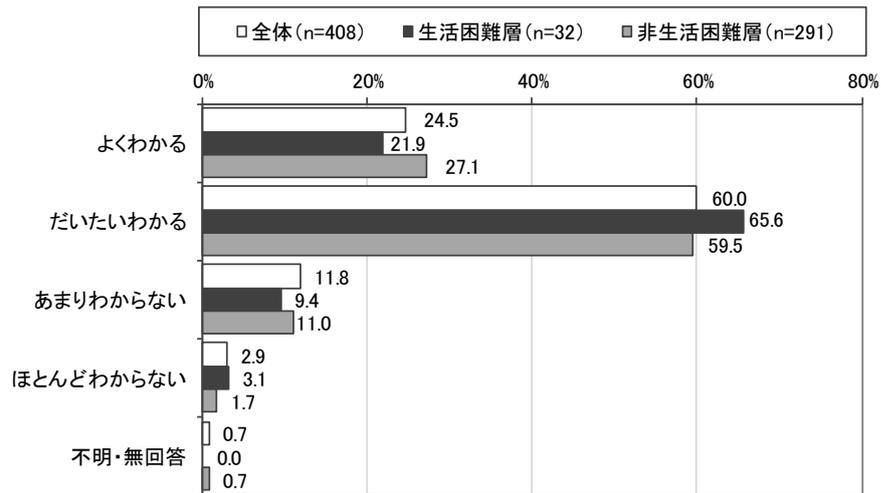
生活困難層をみると、多い項目は全体と同じですが、非生活困難層と比べると、「塾・習い事」が22.6ポイント、「おじいさん・おばあさんの家」が5.7ポイント少なくなっています。



問 16 学校の勉強はわかりますか。一番あなたの気持ちに近いものはどれですか。
(単数回答)

全体をみると、「だいたいわかる」が60.0%と最も多く、次いで「よくわかる」が24.5%となっています。

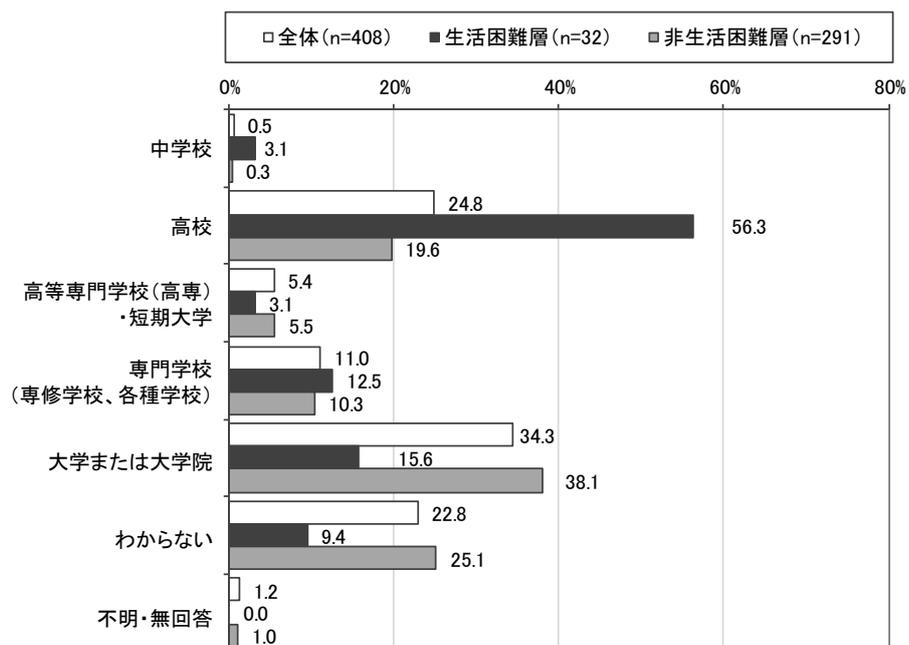
生活困難層をみると、多い項目は全体と同じですが、非生活困難層と比べると、「だいたいわかる」が6.1ポイント多く、「よくわかる」が5.2ポイント少なくなっています。



問 17 あなたは、将来どの学校まで進学したいと思いますか。(単数回答)

全体をみると、「大学または大学院」が34.3%と最も多く、次いで「高校」が24.8%となっています。

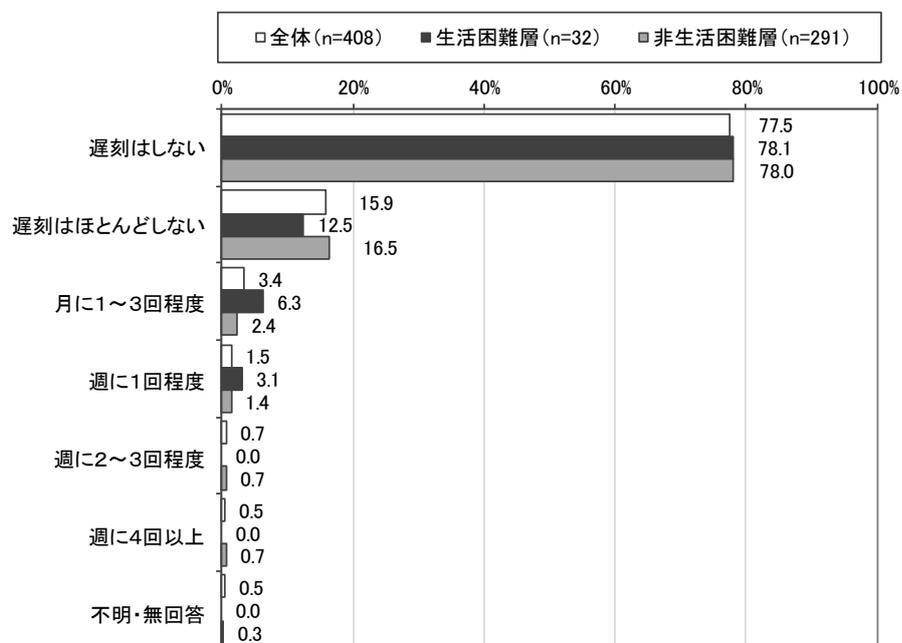
生活困難層をみると、「高校」が56.3%と最も多く、次いで「大学または大学院」が15.6%となっています。非生活困難層と比べると、「高校」が36.7ポイント多く、「大学または大学院」が22.5ポイント、「わからない」が15.7ポイント少なくなっています。



問 18 あなたは、通っている学校などに遅刻することがありますか。(単数回答)

全体をみると、「遅刻はしない」が77.5%と最も多く、次いで「遅刻はほとんどしない」が15.9%となっています。

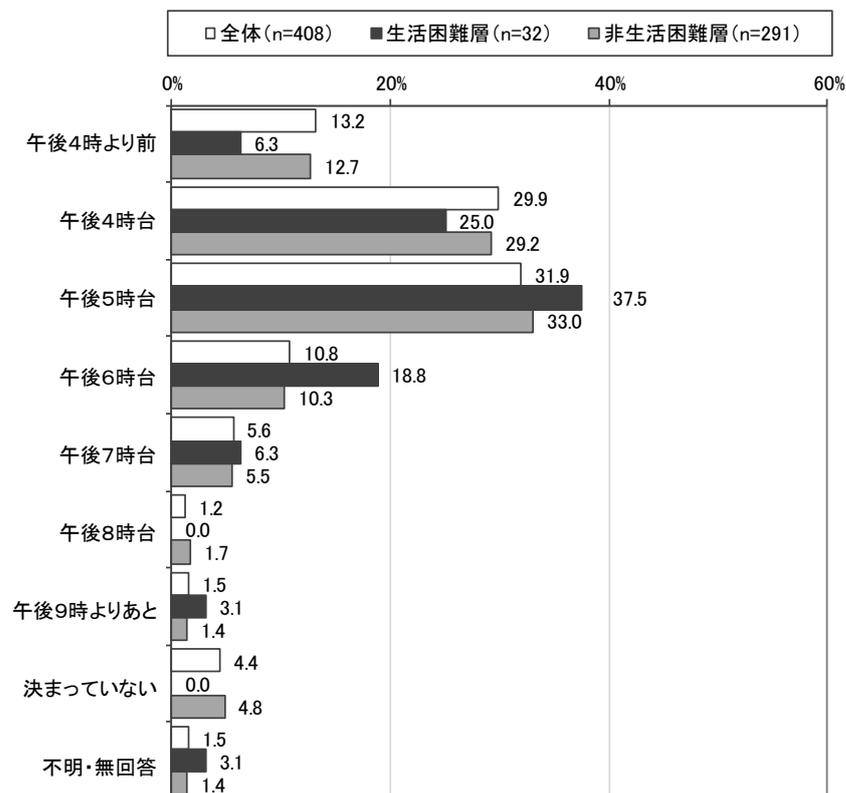
生活困難層と非生活困難層をみると、全体とほぼ同様の傾向となっています。



問 19 あなたは、ふだん、何時に帰宅していますか。(単数回答)

全体をみると、「午後5時台」が31.9%と最も多く、次いで「午後4時台」が29.9%となっています。

生活困難層をみると、多い項目は全体と同じですが、非生活困難層と比べると、「午後6時台」が8.5ポイント多く、「午後4時より前」が6.4ポイント少なくなっています。

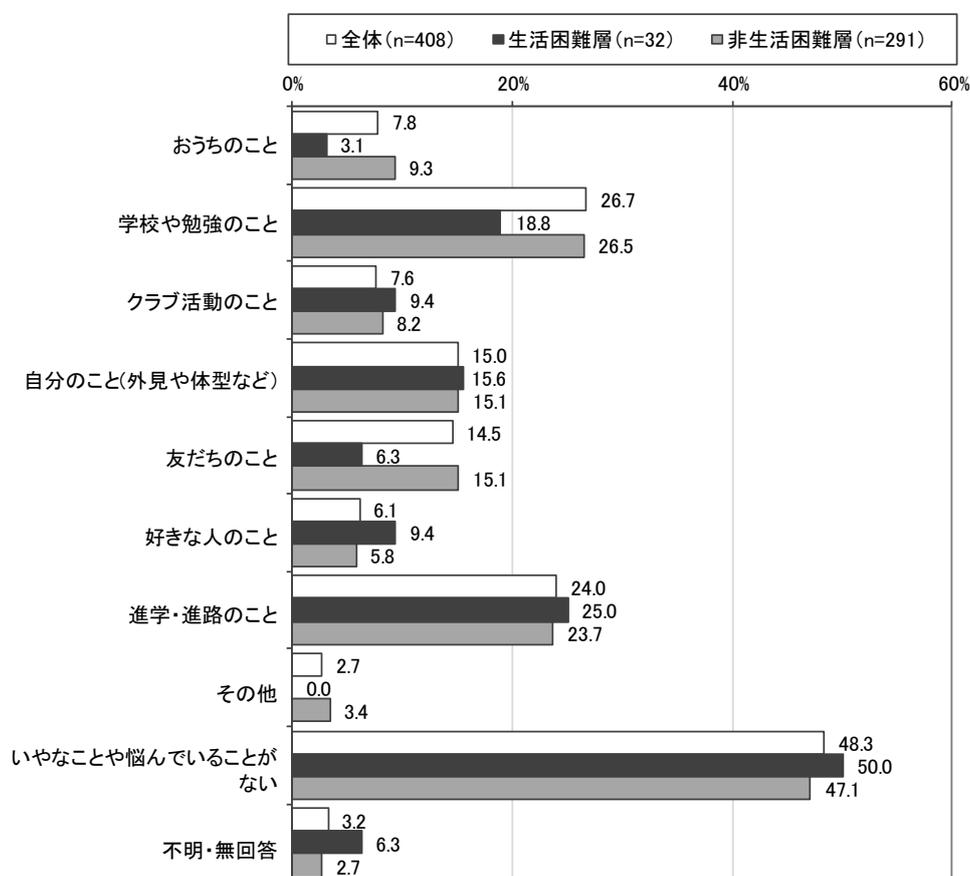


4) 回答者の悩みや友だちなどについて

問 20 今、あなたは、いやなことや悩んでいることがありますか。(単数回答)

全体をみると、「いやなことや悩んでいることがない」が48.3%と最も多く、次いで「学校や勉強のこと」が26.7%となっています。

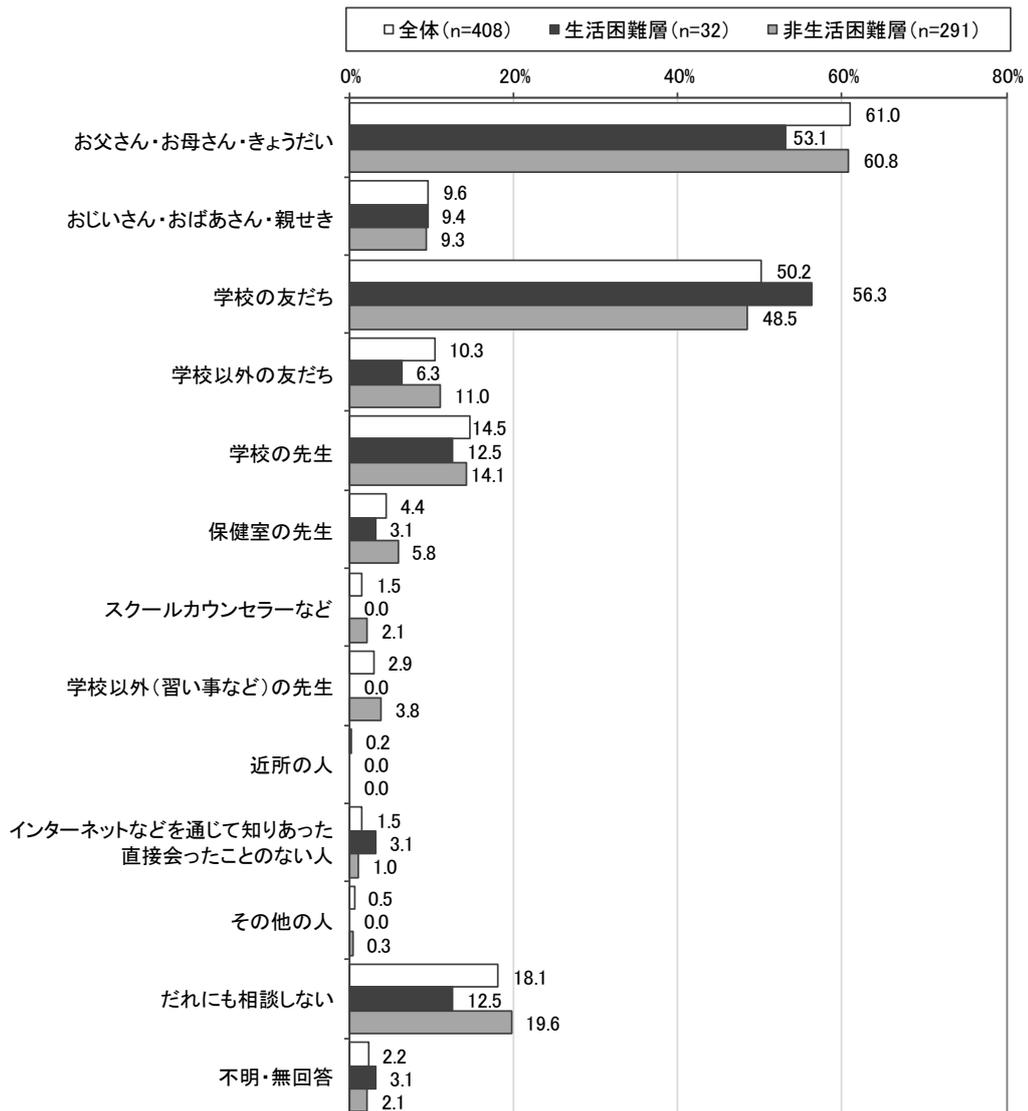
生活困難層をみると、「いやなことや悩んでいることがない」が50.0%と最も多く、次いで「進学・進路のこと」が25.0%となっています。非生活困難層と比べると、「友だちのこと」が8.8ポイント、「学校や勉強のこと」が7.7ポイント、「おうちのこと」が6.2ポイント少なくなっています。



**問 21 あなたは、いやなことや悩んでいることがあるとき、だれに相談しますか。
(複数回答)**

全体をみると、「お父さん・お母さん・きょうだい」が61.0%と最も多く、次いで「学校の友だち」が50.2%となっています。

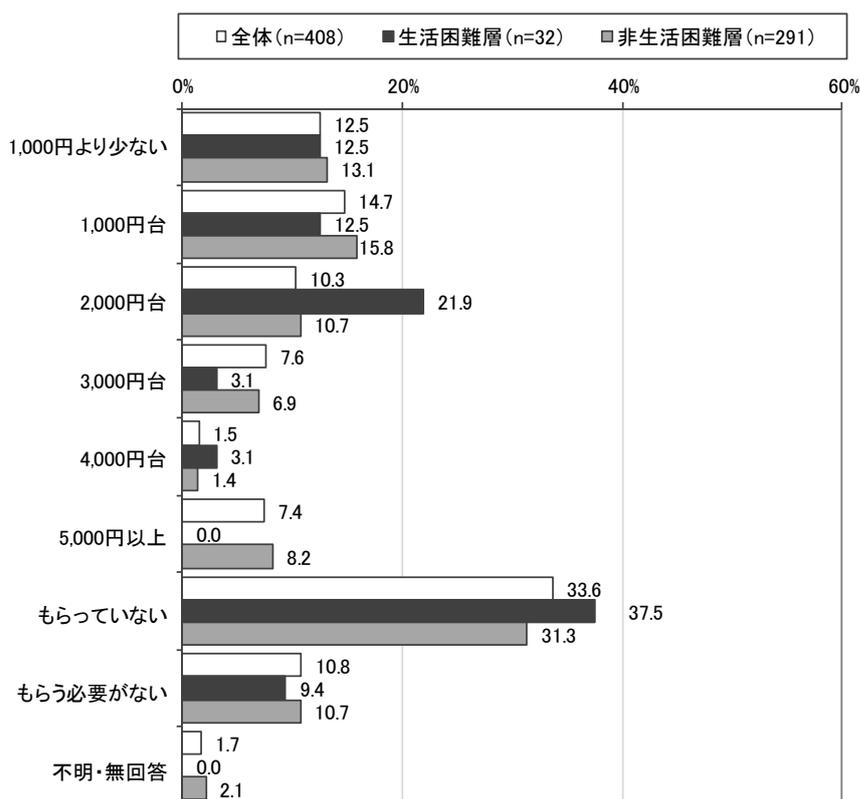
生活困難層をみると、多い項目は全体と同じですが、非生活困難層と比べると、「学校の友だち」が7.8ポイント多く、「お父さん・お母さん・きょうだい」が7.7ポイント、「だれにも相談しない」が7.1ポイント少なくなっています。



問 22 あなたの毎月のおこづかいはいくらですか。(単数回答)

全体をみると、「もらっていない」が33.6%と最も多く、次いで「1,000円台」が14.7%となっています。

生活困難層をみると、「もらっていない」が37.5%と最も多く、次いで「2,000円台」が21.9%となっています。非生活困難層と比べると、「2,000円台」が11.2ポイント、「もらっていない」が6.2ポイント多くなっています。

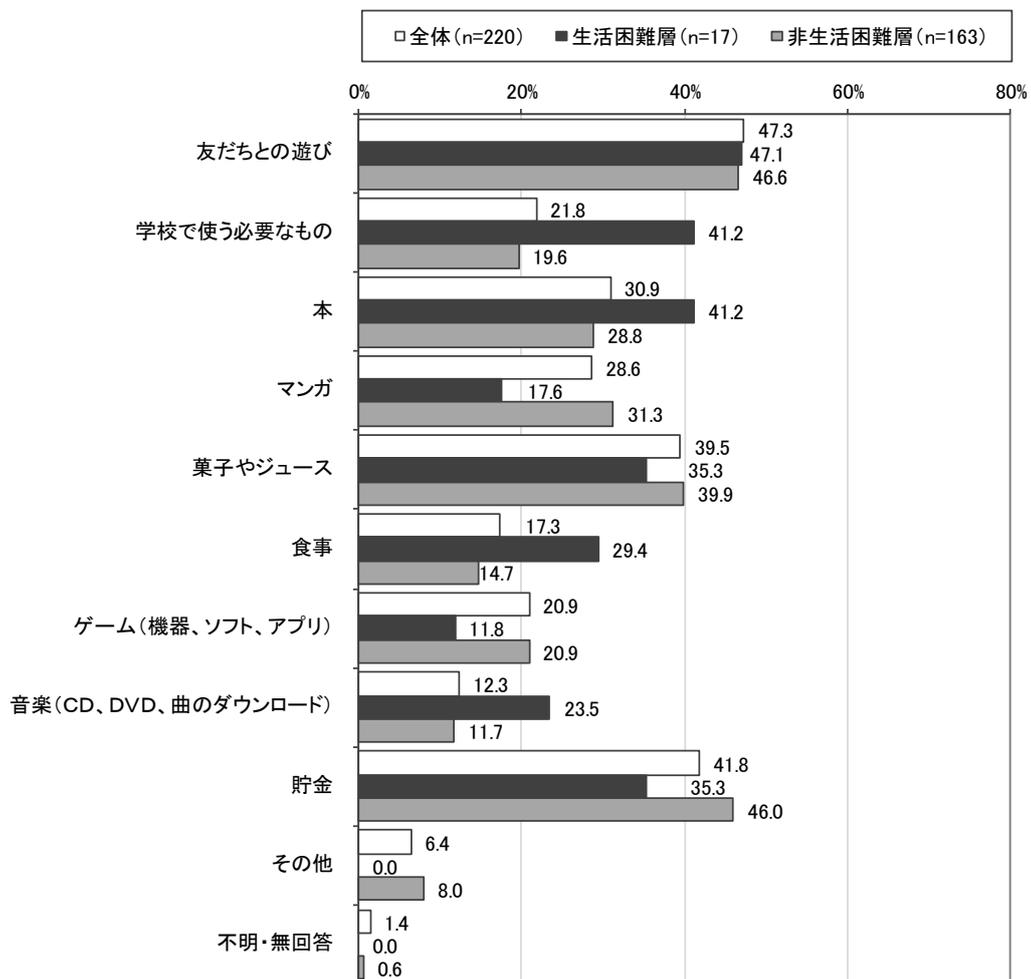


問 22 で「1 (1,000 円より少ない)」～「6 (5,000 円以上)」を選んだ人

問 23 毎月のおこづかいは、何に使っていますか。(単数回答)

全体をみると、「友だちとの遊び」が 47.3%と最も多く、次いで「貯金」が 41.8%となっています。

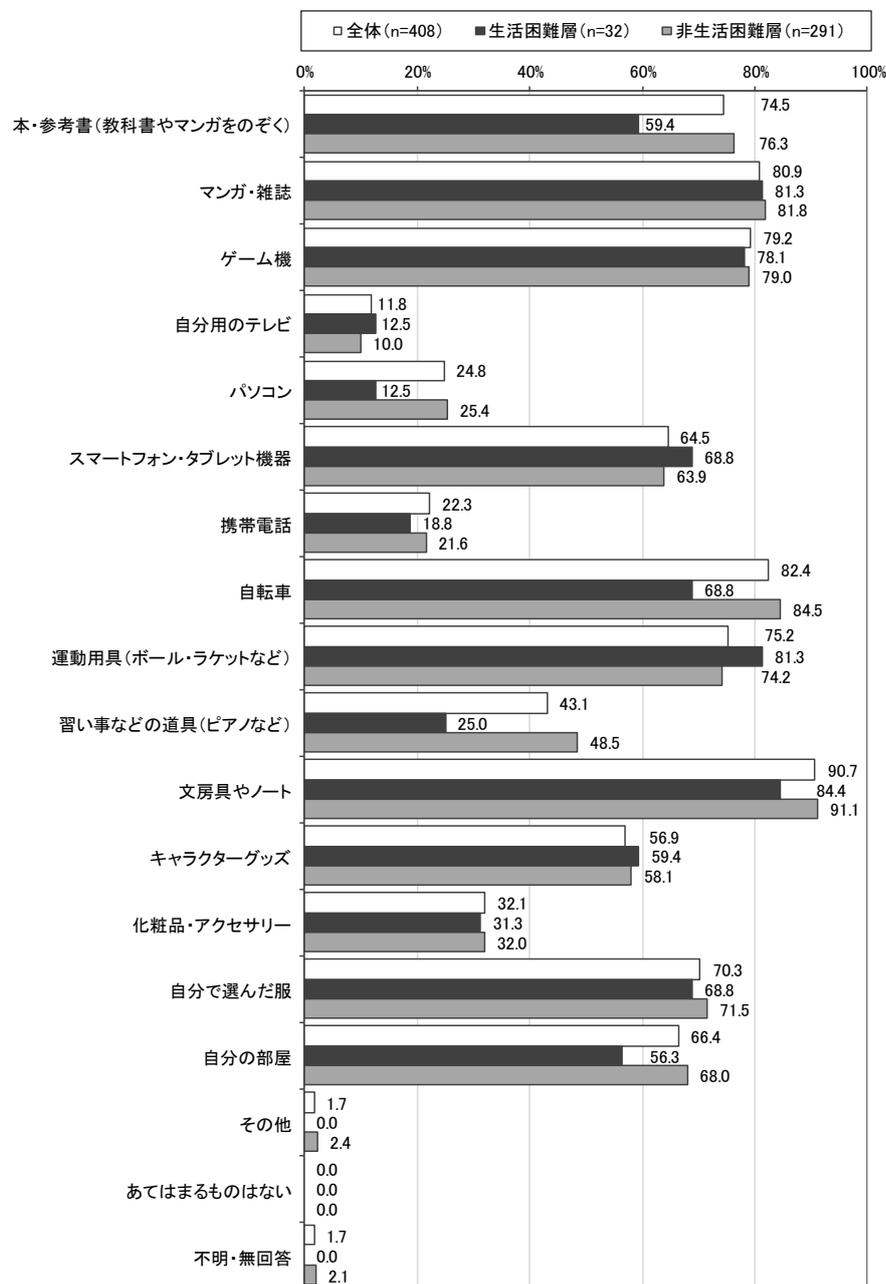
生活困難層をみると、「友だちとの遊び」が 47.1%と最も多く、次いで「学校で使う必要なもの」と「本」がともに 41.2%となっています。非生活困難層と比べると、「学校で使う必要なもの」が 21.6 ポイント、「食事」が 14.7 ポイント、「本」が 12.4 ポイント、「音楽 (CD、DVD、曲のダウンロード)」が 11.8 ポイント多く、「マンガ」が 13.7 ポイント、「貯金」が 10.7 ポイント、「ゲーム (機器、ソフト、アプリ)」が 9.1 ポイント少なくなっています。



問 24 あなたが、持っているものや、あなたが使うことができるものを選んでください。（複数回答）

全体をみると、「文房具やノート」が90.7%と最も多く、次いで「自転車」が82.4%となっています。

生活困難層をみると、「文房具やノート」が84.4%と最も多く、次いで「マンガ・雑誌」と「運動用具（ボール・ラケットなど）」がともに81.3%となっています。非生活困難層と比べると、「習い事などの道具（ピアノなど）」が23.5ポイント、「本・参考書（教科書やマンガをのぞく）」が16.9ポイント、「自転車」が15.7ポイント、「パソコン」が12.9ポイント、「自分の部屋」が11.7ポイント、「文房具やノート」が6.7ポイント少なく、「運動用具（ボール・ラケットなど）」が7.1ポイント多くなっています。

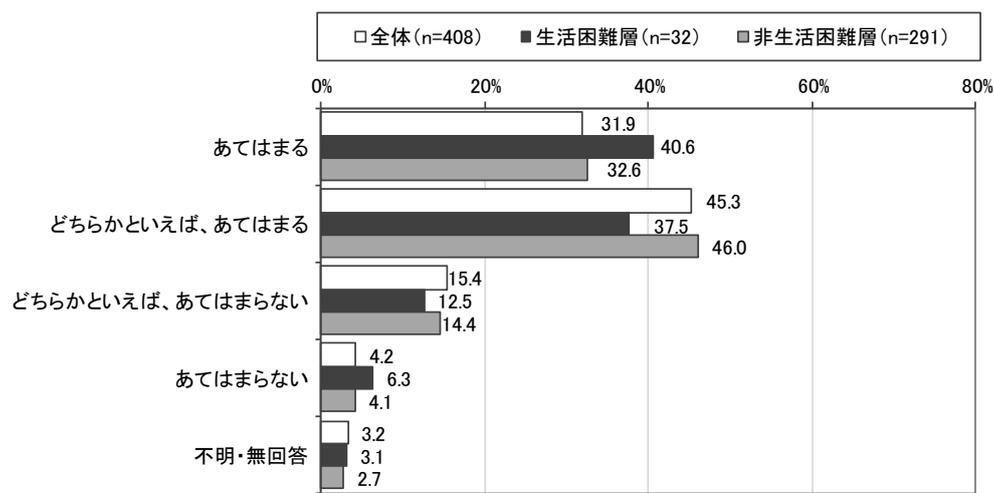


問 25 あなたは、次の「ア」～「カ」の自分自身のことについてどう思っていますか。（単数回答）

（ア）頑張れば何でもできると思う

全体をみると、「どちらかといえば、あてはまる」が45.3%と最も多く、次いで「あてはまる」が31.9%となっています。

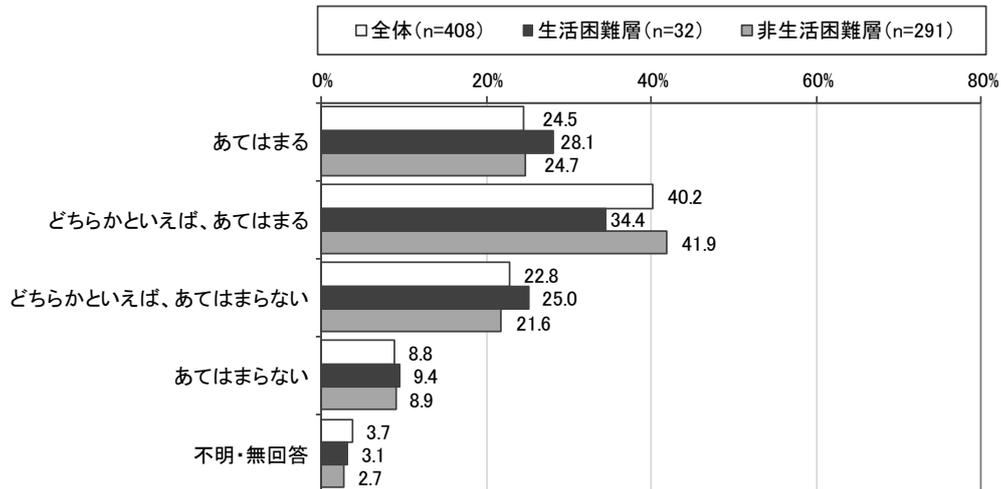
生活困難層をみると、「あてはまる」が40.6%と最も多く、次いで「どちらかといえば、あてはまる」が37.5%となっています。非生活困難層と比べると、「どちらかといえば、あてはまる」が8.5ポイント少なく、「あてはまる」が8.0ポイント多くなっています。



(イ) 自分は価値のある人間だと思う

全体をみると、「どちらかといえば、あてはまる」が40.2%と最も多く、次いで「あてはまる」が24.5%となっています。

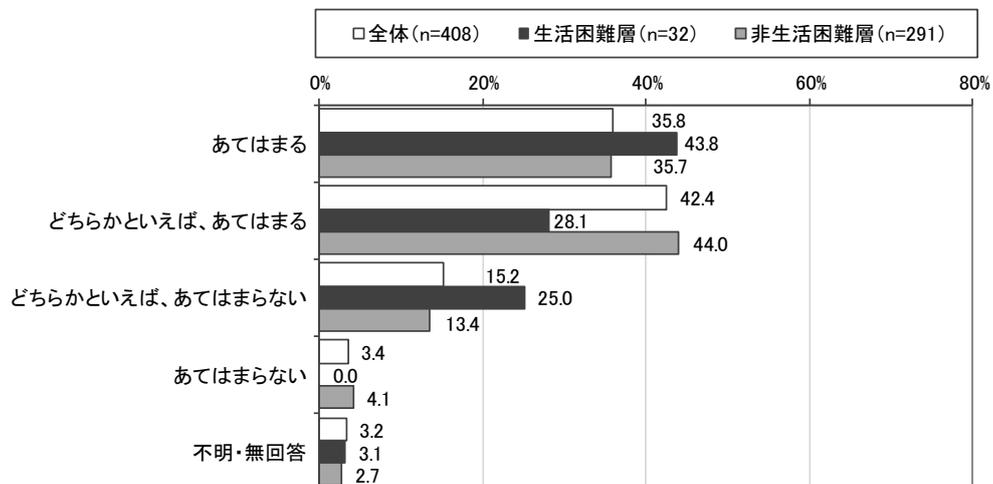
生活困難層をみると、多い項目は全体と同じですが、非生活困難層と比べると、「どちらかといえば、あてはまる」が7.5ポイント少なくなっています。



(ウ) 自分にはよいところがある

全体をみると、「どちらかといえば、あてはまる」が42.4%と最も多く、次いで「あてはまる」が35.8%となっています。

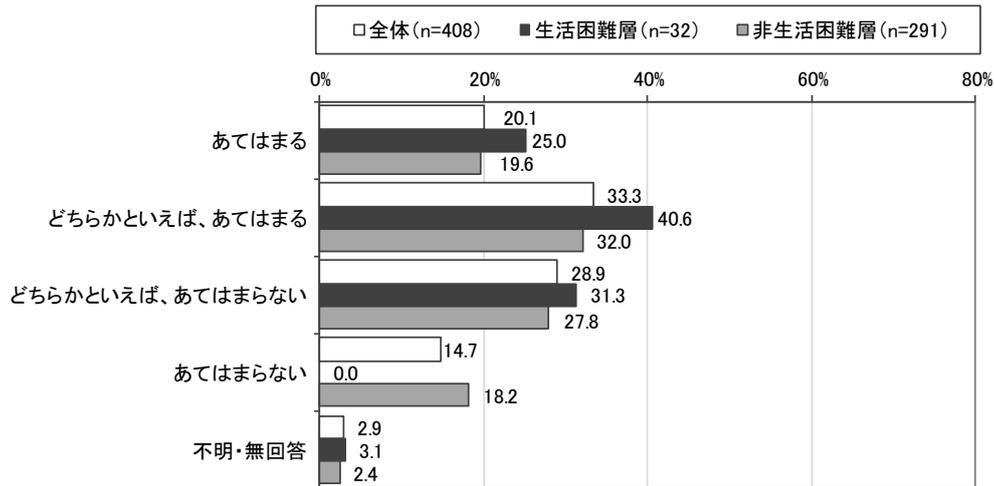
生活困難層をみると、「あてはまる」が43.8%と最も多く、次いで「どちらかといえば、あてはまる」が28.1%となっています。非生活困難層と比べると、「どちらかといえば、あてはまる」が15.9ポイント少なく、「どちらかといえば、あてはまらない」が11.6ポイント、「あてはまる」が8.1ポイント多くなっています。



(エ) 不安に感じるところはない

全体をみると、「どちらかといえば、あてはまる」が 33.3%と最も多く、次いで「どちらかといえば、あてはまらない」が 28.9%となっています。

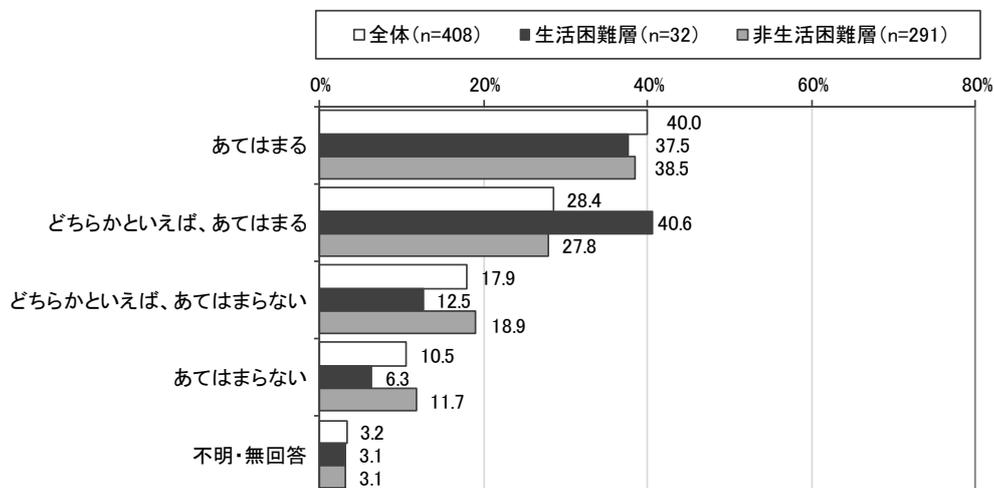
生活困難層をみると、多い項目は全体と同じですが、非生活困難層と比べると、「あてはまらない」が 18.2 ポイント少なく、「どちらかといえば、あてはまる」が 8.6 ポイント、「あてはまる」が 5.4 ポイント多くなっています。



(オ) 孤独を感じることはない

全体をみると、「あてはまる」が 40.0%と最も多く、次いで「どちらかといえば、あてはまる」が 28.4%となっています。

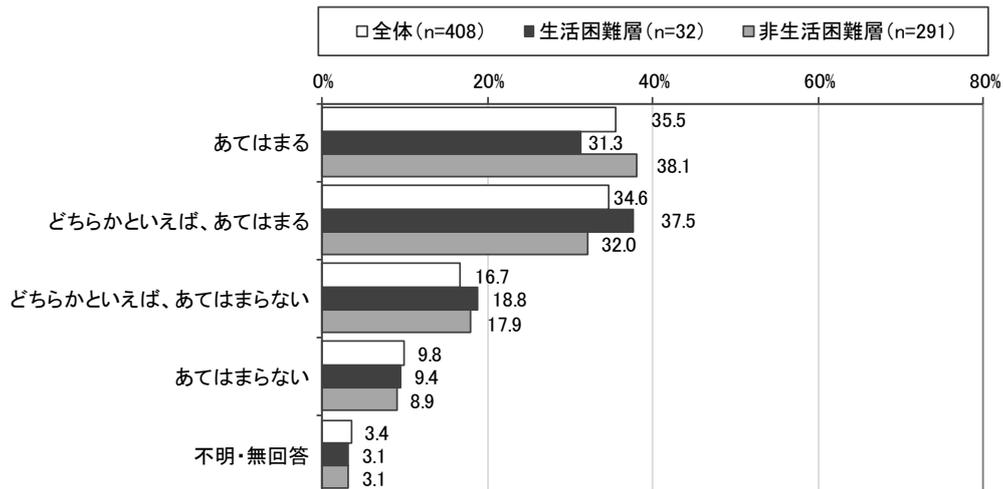
生活困難層をみると、「どちらかといえば、あてはまる」が 40.6%と最も多く、次いで「あてはまる」が 37.5%となっています。非生活困難層と比べると、「どちらかといえば、あてはまる」が 12.8 ポイント多く、「どちらかといえば、あてはまらない」が 6.4 ポイント、「あてはまらない」が 5.4 ポイント少なくなっています。



(カ) 自分の将来が楽しみだ

全体をみると、「あてはまる」が35.5%と最も多く、次いで「どちらかといえば、あてはまる」が34.6%となっています。

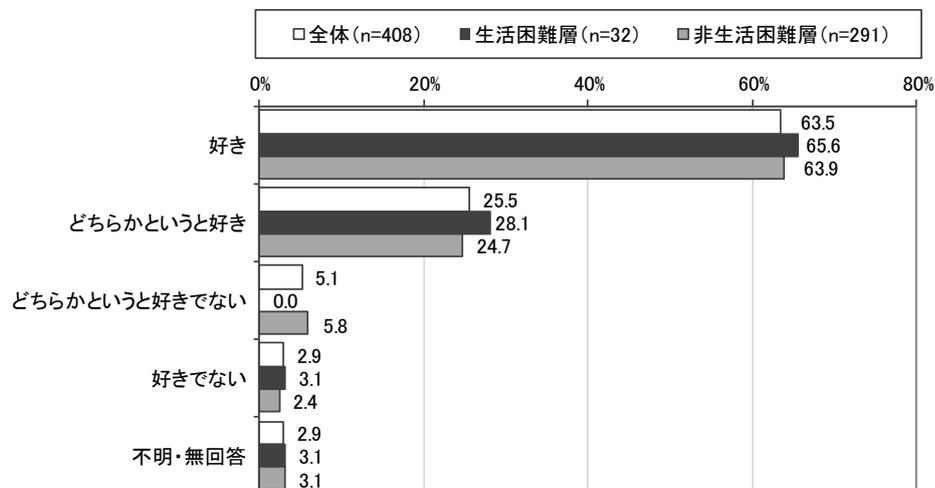
生活困難層をみると、「どちらかといえば、あてはまる」が37.5%と最も多く、次いで「あてはまる」が31.3%となっています。非生活困難層と比べると、「あてはまる」が6.8ポイント少なく、「どちらかといえば、あてはまる」が5.5ポイント多くなっています。



問 26 あなたは、自分の家は好きですか。(単数回答)

全体をみると、「好き」が63.5%と最も多く、次いで「どちらかというとき好き」が25.5%となっています。

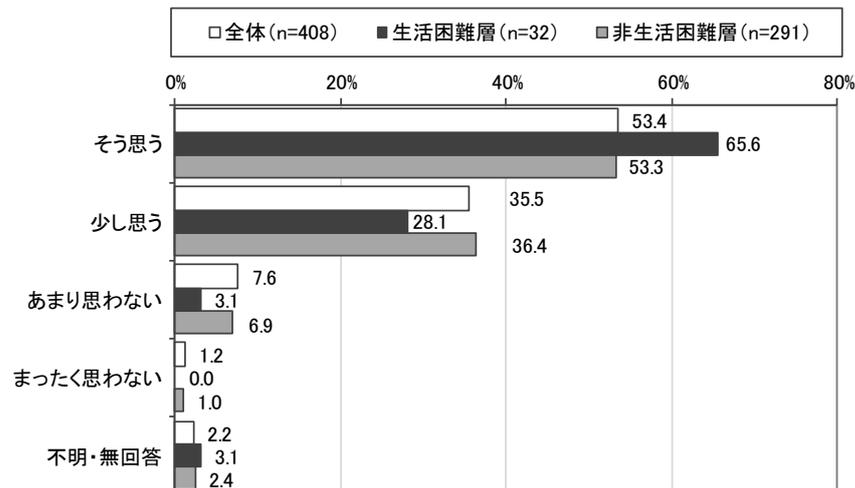
生活困難層をみると、多い項目は全体と同じですが、非生活困難層と比べると、「どちらかというとき好きでない」が5.8ポイント少なくなっています。



問 27 あなたは、家族のために頑張りたいですか。（単数回答）

全体をみると、「そう思う」が53.4%と最も多く、次いで「少し思う」が35.5%となっています。

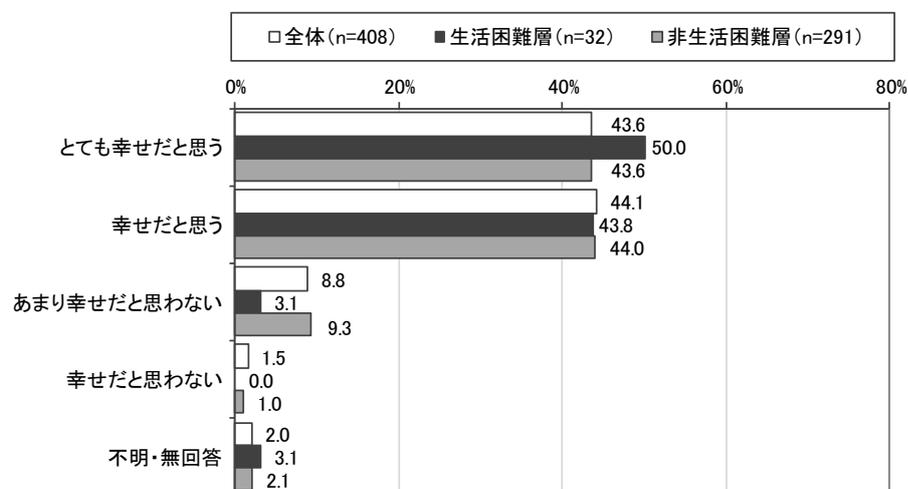
生活困難層をみると、多い項目は全体と同じですが、非生活困難層と比べると、「そう思う」が12.3ポイント多く、「少し思う」が8.3ポイント少なくなっています。



問 28 あなたは、自分が幸せだと思いますか。（単数回答）

全体をみると、「幸せだと思う」が44.1%と最も多く、次いで「とても幸せだと思う」が43.6%となっています。

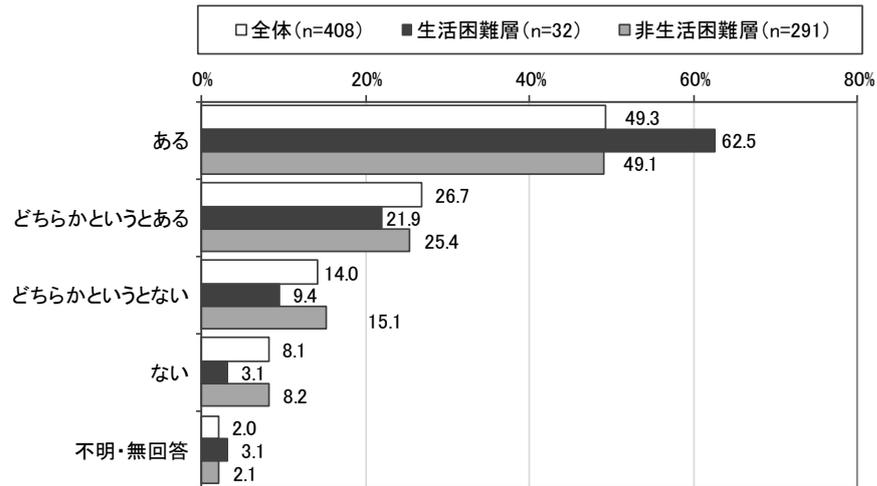
生活困難層をみると、「とても幸せだと思う」が50.0%と最も多く、次いで「幸せだと思う」が43.8%となっています。非生活困難層と比べると、「とても幸せだと思う」が6.4ポイント多く、「あまり幸せだと思わない」が6.2ポイント少なくなっています。



問 29 あなたは、自分の将来の夢や目標がありますか。(単数回答)

全体をみると、「ある」が49.3%と最も多く、次いで「どちらかというところ」が26.7%となっています。

生活困難層をみると、多い項目は全体と同じですが、非生活困難層と比べると、「ある」が13.4ポイント多く、「どちらかというところ」が5.7ポイント、「ない」が5.1ポイント少なくなっています。



Ⅱ．関係機関等ヒアリング調査結果

1 調査概要

1) 調査目的

子どもの貧困が大きな社会問題として注目される中、関係する機関・団体を対象に、貧困家庭の特性や市として必要と考える対策等を伺い、子どもの貧困対策に向けた基礎資料収集を目的として実施します。

2) 調査手法

- ①事前アンケートシートの配布・回収
- ②訪問ヒアリング

3) 調査対象及び調査時期

No	調査対象	調査時期
1	白石市教育委員会・ スクールソーシャルワーカー (中学校)	平成 30 年 1 月 23 日 9 時 30 分～10 時 40 分
2	白石市教育委員会・ スクールソーシャルワーカー (小学校)	平成 30 年 1 月 23 日 10 時 55 分～11 時 55 分
3	しろいし家庭教育支援チーム ペアレントらん	平成 30 年 1 月 23 日 12 時 45 分～13 時 30 分
4	白石市民生委員児童委員協議会	平成 30 年 1 月 24 日 10 時～10 時 50 分
5	白石市社会福祉協議会 (生活相談係)	平成 30 年 1 月 24 日 13 時 30 分～14 時 40 分
6	大河原職業安定所白石出張所	平成 30 年 1 月 24 日 15 時～15 時 40 分
7	白石市子どもの学習・ 生活支援共同体 (アスイク)	平成 30 年 1 月 25 日 11 時～12 時
8	宮城県白石高等学校七ヶ宿校	平成 30 年 2 月 16 日 9 時～10 時 10 分

2 調査結果のまとめ（主な調査ポイント）

1) 貧困家庭の具体的なケースについて

保護者の特性として、ひとり親家庭の中でも、特に母子家庭が多い状況をはじめ、非正規雇用等の不安定な仕事の中で、経済的に厳しい状況がみられることを把握しました。また、仕事に追われ、子どもと接する時間が短い状況や、就労、経済的問題等の多様な問題を一人で抱え孤立している状況がみられることを把握しました。

子どもの特性として、不規則な食事等の基本的な生活習慣が欠如している状況をはじめ、一般家庭と比べて学力が劣る傾向や、学習塾に行けない状況がみられることを把握しました。また、高校卒業後は就職を希望することが多く、経済的理由により進学を断念するケースがあることを把握しました。

ア 保護者の特性・状況について

<ポイント①> ひとり親家庭で、特に母子家庭が多い

- 比較的ひとり親家庭、特に母子家庭が多い。
- （現在はふたり親だが）離婚を考えている家庭が多い。

<ポイント②> 非正規雇用で長時間労働、就労が不安定

- 正規社員として働けない人が多い。小さい子どもがいることで、働ける時間や曜日に制限がかかる場合、その傾向が強い。
- 父親が働いていなく、母親がダブルワークをしているケースがある。
- 保護者がダブルワークで、昼夜の就労を余儀なくされているケースがある。
- 両親がいる家庭であっても、子どもが多かったり、父親の疾病等により、母親が就労できない家庭が複数ある。
- 仕事を終えて母親が帰宅する時間が遅いケースがある（夜8時頃）。
- 両親がいる家庭でも、父親が定職をもたず、仕事を転々と変えているケースがある。
- 保護者の疾病のため、就労ができないケースがある。
- 就労が不安定で、定着しないケースがある。
- 生活保護の人は、生活資金を支援してもらっているので、就労に対して熱心ではない。生活困窮の人は、生活資金の支援がないので、就労に対して熱心。

<ポイント③> 経済的に生活が厳しい

- 仕事に制限がかかるため、必要な収入を得られない状況がある。
- 経済的に逼迫してしまい、学費や給食費の延滞や未納となるケースがある。
- 父親が遊び好きで、経済的に不安定な家庭のケースがある。
- 父親が、低収入や無職、就活中であったり、債務問題を抱えているケースがある。
- 修学旅行に行くお金や制服を買うお金がなく、困っている家庭がある。

<ポイント④> 経済的観念、家計管理意識が希薄

- ゲームやバイク等、金銭感覚や家計管理意識が、一般とずれていると感じるケースがある。
- 生活保護を受給している人は、金銭感覚がやや欠如しているケースがある。
- 保護者の現状の生活水準(生活の不安定さ)に問題意識をもっていないように感じられる。その背景として、保護者の親が同じように問題意識をもっていない、そのような生活水準で育ってきたため、「今の生活水準でよし」とするケースがある。

<ポイント⑤> 生活にいっぱいいっぱい、子どもと十分に関われない

- 仕事に追われ、なかなか休めず、子どもと十分に関われないケースがある。
- 日々の生活のことでいっぱいいっぱいの保護者がいる。

<ポイント⑥> 障がいを抱えている

- 父親か母親のどちらかに障がいを抱えているケースがある。
- 障害手帳はもっていないが、発達障害や精神疾患が懸念される保護者がいる。
- 子どものきょうだいで、障がいを抱えている家庭がある。

<ポイント⑦> 保護者の養育力や教育力が低い

- 朝に「学校に行きなさい」等、保護者が子どもに声をかけないケースがある。
- 働くことや経済的に大変な状況の中、子どもの生活を視野に入れ、子どものことをきちんと確認・対応していくことができていない。例えば、子どもとの関わりで、「今日何があった?」「朝ごはんはしっかり食べるのよ」等の子どものとの会話ができている可能性がみえてくる。
- 親が子どもの変化に気づくことが遅かったり、問題意識をもたなかったりするケースがある。
- 保護者の教育力が一般家庭より低く、子どもの教育に対し熱心でない傾向がある。
- 子どもが宿題をやっていない場合等、保護者が子どもにどう関わればよいかわからないためなのか、子どもへの関わりが低い傾向がある。

<ポイント⑧> 子どもの進学希望は高校までで、卒業後就職を望む

- 子どもに対し、高校卒業まではなんとか進学してもらいたいと思う保護者が多い。大学まで進学を望む保護者はほとんどいない。その背景としては、経済的理由とともに、保護者自身が中卒か高卒で、大学進学が最初から頭にないことが挙げられる。
- 子どもの進学に対しては、高校卒業後就職を希望することが多い。保護者が中卒や高卒で、大学に進学してから就職することがイメージできていないケースがある。
- 保護者が自分で受けてきた教育環境が、進学のための教育を受けてきていないためと思われる。保護者の教育レベルが低く、進学の教育を受けていないと見受けられる保護者のケースが何件もあった。

＜ポイント⑨＞ 子どもの預け先がない

- 市内に近親者がいないため（子どもを預けるなどの）協力が得られず、就労時間等を考えなければならないケースがある。
- 働くために、小さい子どもを預ける場所がないケースがある。保育園に申請をしているが入園できていないケースや、保護者の親に子どもをみてもらっているが、曜日や時間が限られているケースがある。

＜ポイント⑩＞ ネグレクト、家庭内暴力

- 両親とも前家庭の子どもで、子どもを無視するようになってきたケースがある。
- 父親が母親に暴力を振るうケースがある。

＜ポイント⑪＞ 貧困家庭では多様な問題を抱えている

- 貧困家庭では、就労の問題、経済的問題、住居の問題、虐待の問題、障がいの問題等、多様な問題が絡みあっている。特に債務問題が大きい。
- 現在は制度や支援を利用し、なんとかバランスを保っているが、1つでも課題が増えた場合、非常に危うい状況に陥ることが容易に想像できるケースが少なくない。例えば、母子家庭で仕事が長時間労働のため体調を崩し仕事ができなくなって収入が減り、足りない生活費を借金し、その利息返済で多重債務となりかけたケースがある。
- 貧困の問題は、仕事の問題、経済的問題、健康問題、子どもの養育問題、子どもの不登校等、いろいろな問題が複雑に絡み合っている。白石市も、精神疾患の問題や子どもの食事等の生活環境の問題などを抱えているケースがある。

＜ポイント⑫＞ 地域で孤立、一人で問題を抱えて孤立化

- 近親者との関係が疎遠で孤立しているケースが多い。
- 母親が仕事で忙しいため、支援先を検討し、相談に行く時間を捻出できず、一人で問題を抱えている状態が長期化しているケースがある。
- 悩みに対し相談する相手がないケースがある。また、そもそも相談しようという気持ちがない保護者が比較的多い。
- 学校との関係、つながりから徐々に離れていくケースがある。
- 「自分だけがなんでこんなに苦勞する」という意識をもち、社会に対する批判が強い傾向にある。
- 市役所に対して、「私が相談に行っても、相談に乗ってくれない」と、すぐ諦めて相談しなくなるケースが多い。
- 保護者の思考として、「どうせ〇〇だから・・・」とすぐものごとを諦めたり、断念することが多いように感じられる。

<その他>

- 居住環境として、一般家庭よりゴミが多かったり、いろいろなものが片付いていないケースがある。
- 学校で使用する物がすぐ揃えられなかったり、欠席の連絡等の滞りや学校から電話をかけてもつながらないケースがある。
- 母親の帰宅まで父親が世話をする場合、子どもの愛着形成に問題がでてくるケースがある。
- (就職を考えていく場合) 今後の中長期に向けたライフ(生活)とキャリア(仕事経験)のプランが欠如している方が多い。

イ 子どもの特性・状況について

<ポイント①> 不規則な食事や入浴等の基本的な生活習慣が欠如

- 歯を磨いていないなど、生活習慣が身につけていないケースがある。
- 保護者が昼夜の就労を余儀なくされ、きょうだいのみで夜を過ごす時間が生じたり、子どもが親の生活に合わせて夜遅くまで起きていたり、親が先に仕事に行き、子どもが朝起きられずに遅れて登校するケースがある。
- 朝食を食べないで登校するケースがある。
- 全く食べさせてもらえないケースはほとんどないが、昨日ご飯がなかった、朝ごはんを食べていないという欠食のケースは、白石市に限らずそれなりにある。背景としては、保護者が忙しいケースや、体調が悪いケース、子どもがコンビニで食事をする習慣があるケース等、いろいろな状況がある。
- あいさつ等、年齢に応じたしつけができていないケースがある。
- 親の精神疾患により家事が十分に行えず、子どもの食事環境が不安定な状態の家庭がある。
- 保護者が朝早くから仕事に出かけ、朝食を子どもと一緒にとらないケースがある。
- 親が朝起きて、食事を作るというケースは少ない。

<ポイント②> 学習塾に行けない

- 塾に行けない子どもがいるが、最近ではアスイクに通っている。たぶんその子はアスイクがなければ、塾へも通えず、不登校でただ家に居るだけになっていたと思われるので、アスイクは非常に役立っていると思われる。

<ポイント③> 家が学習する環境にない

- 家に自分の部屋がない、小さい子がいっぱいいて落ち着いて勉強できない等、家で勉強をする環境がない。勉強意欲がないのではなく、勉強ができる環境や習慣がない。
- 他の自治体のケースでは、ゴミ屋敷となっている等、そもそもの居住環境がひどく、学習支援どころではないケースがあり、都市部より地方に多い印象がある。白石市では、現在のところみられていないが、今後はあると思っている。

＜ポイント④＞ 学力が劣る、学習意欲・自己肯定感に欠ける

- 子どもの学力が一般家庭より低い。
- 一般の子どもと比べて読み書きや計算等が劣るなど、授業の理解力が低いケースがある。
- 極度の低学力が比較的多くみられる。
- 学習習慣が身につけていないケースがある。
- 親が精神的な課題を抱え、子どもへの関わり方が難しく、勉強どころではないというケースがある。
- 貧困と思われる家庭では、子どもの学習意欲が低かったり、自己の将来像を描けなかったりするケースがある。
- 子どもが自己肯定感をもてなくなると、学習意欲がもてなくなることが多い。
- 自分に自信がなく、自己肯定感をもっていない生徒が多い。背景としては、不登校のことや家庭の問題等、複数のことが重なっていることが多い。

＜ポイント⑤＞ 高校卒業後は就職を希望、経済的理由による進学の見直し

- 就職を希望することが多いが、中には、資格をとるために専門学校を希望するケースがある。
- 経済的に苦しく、進学を見直すケースがある。
- 大学に対して憧れだけをもっていて、その裏付けとなる勉強をしない生徒がいる。
- 専門学校に行きたかったが、入学金がなくそのままずるずると家にいたケースがある。
- 大人になっても親への依頼心が強く、就労等自立につながりにくいケースがある。

＜ポイント⑥＞ 服が汚れている、臭いにおいがする

- 制服が汚れていたり、しわくちゃのハンカチや穴があいている靴等、清潔感がない子どものケースがある。
- 稀に子どもから変なおいがするケースがある。また、「臭い」と友達に言われ、不登校になったケースがある。
- 風呂に入っていないで、においがする子どものケースがある。
- 身だしなみが整っていない、風呂に入っていない、服を洗濯していないケースがある。

＜ポイント⑦＞ 不登校、家庭内暴力等の問題を抱える

- 父親や母親から虐待を受けたケースがある。
- 子どもが中学生頃からひきこもりとなり、不登校のケースがある。
- 不登校のケースが多くみられる。
- 過去に家庭内暴力で、シェルター等に一時避難し、その間学校にいけなくなり、それをきっかけに、学校の授業についていけなくなったケースがある。

＜ポイント⑧＞ 障がいを抱えている

- 子ども自身が発達障がい等、障がいを抱えているケースがある。
- 授業があまり理解できておらず、結果的に療育手帳の交付を受けることになったケースがある。

＜ポイント⑨＞ 友だちとの共通の体験機会・話題の欠如

- 学校が終わったら弟や妹の面倒をみなくてはいけない中学生がいて、特例的に部活に参加できないケースがある。
- お金がないので他の子どもと一緒に遊びに行けないケースや携帯電話を持っていないケース等がある。
- 費用負担のある学校行事に参加できなくなるケースがある。
- 貧困家庭は他の子どもと同様のことができない理由から、いじめのターゲットとされやすい。

＜ポイント⑩＞ 友だちとのコミュニケーションが苦手

- 友だちとのコミュニケーションの苦手なケースがある。
- 人間関係を築くことが難しいケースがある。
- 人とのコミュニケーションが苦手で、不安感をもったり、落ち着きがないケースがある。

＜ポイント⑪＞ 自分の家に居場所がない

- （アスクの学習活動への参加理由として）中には、家に居たくない子どもがいる。
- 小学生等の子どもや障がいをもっている子ども、また、親の暴力がみられる子ども等では、子どもの居場所・預け先を求める声がある。

＜ポイント⑫＞ 子どもが社会で生きていく基本的なことが身につけていない

- 小さい時に、保護者がきちんと教えるべき基本的なことを子どもに教えていないため、子どもが社会で生きていくための基本的なことが身に付いていない。

＜その他＞

- 学校の忘れ物が多いケースがある。
- 7～8年前に聞いた話として、あんパンを盗んだ子どもがいて、その理由を聞くと、2日間何も食べていないというケースがあった。このケースでは、保護者は出稼ぎで家におらず弟と2人暮らしで、水道もガスも電気も全部止まっている状態だった。
- 夜家にいなく、徘徊をしたり、毎日のように友だちと遊んでいる子どもや、家出して昨日は家にいなかったという子どものケースがある。
- ひとり親の子どもの場合、先生に対し極端に甘えたり、先生と全く離れて話ができないケースがある。
- 英語を習いたいと思っているのに塾に行っていない子どもや、少年野球に入りたいけど、入っていない子ども等を見ると、背景にひょっとして貧困があるのではないかと感じている場合がある。
- 奨学金を得て高校に通うが、仕事の賃金が安いので、償還するのに年数がかかるケースがある。

2) 貧困家庭を支援していく上での課題・困っていること

支援していく上での課題・困っていることとして、支援先を案内するだけでは、支援につながりにくい状況や、単一の機関・団体だけでは解決できない問題がある場合、紹介先・連絡先等に苦勞する状況などがみられることを把握しました。

<ポイント①> 支援先を案内するだけでは、支援につながりにくい

- 支援に関する案内パンフレットを見せても、どうしたらよいか本人自身はわからず、丁寧な説明がなければ、支援先に連絡しない保護者が多い。
- 保護者に制度等を説明しても、「うちは大丈夫だから」と支援を受け入れない保護者がいる。
- 今の状況でいいと考え、支援を求めない場合もある。
- 支援制度があっても、支援制度自体を知らなかったり、面倒くさがるケースがある。
- 役所や申請手続きに対し、面倒くさいという拒否感がある。

<ポイント②> 困っていることを相談できない、相談や連絡が途切れる

- 仕事等が忙しく、相談できない人がいる。
- 本人が連絡をして相談をしても、問題がうまく伝えられなかったり、相談先が対応することとは違う問題を相談したり、違う話にずれてしまう等相談が中断し、そのままになるケースがある。
- 家庭に問題があるにもかかわらず、本人自身が困っている自覚がなく、介入の仕方を間違えると、介入を拒むケースや関係が切れるケースがある。
- 時には保護者との連絡が途絶えることがあり、その場合は生徒を通しての連絡となり、十分な意思の疎通ができなくなることも多い。

<ポイント③> 単一の機関・団体だけでは解決できない問題がある場合、紹介先・連絡先等に苦勞する

- ハローワークだけでは解決ができないような問題を抱えている人がいた場合、どこに相談をもっていけばよいかについて一通りの情報をもっているが、紹介先に苦勞する場合がある。
- 白石市の場合、貧困家庭に問題があった時、連携して問題解決に当たる支援機関の数が少ない。特にNPO等、民間の連携先が少ない（仙台市を別にすると他の自治体で共通する問題ではある）。

<ポイント④> 滞納された学費の催促等に苦勞する

- 督促状を送付する場合があるが、それでも支払ってはもらえず、会計担当やクラス担任が電話でお願いをしたり、家庭訪問をしたりしている。

<その他>

- 生活保護や障がいに関わる話をすると、保護者がショックを受けて相談が中断するケースがある。
- 様々な制度を利用して金銭的な援助を行っても、その資金が子どもの教育に回らず、入金後、すぐに支払いの声をかけないと、他の生活資金として消えてしまうことがある。

3) 市として必要と考える対策について

市として必要と考える対策として、関係機関・団体との情報交換の場づくり等、関係機関・団体との連携強化による支援体制の必要性についての声がみられることを把握しました。

また、子どもの居場所づくり（子ども食堂含む）や、各種支援制度・相談窓口の情報提供、親の学びの充実等についての声がみられることを把握しました。

ア 子どもの貧困に関する支援体制について

<ポイント①> 関連する機関・団体との情報交換等の場の充実

- 他の機関等と情報交換する場が少ない。様々な相談の中から他機関と連携が必要と考えられる場合に、相談内容の情報の集約とともに、多職種が専門的な立場から話し合い、情報を活用できる場が必要。
- 特別な家庭に対応する要対協の特別なケースの情報ではなく、多職種の人が集まり、市の全体的な状況等が把握でき、情報共有できる場があればよい。
- 庁内部局と関係団体との連携会議を検討し、情報の共有を図ることが大切。

<ポイント②> 貧困家庭に対し、様々な関連機関と連携した問題解決の支援体制づくり

- 課題が複数にわたる場合、ニーズに合った支援団体とのケア会議を必要に応じて開催する等、チームとして関係機関が連携し、顔の見える関係をもった支援体制を築くことができれば、ニーズにマッチした包括的かつ長期的な支援が可能となる。
- 様々な機関から問題のある家庭とつながりがあると、貧困家庭との関係が切れないため、問題がある家庭に対し関係機関がチームとして関わることが重要。

<ポイント③> 関連する関係者への子どもの貧困に関する情報提供

- 白石市の子どもや貧困に関連した状況が知りたいので、地区の子どもの人数等の統計データやアンケート結果等の情報があれば提供してもらいたい。

<その他の支援>

- 家庭内の食料事情については、社会福祉協議会で把握していないため、実態把握が必要ではないかと思われる。
- アスイクではパートスタッフとボランティアスタッフの慢性的な不足が課題で、人材募集の周知方法等があれば教えてもらいたい。

イ 子どもへの支援について

<ポイント①> 子どもの居場所づくり（子ども食堂含む）

- 学校や児童館以外で、子どもが安心して過ごせる居場所やケアができる体制があればよい。都市部等でやっている「子ども食堂」はひとつの居場所にはなっている。
- 他の自治体に学習支援の様子を視察に行った時、学校から学習支援の場所に「ただいま！」と元気に帰ってきて、明るく楽しく過ごす姿が印象的で、ここでは子どもたちにとって、貧困に関係ない居場所があるのだと感じたので、そんな居場所があればいい。
- 「子ども食堂」は子どもの居場所づくりにもつながるため、また社会福祉協議会だけではできないため、市としての取り組みを検討していただきたい。
- 白石市で「子ども食堂」を取り入れた時にどうであろうか、という事をいろいろな面で考えている。ただし、「子ども食堂」が、貧困家庭の子どもたちが集まる場としてとらえられると、うまくいかないと思う。

<その他の支援>

- 子どものうちから、将来自立していくために必要とされる教育を受けられる支援が必要。
- 不登校の経験をもつ子どもへの勉強や社会との関係づくりの場（学びの場）があればよい。
- 白石市は面積が広く、ニーズがあっても物理的な距離があったり、仕事との兼ねあいで送迎ができない等、学習教室への送迎が難しい家庭の子どもに対する送迎サービス・送迎ボランティアがあればよい。

ウ 保護者への支援について

<ポイント①> 各種支援制度・相談窓口の情報提供や丁寧な説明等

- 各種の相談窓口があり、支援する制度は整っている中で、保護者が積極的に受け入れる姿勢があればいろいろと活用できるはず。問題解決をすぐあきらめたり、相談を断念する保護者がいる中で、根気強い積極的なアプローチや丁寧な説明、継続的フォローがなければ問題解決につなげにくい。今ある相談窓口や制度につなげられるよう、しっかりとサポートする人がいればよい。
- 市としてこれから、貧困家庭や児童に対しての支援をいろいろな形で考えていくと思うが、それを受ける側の家庭や児童が、抵抗なく支援を受けられる支援の案内（情報提供）の仕方やシステム、環境をつくってほしい。
- 学校に協力してもらい、個別面談の時に支援制度等について説明をしたり、乳幼児健診や予防接種時等にチラシ配布や話の機会を設ける。
- 支援の内容を一覧表として印刷物を作成し、配布する。
- 自治体側でも家庭訪問や申請方法の周知、より簡単な手続き等、一層の工夫をしてもらいたい。
- 住居確保の場合には、ここに相談すればいいとか、債務や資金相談の場合にはここに相談すればいいというように、分野毎に相談先がわかる案内パンフレットがあるといい。

＜ポイント②＞ 親の学びの充実

- ネグレクトまでではないものの、子どもの清潔感がない状況に対し保護者が自覚しておらず、このような家庭に対し、掃除・風呂・洗濯等の家事のやり方や子どもの歯のみがかせ方等、生活の衛生面のやり方から家庭を支援する勉強会等があればよい。
- 親の学びの場を中学校区より小学校区単位で行い、PTA 活動のやることの1つとして取り入れてやっていくとよい。
- 親は子どもの発達とともに、小さい頃から健診等で何らかの関係機関とのつながりがあるため、その場を利用した親の学びの場があるとよい。子どもの小さい時からの積み重ねで、「子どもの年齢に合わせた親の学び」をプランしていくことがよい。
- 単に経済的に支援するだけではなく、親や子どもに向けてどのようにすれば生活が向上していけるのかや、子育て環境のあり方等の学びも合わせて行っていく必要がある。親の学びとして、まずは親子間の関係づくりができていることが重要で、しっかりとした関係づくりができていると、子どもの意欲が育つ。

＜ポイント③＞ 服等のリサイクル支援

- 子どもが大きくなって着られなくなった服等のリサイクルをイベント開催時に以前実施していたのだが、何かの集まりの場に合わせて服等のリサイクルをやればよい。
- 学校生活に必要な制服やジャージ、部活用品が揃えられない家庭に対する部活用品等のリサイクル、制服バンク（就学援助では賄えない分）。

＜ポイント④＞ 経済的支援

- 生活費補助や医療・学費等の経済的支援。

＜その他の支援＞

- 母親たちと関係する機関・団体とが連携していくことが必要。母親同士の話の中で、貧困家庭の話が出てきた場合に、話をもっていきやすいように連絡先等を教えてもらいたい。どこに話をもっていったらいいかわからない場合がある。
- 貧困家庭かどうかを見極める上で、例えば、こういうケースの場合注意して見守ってほしいというような具体例を市から提示してもらいたい。
- 個人情報との関係で難しいのかもしれないが、今後貧困家庭を民生委員として見守り等で支援していく上で、家族構成などの基本情報がほしい。
- 同じ悩みをもつ保護者同士の集い。
- 飲食代無料のサロン（ピアカウンセリングの場となれば、より良い）。
※ピアカウンセリングとは、相談者の仲間（ピア）として話を聞き、自立生活に向けた支援等を行うこと。
- 生活がいったいいっばいで家事のことができない家庭や、精神疾患で家事ができない家庭に対する、家事支援サービスのボランティア団体によるサポートの促進。
- 子どもの心のケアハウスを、年に1回、教員向けでもよいのでチラシ配布する等、もっとPRしてほしい。
- 平日の昼間だけでなく、夜や土日等に相談できるようにする等、その家庭に合わせた支援の考え方や体制がなければ、問題解決につながらないと思う。

4) その他の意見等

<その他の意見等>

- 現状の生活の不安定さに対する問題意識の低さが、貧困から抜け出せない原因の1つと考えている。
- 様々な機関が連携し、将来の自分を描けるよう、子どもの自立心を育てていく関わりをもつことが大切と考える。
- 子どもたちには、地域社会の中で皆様の見守りや支えにより、人への信頼、人の温かさを感じながら、心豊かに主体的に育てほしいと願う。
- 貧困家庭と思われる状況の把握と保護者への対策だけでなく、今置かれている家庭環境を子どもがどう思っているか、夢や希望が実現できる環境なのか等を見極めることが必要。
- 全国でも児童の7人に1人が貧困児童であり、白石市でも同程度かそれ以上であるような状況を知り、子どもの育ちの環境によって、学びや生活経験の格差は大きいと感じている。

白石市子どもの貧困対策実態調査【結果報告書】

平成 30 年 3 月発行

白石市 子ども家庭課

〒989-0292 宮城県白石市大手町1番1号

TEL : 0224-22-1363 FAX : 0224-22-1316
